

SYLLABUS

2023 年度 春学期

2年次

青森公立大学

経営経済学部

教員メールアドレス一覧

専任教員		専任教員	
氏名	E-mailアドレス	氏名	E-mailアドレス
<p>教員メールアドレスは、 事務局前に配置しますので 各自受領してください。</p>			

目 次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ	
アカデミック・コミュニケーション	English Presentation I	(2)	選必	香取 真理	1	
				ラウシュ アンソニー	4	
	Public Speaking I	(2)	選必	エシアナ ベネス	7	
				ラウシュ アンソニー	11	
	Writing as a Social Act I	(2)	選必	小野寺 進	14	
				成田 芙美	17	
	Essay Writing I	(2)	選必	香取 真理	20	
				丹藤 永也	23	
	Active Reading Business Genres I	(2)	選必	成田 芙美	26	
				堀江 洋文	29	
	English Grammar and Usage I	(2)	選必	江連 敏和	32	
	Intercultural Reading	(2)	選必	堀江 洋文	35	
	Understanding Business Meeting	(2)	選必	エシアナ ベネス	38	
ロシア語会話	(2)	選択	トルストグーゾフ.A	41		
韓国語会話	(2)	選択	李 恵慶	44		
中国語会話	(2)	選択	呉 蘭	47		
プレゼンテーション	(2)	選択	植田 栄子	50		
教養科目	哲学 I	(2)	選必	大森 史博	53	
	人間の歴史	(2)	選必	荷見 守義	56	
	憲法概論	(2)	選必	(調整中)	59	
	地球科学	(2)	選必	三浦 英樹	62	
	宇宙科学	(2)	選必	市村 雅一	65	
	健康と医療	(2)	選必	長岡 朋人	68	
	科学技術と社会 I	(2)	選必	長岡 朋人	71	
	教養特殊講義 I	(2)	選択	横手 一彦	74	
キャリア教育科目	自治行政政策論	(1)	選必	青森県職員 ほか	78	
	事業論 I	(1)	選必	【非開講】	—	
専門科目	経営学科	経営戦略論 II	(2)	選必	小林 哲也	79
		マネジメント論 II	(2)	選必	小林 哲也	82
		財務会計論 II	(2)	選必	金子 輝雄	97
		マーケティング論 I	(2)	選必	行本 雅	85
		人事管理論 I	(2)	選必	中川 宗人	88
		管理会計論 I	(4)	選必	加藤 恵吉	91
		財務分析 I	(2)	選必	長谷川 美千留	94
		経営史	(2)	選択	【非開講】	—
		市場調査論	(2)	選択	行本 雅	99
		マクロ経済学 【他学科展開科目】	(4)	選択	巽 一樹	102
		財政学 【他学科展開科目】	(4)	選択	木立 力	112

目 次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ	
専門科目	経済学科	マクロ経済学	④	必修	巽 一樹	102
		統計学	(4)	選必	七宮 圭	106
		応用ミクロ経済学	(4)	選必	河野 秀孝	110
		財政学	(4)	選必	木立 力	112
		経済特殊講義 I	(2)	選択	高柳 友彦	116
		ゲーム論	(2)	選択	森 統	119
		財務会計論Ⅱ 【他学科展開科目】	(2)	選必	金子 輝雄	97
		マーケティング論Ⅰ【他学科展開科目】	(2)	選択	行本 雅	85
		管理会計論Ⅰ 【他学科展開科目】	(4)	選択	加藤 恵吉	91
		財務分析Ⅰ 【他学科展開科目】	(2)	選択	長谷川 美千留	94
	地域みらい学科	経済学基礎論a	④	必修	河野 秀孝・樺 克裕	135
		会計学基礎論a	④	必修	池田 享誉	131
		地域企業論Ⅰ	(2)	選必	生田 泰亮	122
		自治体経営論	(2)	選必	遠藤 哲哉	125
		地域社会論Ⅰ	(2)	選必	佐々木 てる	128
		マーケティング論Ⅰ【他学科基幹科目】	(2)	選必	行本 雅	85
		経営戦略論Ⅱ 【他学科基幹科目】	(2)	選必	小林 哲也	79
		マネジメント論Ⅱ 【他学科基幹科目】	(2)	選必	小林 哲也	82

【注1】自分が履修するクラスの担当教員ページを確認してください。

2020年度及び2021年度入学生へ(学籍番号の上位4桁が「1200～」 「1210～」で始まる学生)

(1)「財務会計論(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「財務会計論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「財務会計論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(2)「管理会計論(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「管理会計論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「管理会計論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

2019年度以前入学生へ(学籍番号の上位4桁が「1170～」 「1180～」 「1190～」で始まる学生)

(1)「科学技術と社会(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「科学技術と社会Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「科学技術と社会Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(2)「金融経済学(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「金融経済学Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「金融経済学Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(3)「財務会計論(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「財務会計論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「財務会計論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(4)「管理会計論(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「管理会計論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「管理会計論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

2019年度以前入学生へ(学籍番号の上位4桁が「1170～」 「1180～」 「1190～」で始まる学生)

(5)「哲学 I」は、2019年度以前入学生カリキュラム「哲学」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「哲学 I」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

(6)「地球の科学(4単位)」の履修について

①春学期開講の「地球科学」と「宇宙科学」の両方を履修登録すること。

②「地球科学」と「宇宙科学」を総合して成績評価を行う。

③成績評価は同一年度・同一学期内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※片方のみを履修しても、評価の対象にはなりません。

(7)「Public Speaking I」は、2019年度以前入学生カリキュラム「Public Speaking and Interaction I」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「Public Speaking I」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

(8)「Essay Writing I」は、2019年度以前入学生カリキュラム「Academic Writing I」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「Essay Writing I」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

(9)「Intercultural Reading」は、2019年度以前入学生カリキュラム「Business Communication Across Cultures」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「Intercultural Reading」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

[科目名] English Presentation I	[単位数] 2 単位	[科目区分] ACB
[担当者] 香取 真理	[オフィス・アワー] 時間: 授業の開始時に提示 場所: 606 研究室	
[科目の概要] <p>English Presentation I is intended for low-intermediate students and focuses on giving presentations about everyday experiences. The aim of this course is to offer students an opportunity to develop the important life skill of speaking clearly and effectively about a topic of interest to an audience. Through this course, student can learn and practice some effective ways to give English presentations. Additionally, this course also covers other issues like body language, visuals, specific structures and how to describe graphs or charts. During this course, every student should give short English presentations usually five times.</p>		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] <p>In our globalized world, effective English presentation skills are becoming increasingly important for success – academically, professionally, socially, and personally. Whether in a classroom or a conference room, the ability to compose and convey a message clearly and persuasively to an audience of people in English can be a key to success. Nowadays, even in Japan, in some companies, it is also becoming natural to have to give presentations in English. For student, making a presentation in English might be difficult. However, learning and practicing the effective way to give presentations in this course, student will acquire and build their skills and confidence to present successfully. It will help student’s further growth in both English and Japanese presentations.</p>		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] <p>The emphasis of this course is providing students with the skill to give presentations effectively in English. At the end of this course, students should be able to make an effective English presentation as a low- intermediate English learner.</p>		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <p>The various components of this course will be introduced, based on the student’s progress in class.</p>		

<p>〔教科書〕 <i>Present Yourself 1(second edition)</i>, by Steven Gershon 著 Cambridge University Press 978-1-107-43563-6</p>	
<p>〔指定図書〕 to be announced</p>	
<p>〔参考書〕 to be announced</p>	
<p>〔前提科目〕 なし</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>Students will be graded on participation, reports, presentations, and examination results.</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>A=80% or more B=70-79%, C=60-69%, D=50-59%, F=less than 50%</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. During this course, students should give English presentations. 2. Students should come to every class with energy and a willingness to work and learn. <p>The teacher has much to share with you and offer you ample opportunities for practice and will try best to help you gain confidence and competence to make an effective English presentation.</p>	
<p>〔実務経歴〕</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): Course orientation 内 容: introduction : opening a presentation</p> <p>教科書・指定図書 Introduction & Unit “Getting ready”</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): Making effective note card. 内 容: Describing a friend’s personality, interests, and activities</p> <p>教科書・指定図書 Unit 1</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): Using eye contact to connect with an audience 内 容: Completing an activities survey about classmates</p> <p>教科書・指定図書 Unit 1</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Giving a short presentation 内 容: A good friend</p> <p>教科書・指定図書 Unit 1</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Making gestures for descriptions 内 容: Talking about favorite places</p> <p>教科書・指定図書 Unit 2</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Using body language, posture and hand position 内 容: Talking about activities people do in their favorite places</p> <p>教科書・指定図書 Unit 2</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Giving a short presentation 内 容: A favorite place</p> <p>教科書・指定図書 Unit 2</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Showing an object to an audience 内 容: Describing prized possession</p> <p>教科書・指定図書 Unit 3</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Using show-and-tell expressions 内 容: Explaining the history and use of a possession</p> <p>教科書・指定図書 Unit 3</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Giving a short presentation 内 容: A prized possession</p> <p>教科書・指定図書 Unit 3</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Projecting your voice, speaking clearly and avoiding fillers 内 容: Describing a memorable experience</p> <p>教科書・指定図書 Unit 4</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Using stress to emphasize intensifiers 内 容: Setting the scene and using time expressions to describe an experience</p> <p>教科書・指定図書 Unit 4</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Giving a short presentation 内 容: A memorable experience</p> <p>教科書・指定図書 Unit 4</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Making gestures for actions 内 容: Demonstration how to do or make something</p> <p>教科書・指定図書 Unit 5</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Checking understanding when giving instructions 内 容: Presenting the materials you need and giving instructions</p> <p>教科書・指定図書 Unit 5</p>
試験	Final Test

〔科目名〕 English Presentation I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 Anthony Rausch	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕
〔科目の概要〕 To have the skills to create a meaningful and professional academic presentation about a topic of their choice.		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 The course consists of reading the textbook and evaluating the samples in the textbook, while also making their own presentation. The creation of the final presentation is student-centered work.		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕		
〔教科書〕 Your First Speech and Presentation		
〔指定図書〕		
〔参考書〕		
〔前提科目〕		

なし	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>The grades will be based on attendance, homework, optional homework and the Student's Final Presentation.</p>	
〔評価の基準及びスケール〕	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
〔実務経歴〕	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): Course Introduction</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書 We will look at the textbook.</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): Textbook Reading and begin Practical View of Making a Presentation</p> <p>内 容: Unit 1 and Unit 2 and Appendix Materials on making a presentation</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): Textbook Reading and begin Practical View of Making a Presentation</p> <p>内 容: Unit 3 and Unit 4 and Appendix Materials on making a presentation</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): Textbook Reading and begin Practical View of Making a Presentation</p> <p>内 容: Unit 5 and Unit 6 and Appendix Materials on making a presentation</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): Textbook Reading and begin Practical View of Making a Presentation</p> <p>内 容: Unit 7 and Unit 8 and Appendix Materials on making a presentation</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): Textbook Reading and begin Practical View of Making a Presentation</p> <p>内 容: Unit 9 and Unit 10 and Appendix Materials on making a presentation</p> <p>教科書・指定図書</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): Textbook Reading and begin Practical View of Making a Presentation 内 容: Unit 11 and Unit 12 and Appendix Materials on making a presentation</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): Textbook Reading and begin Practical View of Making a Presentation 内 容: Unit 13 and Unit 14 and Appendix Materials on making a presentation</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Textbook Reading and begin Practical View of Making a Presentation 内 容: Unit 15 and Unit 16 and Appendix Materials on making a presentation</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Textbook Reading and begin Practical View of Making a Presentation 内 容: Unit 17 and Unit 18 and Appendix Materials on making a presentation</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 内 容: Unit 19 and Unit 20 and Appendix Materials on making a presentation</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Individual Advising on Making Presentations 内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Individual Advising on Making Presentations 内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Individual Advising on Making Presentations 内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Individual Advising on Making Presentations 内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	Submission and Review of Individual Presentations

[科目名] Public Speaking 1	[単位数] 2 単位	[科目区分] ACB
[担当者] Benneth Esiana	[オフィス・アワー] 時間: to be confirmed 場所: 602	[授業の方法] Lecture, demonstration, roleplay
[科目の概要] <p>The module is designed to provide a step-by-step guide to oral communication in English. It aims to familiarise students with the basic principles of public speaking, taking them through the various processes of speech preparation, beginning from selection of topic and purpose, speech composition to eventual delivery of speech. It employs a communicative, task-based approach to guide learners to apply theoretical principles in practical settings in order to develop hands-on experience. Emphasis is given to the use of non-verbal communication as well as techniques for engaging the audience, overcoming speech anxiety, and boosting self-confidence in public speaking. During the course of the module, students are expected to work individually, in pairs, and in groups, as dictated by the nature of the activity, to complete meaningful exercises and tasks. Please be advised that the module is taught almost entirely in English, therefore it is ideal for students at an intermediate to high-intermediate level of English.</p>		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] <p>Proficiency in public speaking/presentation is an indispensable skill in this day and age, given its wide-ranging applications in personal, professional, and social/public settings. The module presents students with the opportunity to create their own authentic presentations/speeches by providing them with the necessary tools to do so, whilst also encouraging them to draw upon their own interests, experiences, and beliefs to augment and to bring more meaning into their work. Learners will engage in meaningful practises through class tasks and/or exercises to study various skills for speech, identify and analyse sample speeches and how to apply them in one's own speech. Furthermore, students will learn that public speaking is not simply a one-way sharing of information but a two-way reciprocal exchange of information where both the speaker and audience are equally involved.</p>		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] <p>Throughout this module, students will observe improvements in their communication skill in English, and by the end of the course, they should be able to prepare and deliver a speech/presentation in public on their desired topic.</p>		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <p>The various components of the module will be introduced based on the students' progress in class.</p>		
[教科書] Dynamic Presentations, by Michael Hood, Kinseido, ISBN: 978-4-7647-4029-7		
[指定図書] Not applicable		
[参考書] Not applicable		

〔前提科目〕

None

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Students will be assessed through the following methods:

- Mandatory assignment(s)
- Mandatory test(s)
- In-class activities (e.g., short presentations/speeches)
- Final project (extended presentation/speech)
- Others (attendance)

〔評価の基準及びスケール〕

A = 80% or more

B = 70 – 79%

C = 60 – 69%

D = 50 – 59%

F = 49% or less

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

- Students are expected to attend class with the desire to learn.
- They must actively participate in all aspect of the lesson.
- An expectation for students to complete all assigned tasks, assessed or otherwise, in class or at home (self-study)

The instructor will support students throughout the course by providing a conducive learning environment where students, regardless of their skill/ability, will be able to improve in one form or another.

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): Identifying purpose 内容: - Importance of Public Speaking/Ethics - Outlining / Using a Dictionary - Working in Pairs & Groups 教科書・指定図書 Unit1: Good speeches, good speakers
第2回	テーマ(何を学ぶか): Self Introduction - Describing 内容: - Elements of Introduction - Making Eye Contact 教科書・指定図書 Unit 2: Introduce Yourself
第3回	テーマ(何を学ぶか): Introducing Others - Describing 内容: - Descriptive Details - Maintaining Posture 教科書・指定図書 Unit 3: Someone You Should Know

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking About Places - Describing</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Brainstorming & Clustering - Using Gestures <p>教科書・指定図書 Unit 4: Have You Ever Been There</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking About Places - Explaining</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Transitions & Connectors - Enunciating <p>教科書・指定図書 Unit 5: How to Make a Spectacular Dish</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking About the Past - Informing</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Audience Analysis - Brainstorm WH - Questions - Projecting <p>教科書・指定図書 Unit 6: Let Me Tell You What Happened</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking About Current Events - Informing</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Selecting Details - Facts & Opinions - Pacing <p>教科書・指定図書 Unit 7: In the World Today</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Causes of Problems - Explaining</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Explaining Causes - Expressing <p>教科書・指定図書 Unit 8: Cause and Consequences</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Future Plans - Explaining</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Explaining Reasons - Repetition <p>教科書・指定図書 Unit 9: What Dreams May Come</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Comparison and Contrast - Explaining</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Using Examples - Patterns of Organisation - Simple Language <p>教科書・指定図書 Unit 10: For Example</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Point and Counterpoint - Persuading</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Patterns of Organisation - Active Voice <p>教科書・指定図書 Unit 11: Make a Stand; Hold Your Ground</p>

第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Problem Solving - Persuading</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Evaluating Evidence - Patterns of Organisation - The Rule of Three <p>教科書・指定図書 Unit 12: Measuring Solutions; Solving Problems</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Statistical and Visual Support - Various</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Creating Visual Aids - Using Statistics - Appealing to Character <p>教科書・指定図書 Unit 13: Lies and Statistics</p>
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Presenting a Position - Persuading</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Using Quotations - Appealing to Emotions - Using Visual Aids <p>教科書・指定図書 Unit 14: Picture This</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Mediating Conflict - Persuading; Policy Presentation - Persuading</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Finding Information - Patterns of Organisation - Mediating - Elements of the Conclusion - Evaluating Information - Concluding - Preparing for Questions (Impromptu Speaking - Various) - Answering Questions - Avoiding Plagiarism <p>教科書・指定図書 Unit 15: Common Ground; & Unit 16: Conclusion</p>
試 験	Final Assessment (presentation/speech)

[科目名] Public Speaking I	[単位数] 2 単位	[科目区分]
[担当者] Anthony Rausch	[オフィス・アワー] 時間: 場所:	
[科目の概要] To be able to speak in conversation and in mini-presentation about various topics.		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか]		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] The course consists of reading aloud various examples of conversations and mini-presentations about various topics. With the practice, students will then create their own conversations and mini-presentations.		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]		
[教科書] Communication Upgrade		
[指定図書]		
[参考書]		
[前提科目] なし		
[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等)		

The grades will be based on attendance, homework, optional homework and a final test.

〔評価の基準及びスケール〕

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): Course Introduction 内 容: 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): Uniforms 内 容: Talking about Uniforms 教科書・指定図書 Unit 1
第3回	テーマ(何を学ぶか): Cram Schools 内 容: Talking about Cram Schools 教科書・指定図書 Unit 2
第4回	テーマ(何を学ぶか): University Life 内 容: Talking about University Life 教科書・指定図書 Unit 3
第5回	テーマ(何を学ぶか): Your Health 内 容: Talking about Health 教科書・指定図書 Unit 4
第6回	テーマ(何を学ぶか): Media 内 容: Talking about Media Resources 教科書・指定図書 Unit 5
第7回	テーマ(何を学ぶか): Explanations 内 容: Talking about how to make explanations 教科書・指定図書 Unit 6
第8回	テーマ(何を学ぶか): the Environment 内 容: Talking about the Environment 教科書・指定図書 Unit 7
第9回	テーマ(何を学ぶか): Priorities 内 容: Talking about Social Priorities 教科書・指定図書 Unit 8

第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Globalization 内 容: Talking about Globalization versus Local Economy</p> <p>教科書・指定図書 Unit 9</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Books and Movies 内 容: Talking about Media Products</p> <p>教科書・指定図書 Unit 10</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Safe Society 内 容: Talking about a Safe Society</p> <p>教科書・指定図書 Unit 11</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Vacations 内 容: Talking about Vacation Preferences</p> <p>教科書・指定図書 Unit 12</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Review of the Textbook 内 容:</p> <p>教科書・指定図書 All Units</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Review of the Textbook 内 容:</p> <p>教科書・指定図書 All Units</p>
試験	<p>Test on speaking and making mini-presentations about the contents of the Textbook.</p>

[科目名] Writing as a Social Act I	[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモンベークス
[担当者] Susumu Onodera 小野寺 進	[オフィス・アワー] 時間: 場所:	[授業の方法] 演習方式 susumu@hirosaki-u.ac.jp
[科目の概要] The purpose of this course is to enhance students' writing abilities of English and to build up specific English vocabulary and phrases that will help them in their working lives after graduation. Students will practice how to write an English essay. The goal of the class is to facilitate English improvement while generating student enthusiasm.		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] Writing is one of the most important skills for learning English. Improving your writing skill will serve to develop your English abilities. Active writing is necessary for students who would like to present their opinions and thoughts to customers and clients. Through this writing course, students are able to practice reading skill.		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] The goal of this course is to enhance students' basic writing abilities. Besides, students will build up their vocabulary in English and acquire its related knowledge.		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The teacher will make an effort to meet the students' needs, based on their progress in class.		
[教科書] <i>Skills for Better Writing</i> <Basic>, Yumiko Ishitani 著 南雲堂 (978-4-523-17911-5)		
[指定図書] To be announced.		
[参考書] To be announced.		
[前提科目] なし		
[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等) Students will be graded on the scores of review tests and end-of-term examination results.		

〔評価の基準及びスケール〕

A=80% or more
 B=70-79%
 C=60-69%
 D=50-59%
 F=Less than 50%

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

Students should attend every class with preparation for a unit.
 The teacher has to do his best to offer students wonderful opportunities for develop their English skills and to give them confidence in writing English.

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation and introduction 内 容: How to write an essay in English: learn about using dictionaries. 教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic>
第2回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch.1 Conclusions/Reasons 教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic>
第3回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 2 Social Phenomenon 教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic>
第4回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 3 Result/Cause 教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic>
第5回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 4 Several Explanations 教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic>
第6回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 5 Comparison 教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic>
第7回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 6 For and Against 教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic>
第8回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 7 Classification 教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 8 History</p> <p>教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic></p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 9 Process</p> <p>教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic></p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 10 Cause and Effect</p> <p>教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic></p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 11 Definition of a New Word</p> <p>教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic></p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 12 Research</p> <p>教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic></p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 13 New Products</p> <p>教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic></p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Ch. 14 Reading Graphs</p> <p>教科書・指定図書 <i>Skills for Better Writing</i> <Basic></p>
試験	<p>Examination: Writing an essay.</p>

[科目名] Writing as a Social Act I	[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン・ベーシックス
[担当者] 成田 芙美 Narita Fumi	[オフィス・アワー] 時間: to be announced 場所: Room 609	[授業の方法] 講義
[科目の概要] This course helps students to further improve in writing skills. Students are expected to write as many correct English sentences as they can on familiar topics. In each class, they will learn many practical words and phrases through the model sentences in the text. Exercises in composition will also help them. Then they will be required to write about their daily lives. Interactive activities, both among students and between teacher and students, will often be encouraged.		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] For better communication in an international society, it is a great advantage to develop clear English writing skills. With the successful use of these skills, students can make themselves understood in written English. Practice in writing skills also encourages the well-balanced development of students' English ability. In-class activities will prepare students for writing in various situations, helping to make them more confident of their writing skills.		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] Students are expected to be able: 1. to increase vocabulary. 2. to use correct English to make themselves understood more clearly. 3. to write about themselves more fluently.		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The teacher will try her best to offer the students whatever is necessary to improve their writing ability. These needs and the students' progress will be carefully monitored through various class activities and tests. The rate of progress may change the class schedule shown on the following pages.		
[教科書] Hiroyuki Tomi, Gordon Bateson, <i>English Writing Using Everyday Expressions: A Practical Approach to Understanding English Sentence Structure</i> (Asahi Press, 2008) ISBN: 978-4-255-15456-5		
[指定図書] None		
[参考書] To be announced when and if it is necessary		
[前提科目] None		

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Evaluation will be based primarily on assignments and tests to be completed during class. Performance on homework is also important. In addition, extra points may be awarded for the completion of optional tasks.

〔評価の基準及びスケール〕

100-80% = A, 79-70% = B, 69-60% = C, 59-50% = D, 49% and lower = F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

Students who practice the following can expect higher grades.

1. Prepare for every class by determining the areas one finds difficult to understand, and thus be able to ask the teacher or other students useful questions during class.
2. Attend every class. Assignments and tests will be completed during class sessions.
3. Revise after class the words and phrases one has learned.

Students must bring English-Japanese and Japanese-English dictionaries to class for use in assignments.

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): Orientation 内 容: What is the aim of this course? What will you write? What is important or necessary in this class? 教科書・指定図書 Chapter 1
第2回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Daily Life 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 2
第3回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Campus Life 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 3
第4回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Music 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 4
第5回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Studies 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 5
第6回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Newspapers and Magazines 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 6
第7回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Shopping 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 7

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): Composition on Eating Out 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 8</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Composition on Sports and Watching Sporting Events 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 9</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Composition on Computers 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 10</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Composition on Telephone 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 11</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Composition on Traveling Abroad 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 12</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Composition on Movies 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 13</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Composition on Cars 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 14</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Composition on Health and Exercise 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 15</p>
試験	

[科目名] Essay Writing I (エッセイ ライティング I)	[単位数] 2 単位	[科目区分] ACB
[担当者] 香取 真理	[オフィス・アワー] 時間:to be announced 場所:#606	[授業の方法]
[科目の概要] <p>Essay writing in English may be different not only from essay writing in Japanese, but even from other writing in English. This course is designed to take college-level students with an intermediate ability in English as a foreign language from paragraph writing through essay writing. During this course, students will have many opportunities to learn how to organize topics, write cohesive paragraphs, and organize them into clear, logical expository compositions. The focus throughout is on academic writing — the type of writing used in college courses and exams in English-speaking institutions of higher learning.</p> <p>この授業では、英文パラグラフの構造を学び、paragraph writing から Essay writing へ繋がります。</p>		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか] <p>Writing is a skill and a particularly important part of studying English. The more you practice, the better you will be. During this course, students will have opportunities to study and discuss examples of English academic writing. Students will also have many opportunities to discuss their own writing and the writing of their classmates. Additionally, students will learn how important the reader is to the writer and how to express clearly and directly what you mean to communicate. Although this is a writing course, students practice their reading and analytical skills as they progress through this course.</p> <p>英文パラグラフやエッセイの構造を知るとは、リーディングにも役立ちます。また多くの英文エッセイ・レポートに触れることにより、分析力の向上にも繋がります。</p>		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] <p>At the end of this course, students should be able to write a structured essay in English.</p>		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <p>The various components of this course will be introduced, based on the student's progress in class.</p>		
[教科書] <i>Essential Writing 1 From Sentence to Paragraph</i> by Jethro Kenney 金星堂 : 9784764741805		

〔指定図書〕 to be announced	
〔参考書〕 to be announced	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Students will be graded on attendance, participation, quizzes, reports, and final exam. Additionally, students are expected to produce original essays. Simply copying examples will not result in a passing grade.	
〔評価の基準及びスケール〕 A=80% or more B=70-79%, C=60-69%, D=50-59%, F=less than 50%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 1. Students should come to every class with energy and a willingness to work and learn. 2. Students should hand in every report and essay. The teacher offers you ample opportunities for practice and will try best to help you gain confidence in writing academic prose.	
〔実務経歴〕	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Building the sentence 内 容: Course orientation and introduction Complete sentence 教科書・指定図書 Introduction & Unit 1
第2回	テーマ(何を学ぶか): Combining sentences 内 容: Simple and compound sentences Sentences problems 教科書・指定図書 Unit 2
第3回	テーマ(何を学ぶか): Building the paragraph (1) 内 容: the topic sentence The concluding sentence 教科書・指定図書 Unit 3
第4回	テーマ(何を学ぶか): Building the paragraph (2) 内 容: Supporting sentences Structure of a paragraph 教科書・指定図書 Unit 4

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): Approach to writing 内 容: Process vs Product</p> <p>教科書・指定図書 Extra: part 1</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): Formatting your document 内 容: Formatting a document</p> <p>教科書・指定図書 Extra: part 2</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): The process Paragraph (1) 内 容: Outlining main steps and supporting details Time-order words</p> <p>教科書・指定図書 Unit 5</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): The process paragraph (2) 内 容: Highlighting important details Getting the reader's attention</p> <p>教科書・指定図書 Unit 6</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): The descriptive paragraph (1) 内 容: Adjective types More descriptive adjectives</p> <p>教科書・指定図書 Unit 7</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): The descriptive paragraph (2) 内 容: Using adjectives effectively Creating a detailed image</p> <p>教科書・指定図書 Unit 8</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): The narrative paragraph (1) 内 容: Talking about past experiences and events Connecting events and focusing the reader</p> <p>教科書・指定図書 Unit 9</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): The narrative paragraph (2) 内 容: Descriptions in the narrative paragraph Quoting dialogue with direct and indirect quotes</p> <p>教科書・指定図書 Unit 10</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): The opinion paragraph (1) 内 容: Introducing an opinion Convincing your reader</p> <p>教科書・指定図書 Unit 11</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): The opinion paragraph (1) 内 容: Opposing opinions Opinions not preferences</p> <p>教科書・指定図書 Unit 11</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): The opinion paragraph (2) 内 容: Logical ordering, irrelevant sentences Concluding a paragraph</p> <p>教科書・指定図書 配布資料</p>
試験	Final exam

〔科目名〕 Essay Writing I	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 アカデミック・コモンベ シックス
〔担当者〕 丹藤 永也 TANDO Hisaya	〔オフィス・アワー〕 時間: オフィス・アワーは授業の開始時に提示 場所: 621	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 This course is designed for intermediate and upper-intermediate students who hope to build a solid writing ability through essay-writing. At the beginning of the course students are going to review the elements of good paragraph writing and then learn key notions of various types of essays. Finally, students will be given opportunities to write their own essays on a range of topics. By the end of the course, students will acquire how to write good essays in a coherent and articulate way.		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 Learning essay writing is an essential skill on not only university research but also modern business situations. Indeed, with changes in information technology written communication has been used more than ever before. To master rhetoric, grammar, paragraph organization, and mechanics with writing process will lead students to good English writers. Writing ability acquired through essay -writing in this course will be surely useful in laying out ideas coherently on academic papers, reports, presentations, and so on.		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 By the end of this course, students will be able to write a structured essay in English.		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 The improvements of this course are below: <ol style="list-style-type: none"> 1. The teacher should proceed classes at an appropriate pace to encourage students understanding of the classes. 2. The teacher should solve students' problem and advise them both in class and through office hour. 3. The teacher should give students feedback to improve students' English ability. 		
〔教科書〕 <i>Skills for better Writing (Basic), by Yumiko Ishitani, NAN'UN-DO (南雲堂),</i> <i>ISBN 978-4-523-17911-5</i>		

<p>〔指定図書〕 To be announced</p>	
<p>〔参考書〕 To be announced</p>	
<p>〔前提科目〕 None</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>Daily class performance: 50% (This may include writing activities, quizzes, homework, reports, attendance, and so on.) Final Test: 50% (In addition to the above, some points will be added when you submit a certificate of Really English.)</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>In principle: A = 100—80%, B = 79—70%, C = 69—60%, D = 59—50%, F = 49% —</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p><u>Four Important Rules</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Preview and review every class. 2. Attend every class and don't be late. 3. Hand in every homework assignment. 4. Make sure to bring your dictionaries (English-Japanese and Japanese-English) or an electronic dictionary 	
<p>〔実務経歴〕 該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): Conclusion / Reasons 内 容: A: Are schools necessary? B: Should university entrance examinations be kept? 教科書・指定図書 Unit 1</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): Social Phenomenon 内 容: A: Aging society, aging drivers B: The number of books is declining 教科書・指定図書 Unit 2</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): Result / Cause 内 容: A: Adults in Japan become younger B: Why is English the world language now? 教科書・指定図書 Unit 3</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): Several Explanations 内 容: A: Why did the dinosaurs die out? B: Nazca Lines 教科書・指定図書 Unit 4</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): Comparison 内 容: A: Oxford and Cambridge B: Tokyo University and Kyoto University 教科書・指定図書 Unit 5</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): For and Against 内 容: A: Should Japan accept September admission? B: Should we accept English as an official language? 教科書・指定図書 Unit 6</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): Classification 内 容: A: TV dramas B: TV programs 教科書・指定図書 Unit 7</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): History 内 容: A: Uchimura Kohei B: Ichiro 教科書・指定図書 Unit 8</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Process 内 容: A: How to make "sukiyaki" B: How to make Japanese curry rice 教科書・指定図書 Unit 9</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Cause and Effect 内 容: A: The effect of World War II B: The effect of the Battle of Sekigahara 教科書・指定図書 Unit 10</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Definition of a New Word 内 容: A: You Tuber B: Power Spot 教科書・指定図書 Unit 11</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Research 内 容: A: The record number of single fathers in the US B: Acne is a nuisance for young people 教科書・指定図書 Unit 12</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): New Products 内 容: A: Musio X B: Hellopika 教科書・指定図書 Unit 13</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Reading Graphs 内 容: A: Children study harder with encouragement B: The number of children in a household is decreasing 教科書・指定図書 Unit 14</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Essay Writing 内 容: Autobiography 教科書・指定図書</p>
試験	筆記試験(60分)

[科目名] Active Reading Business Genres I	[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン・ベーシックス
[担当者] 成田 芙美 Narita Fumi	[オフィス・アワー] 時間: to be announced 場所: Room 609	[授業の方法] 講義
[科目の概要] This course will focus on intensive reading. Students will learn various practical skills to read English precisely, reading interesting essays which illuminate the close relationship between economics and daily life. In each class, the grammatical structure of the sentences and meaning of the words in context will be dealt with. In addition, students will be trained to find the key words and key sentences to understand the main ideas clearly. In order to check misreading and to correct errors, interactive activities will be encouraged among students as well as between the teacher and the students.		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] Today English is the main international language. It is true that people can gain a wide range of information by using it, but this course strives to give students more than that. With greater skill in reading comprehension, they will be able to avoid misleading information and find what they really need. This skill will also help them understand various ideas in written English and expand their horizons. Therefore reading skills should be fostered not only to pursue their academic interests but also to enhance their professional careers after graduation.		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] This course will encourage students to consider and find what is necessary to improve their own reading skills. Students are expected to be able: <ol style="list-style-type: none"> 1. to increase vocabulary. 2. to gain skills for intensive reading and understand English more precisely. 3. to check their comprehension on their own and find the reasons why they misread. 		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The teacher will try her best to offer the students whatever is necessary to improve their reading ability. These needs and the students' progress will be carefully monitored through various class activities and tests. The rate of progress may change the class schedule shown on the following pages.		
[教科書] Paul Stapleton, <i>Econosense: Economics and Human Nature</i> (Cengage Learning, 2010) ISBN: 978-4-86312-153-9		
[指定図書] None		
[参考書] To be announced when and if it is necessary		
[前提科目] None		

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Evaluation will be based mainly on assignments and tests to be completed during class. Performance on homework is also important. In addition, extra points could be given with optional tasks.

〔評価の基準及びスケール〕

100-80% = A, 79-70% = B, 69-60% = C, 59-50% = D, 49% and lower = F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

To get a higher grade, be sure to attend every class because many assignments and tests will be completed during class.

In class, students must have at least one English-Japanese dictionary with them to use for in-class tasks.

Students must prepare for every class. "Prepare" basically means:

1. to read the chapters or paragraphs assigned for each class, check the grammatical structure and meaning of words, and find what you can or cannot understand on your own so that you know what kind of help you will need from the teacher in class.
2. to think about what words and sentences are important and what the main idea of each paragraph or each chapter is.

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): Orientation</p> <p>内 容: What is the aim of this course? What will you read? What is important or necessary in this class?</p> <p>教科書・指定図書 Preface</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): Start reading "Economics and Human Nature"</p> <p>内 容: Go through the reading assignment more carefully.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 1</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): Finish "Economics and Human Nature"</p> <p>内 容: Read sentences taking grammatical structures into consideration.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 1</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): Start reading "Day-Care Centers in Israel"</p> <p>内 容: Find the meaning from the context.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 2</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): Finish "Day-Care Centers in Israel"</p> <p>内 容: Find the important words and sentences.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 2</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): Start reading "Tipping"</p> <p>内 容: Find the links of the important words and sentences.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 3</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): Finish “Tipping” 内 容: Summarize the paragraphs.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 3</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): Start reading “Coffee” 内 容: Find the important words and sentences, summarize the paragraphs.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 4</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Finish “Coffee” 内 容: Find the links of the paragraphs.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 4</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Start reading “Convenience Stores” 内 容: Summarize the paragraphs.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 5</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Finish “Convenience Stores” 内 容: Summarize the chapter.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 5</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Start reading “Luxury Products” 内 容: What have you learned?</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 6</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Finish “Luxury Products” 内 容: What have you learned?</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 6</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Start reading “Location Matters” 内 容: Try intensive reading on your own.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 12</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Finish “Location Matters” 内 容: Try intensive reading on your own.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 12</p>
試験	

[科目名] Active Reading Business Genres I	[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン・ベージ ックス
[担当者] 堀江洋文	[オフィス・アワー] 時間: 場所:	[授業の方法] 講義
[科目の概要] <p>This is a business English class for those students who want to improve their reading/writing/listening ability and to understand what is going on in the world of business and finance. 'Business English', previously called 'English Correspondence' in the faculty curriculum in most universities nationwide, used to be an English writing course with occasional reference to the skills and knowledge of international business and global economies. Today, however, it covers a wider variety of areas including Economic News English, English related to effective business practices (telephoning, negotiating, presentation, etc.) and conventional business correspondence (writing) skills. This class is designed to cover all these.</p> <p>Basically, this is an online class using Zoom, which, by the way, is synchronous and bidirectional, but the instructor plans to hold occasional in-person classes at APU, hopefully once a month, the timing of which will be decided after the consultation with the students.</p>		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] <p>First, you may be able to enhance your ability to communicate with people from diverse cultures in English, say in whatever situation you may be placed.</p> <p>Secondly, all the items you may have access in this class could be useful in actual business settings.</p>		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] <p>The purpose of the course is to enhance students' general business communication skills as outlined above.</p>		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <p>The instructor is prepared to answer any questions posed by the students. So please feel free to ask any questions which you think are left unanswered during the class.</p>		
[教科書] Kazuhisa Konishi, <i>The Flow of International Business Correspondence</i> , Asahi Press		

邦題『フローで学ぶ国際ビジネス英語』小西和久著、朝日出版社	
ISBN: 978-4-255-15228-8	
〔指定図書〕 None	
〔参考書〕 To be announced when/if necessary	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based on the student's attendance and class contribution (30%) as well as the result of a final exam at the end of the semester (70%). Attendance will be taken using normal methods of an attendance card or a card reader.	
〔評価の基準及びスケール〕 A: 80-100%, B: 70-79%, C: 60-69%, D: 50-59%, F: below 50%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Students are expected to have daily access to the latest economic news, which would keep them updated on what's happening in world economy.	
〔実務経歴〕 Not applicable	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): Course orientation and introduction</p> <p>内 容: Basic English correspondence skills (style and format of business letter, etc.)</p> <p>教科書・指定図書 Appendix at the end of the textbook</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): How to initiate a business transaction.</p> <p>内 容: 海外に新しい市場を開拓する</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 1</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): Asking for detailed information on the product</p> <p>内 容: 詳しい商品情報を求める</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 1</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): Effective telephoning</p> <p>内 容: Effective communication on the phone</p> <p>教科書・指定図書</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): Explaining products 内 容: 自社製品の優位性を説明する</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 2</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): Inquiry (asking for sales terms) 内 容: 価格等の条件提示を求める (引き合い)</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 2</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): Offer (Presentation of sales conditions) 内 容: 輸出契約の条件をオファーする</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 3</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): Counterproposal in response to an unsatisfactory offer 内 容: カウンターオファーを提示する</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 3</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Continuation of negotiations 内 容: 交渉を継続する</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 4</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Conclusion of a sales contract 内 容: 契約締結の表現</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 4</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Payment methods (Letter of Credit, etc.) 内 容: 支払い方法の一つである信用(L/C)の開設を依頼する。その他の支払い方法(例えば小切手 Check payment 等)についても学びます。</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 5</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Informing the details of the L/C 内 容: 信用状(L/C)の詳細を連絡する</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 5</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Effective telephoning 内 容: Effective communication skills on the phone</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Shipping schedule 内 容: 船積みスケジュールの連絡</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 6</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Effective telephoning 内 容: Effective communication skills on the phone</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>Written exam (60 min.)</p>

[科目名] English Grammar and Usage I	[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン・ ベーシックス
[担当者] 江連 敏和 Ezure Toshikazu	[オフィス・アワー] 時間: To be announced 場所: #615	[授業の方法] 講義
[科目の概要] This course is designed for students who need to improve their understanding of the fundamentals of English grammar. In each class, students will learn grammatical key points in passages about a familiar topic. Compositions, reading comprehension exercises, etc. will be employed to engage students in using the communicative grammar they have learned. Through interactive activities in the class, the knowledge of grammatical use and usage will be gradually acquired.		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] It is important for English learners to master basic rules for grammar perfectly and to have a lot of opportunities for practicing their skills. With grammatical knowledge, students can achieve a better understanding of both spoken and written English. Established grammatical usage enables one to communicate with people around the world effectively. In these senses, grammar is an essential building block for improving their English. Students may also find themselves interested in distinctive linguistic features, such as sentence structures in English and Japanese.		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] Students are expected to try hard: <ol style="list-style-type: none"> 1. to comprehend the significant rules of English grammar, 2. to understand crucial key points for better communication in English, 3. to use grammatical knowledge effectively, especially when writing and reading. 		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The improvements of this course are... <ol style="list-style-type: none"> 1. we make a lot of opportunities to discuss main ideas about topics and evaluate skills in pairs or some groups in a workshop style, 2. the teacher should encourage you to join classes actively, 3. authentic examples in a real world will be introduced, 4. a moderate pace of the lesson will be kept according to skills and knowledge of students. 		
[教科書] <i>Understanding and Using English Syntax.</i> (2018). By Akihiko Haisa and Gary Bourke. Asahi Press. Tokyo. ISBN: 978-4-255-15651-4.		
[指定図書] None		
[参考書] To be announced when and if necessary		

〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Students are assessed based primarily on their performances as well as the scores of quizzes and the final examination. In addition, extra points may be given for the completion on optional homework. Test scores: 60 %. Performances: 40 % .(Students need to do practices in the class).	
〔評価の基準及びスケール〕 A=80% or more, B=70-79%, C=60-69%, D=50-59%, F=less than 50%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 1. Students should positively join activities in the class and study hard. 2. Students should submit all assignments. The teacher will offer ample opportunities for practicing, discussing, and sharing ideas for improving our English skills. The teacher will try best to inspire you with confidence.	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Noun Phrase 1 内 容: Infinitive (Subject, Complement, Object) / How to Expand Vocabulary / Entrance Ceremonies 教科書・指定図書 Unit 1
第2回	テーマ(何を学ぶか): Noun Phrase 2 内 容: Gerund / Interrogatives + <i>to</i> -infinitive / Smartphones / School Uniforms 教科書・指定図書 Unit 2
第3回	テーマ(何を学ぶか): Noun Clause 1 内 容: Noun Clause (as Subject, Complement, and Object) / <i>that</i> -clause / Subjunctive Mood / A Balanced Diet / Excellent Service in Japan 教科書・指定図書 Unit 3
第4回	テーマ(何を学ぶか): Noun Clause 2 内 容: Interrogatives / Transitions / A Successful Holiday / Which Courses do you Take? 教科書・指定図書 Unit 4
第5回	テーマ(何を学ぶか): Adjective Phrase 内 容: Noun + <i>to</i> -infinitive / Participle / Adjectives after the Head / A Minimalist Lifestyle / A Cram School in Japan 教科書・指定図書 Unit 5

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): Adjective Clause 1 内 容: Relative Pronouns and Relative Clauses / Enjoying music / Part-time Jobs in Japan 教科書・指定図書 Unit 6</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): Adjective Clause 2 内 容: Relative Adverbs / Giving Emphasis in English / A Convenience Store / “<i>Undokai</i>” in Elementary Schools in Japan 教科書・指定図書 Unit 7</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): Adverb Phrase 1 内 容: Infinitive / Prepositional Phrase / Bubble Tea / <i>Randoseru</i> in Japan 教科書・指定図書 Unit 8</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Adverb Phrase 2 内 容: Participle Clauses / A Large Family / Speaking English 教科書・指定図書 Unit 9</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Adverb Clause 1 内 容: Functions of Adverb Clauses (Showing Purpose, Time, Reason, etc.) / Manners at a Restaurant / Regulations at School 教科書・指定図書 Unit 10</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Adverb Clause 2 内 容: Clauses Using <i>whenever</i>; <i>wherever</i>; <i>whoever</i>; etc. / Lunch Time at School / Debit Cards 教科書・指定図書 Unit 11</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Adverb Clause 3 内 容: Subjunctive Mood / <i>as if</i> clause / Being a Superhero / Simulations in a Daily Life 教科書・指定図書 Unit 12</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Modal Auxiliaries and Passive Voice 内 容: Examples of Modal Auxiliary Verbs / Active and Passive Voice / Short Melodies at Stations in Japan / What a Day 教科書・指定図書 Unit 13</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Verbs 内 容: Verbs of Perception / Causative Verbs / Horror Movies / My School days 教科書・指定図書 Unit 14</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Practices of Speaking and Writing in English 内 容: Talking about Topics in the Textbook with your Classmates / Writing your Opinion Logically 教科書・指定図書</p>
試験	Final Examination

[科目名] Intercultural Reading	[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン・ベージ ックス
[担当者] 堀江洋文	[オフィス・アワー] 時間: 場所:	[授業の方法] 講義
[科目の概要] <p>This is a News English class for students who are interested in improving their English reading/writing/listening skills. The textbook covers a wide variety of subjects including politics, economy, food and energy issues, environment, climate change, culture, and sports, with a touch of cross-cultural awareness. Students will learn tips to read news articles properly, trying to avoid falling for misinformation and disinformation. Students are also informed of the nature of English journalism.</p> <p>Basically, this is an online class using Zoom, which, by the way, is synchronous and bidirectional, but the instructor plans to hold occasional in-person classes at APU, hopefully once a month, the timing of which will be decided after the consultation with the students.</p>		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] <p>Students may be able to enhance their ability to communicate in various intercultural settings using news articles as a conversation resource.</p>		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] <p>The purpose of the course is to improve students' general communication skills, including reading, as well as to update their knowledge of world affairs.</p>		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <p>The instructor is ready to answer any questions from the students. Please feel free to ask any questions which you think are left unanswered during the class regarding English expressions or world affairs.</p>		
[教科書] <i>English for Mass Communication 2023 Edition</i> , Asahi Press 邦題 『時事英語の総合演習 ー2023 年度版ー』 堀江洋文、加藤香織他著、朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15698-9		
[指定図書] None		
[参考書] To be announced when/if necessary		
[前提科目] None		
[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等) <p>Evaluation will be based on the student's attendance and class contribution (30%) as well as the result of a final exam at the end of the semester (70%). Attendance will be taken using normal methods of an attendance card or a card reader.</p>		

[評価の基準及びスケール] A: 80-100%, B: 70-79%, C: 60-69%, D: 50-59%, F: below 50%	
[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望] You are expected to have daily access to the latest news, which would keep you informed of what's happening in the world.	
[実務経歴] Not applicable	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Domestic politics, Journalism (The news defined) 内 容: The world of Japanese politics 教科書・指定図書 Chapter 1
第2回	テーマ(何を学ぶか): Domestic politics, Journalism (The news defined) 内 容: The world of Japanese politics 教科書・指定図書 Chapter 1
第3回	テーマ(何を学ぶか): Global economy, Journalism (the headline) 内 容: Global growth forecast 教科書・指定図書 Chapter 2
第4回	テーマ(何を学ぶか): Global economy, Journalism (the headline) 内 容: Central banks and stock markets 教科書・指定図書 Chapter 2
第5回	テーマ(何を学ぶか): Diplomacy, Journalism (The inverted pyramid) 内 容: Ukraine war 教科書・指定図書 Chapter 4
第6回	テーマ(何を学ぶか): World economy, Journalism (The lead) 内 容: World Trade Organization (WTO), FTA, EPA 教科書・指定図書 Chapter 4
第7回	テーマ(何を学ぶか): World political affairs, Journalism (Feature stories) 内 容: UK prime ministers 教科書・指定図書 Chapter 6
第8回	テーマ(何を学ぶか): US politics, Journalism (From print to the web) 内 容: Deep-seated partisan divide in the US politics 教科書・指定図書 Chapter 6

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Crimes, Journalism (Broadcast news)</p> <p>内 容: Professional negligence resulting in death</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 8</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Various crimes, Journalism (Radio news reporting)</p> <p>内 容: Various crimes including bribery, felony, defamation, etc.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 8</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Climate change, Journalism (Media convergence)</p> <p>内 容: Heatwaves in Europe</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 10</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Carbon neutrality, Journalism (Media convergence)</p> <p>内 容: All-electric crossover SUV</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 10</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Looming hunger catastrophe, (Newspapers in the world)</p> <p>内 容: Grain shortage caused by Russian blockade</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 11</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Global population, Journalism (Broadcasting)</p> <p>内 容: The total fertility rate</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 12</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Sports, Journalism (Broadcasting)</p> <p>内 容: Transgender athletes</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 15</p>
試験	Written exam (60 min.)

[科目名] Understanding Business Meeting	[単位数] 2単位	[科目区分] ACB
[担当者] Benneth Esiana	[オフィス・アワー] 時間: to be announced 場所: 602	[授業の方法] Lecture, demonstration, roleplay
[科目の概要] The module is designed to equip students with the language skills they require to thrive in business environments such as offices, during meetings, team/group presentations, and whilst meeting with clients. Students are introduced to, and made conversant with, the nature, style, tone, and language of business interactions and meetings. Model dialogues present key phrases, meaning and structure to help students understand and communicate effectively. During the course of the module, students will work individually, in pairs, and in groups, as dictated by the nature of the activity, to complete meaningful exercises and tasks (e.g., dialogues, mini-meetings) to gain practical experience and to build confidence. Please be informed that the module is taught almost entirely in English language, therefore it is ideal for students at an intermediate to high-intermediate level of English.		
[[授業科目群]・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] In our increasingly globalised world, the prospect of taking part in meetings in English is greater than ever before. Familiarising oneself with English language, more importantly, the vocabulary and expressions relevant in a business environment should lead to better business interactions and productive meetings. Considering meetings as a social event, students will be able to recognise the impacts of cultural differences in meetings and grow their understanding and skill, so that they may be able to get their message across more effectively.		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] It is not uncommon for some learners of English to worry excessively about errors they make whilst speaking. This insecurity prevents them from fully engaging in practical activities in English such as meetings. The module provides reassurances that their insecurity is not unique and that it is common, and even normal. At the end of the semester, students are expected to be able to communicate more effectively in different business and social situations.		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The various components of the module will be introduced based on the students' progress in class.		
[教科書] English for Business: Speaking, by James Schofield and Anna Osborn, Collins, ISBN: 9780-0074-23231		
[指定図書] Not applicable		
[参考書] Not applicable		
[前提科目] None		

<p>[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等)</p> <p>Students will be assessed through the following methods:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Mandatory assignment(s) - Mandatory test(s) - In-class activities (e.g., roleplay) - Final examination - Others (attendance) 	
<p>[評価の基準及びスケール]</p> <p>A = 80% or more B = 70 – 79% C = 60 – 69% D = 50 – 59% F = 49% or less</p>	
<p>[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望]</p> <ul style="list-style-type: none"> - Students are expected to attend class with the desire to learn. - They must actively participate in all aspect of the lesson including roleplays. - An expectation for students to complete all assigned tasks, assessed or otherwise, in class or at home (self-study) <p>The instructor will support students throughout the course by providing a conducive learning environment where students, regardless of their skill/ability, will be able to improve in one form or another.</p>	
<p>[実務経歴]</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
<p>第1回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 1 – Networking 内 容: Starting a conversation</p> <p>教科書・指定図書 Unit 1</p>
<p>第2回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 1 – Networking 内 容: Talking about jobs</p> <p>教科書・指定図書 Unit 2</p>
<p>第3回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 1 – Networking 内 容: Showing interest in other people</p> <p>教科書・指定図書 Unit 3</p>
<p>第4回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 1 – Networking 内 容: Exchanging information</p> <p>教科書・指定図書 Unit 4</p>
<p>第5回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 3 – Meetings 内 容: Running a face-to-face meeting</p> <p>教科書・指定図書 Unit 9</p>
<p>第6回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 3 – Meetings 内 容: Running a face-to-face meeting</p> <p>教科書・指定図書 Unit 9</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 3 – Meetings 内 容: Negotiating agreement</p> <p>教科書・指定図書 Unit 10</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 3 – Meetings 内 容: Negotiating agreement</p> <p>教科書・指定図書 Unit 10</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 3 – Meetings 内 容: Assigning action points</p> <p>教科書・指定図書 Unit 11</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 3 – Meetings 内 容: Assigning action points</p> <p>教科書・指定図書 Unit 11</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 3 – Meetings 内 容: Running a teleconference</p> <p>教科書・指定図書 Unit 12</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 3 – Meetings 内 容: Running a teleconference</p> <p>教科書・指定図書 Unit 12</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 2 – Telephoning 内 容: Cold calling</p> <p>教科書・指定図書 Unit 6</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 2 – Telephoning 内 容: Confirming or rearranging appointments</p> <p>教科書・指定図書 Unit 6</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Section 4 – Presentations and conferences 内 容: Saying ‘no’ politely</p> <p>教科書・指定図書 Unit 16</p>
試験	Final Examination

<p>[科目名]</p> <p style="text-align: center;">ロシア語会話</p>	<p>[単位数]</p> <p>2単位</p>	<p>[科目区分]</p> <p>アカデミック・ コモンベーシックス</p>
<p>[担当者]</p> <p>トルストグーフ・A TOLSTOGUZOV ALEXANDER</p>	<p>[オフィス・アワー]</p> <p>時間： 場所：</p>	
<p>[科目の概要]</p> <p>本科目は、ロシア語を勉強しようとする学生のための中級の科目である。この科目の総合目的は、基礎的なロシア語能力の習得である。授業中に使うロシア語教科書「テレモーク」中級編の基本コンセプトとして、ロシア語検定試験の入門レベルと基礎レベル（ロシア文部省実施）を基準とした教科書である。</p> <p>このため、この教科書作成の最大の特徴は、新しいタイプの統合型教材である。具体的には、学習者の語彙と文法の知識を基にして4つの言語能力（聞く、読む、話す、書く）を獲得するように構成されている。</p> <p>この教科書で定めたロシア語の学習目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ロシア語の「コミュニケーション活動を重視し、日常的な会話のバリエーションを増やす」こと 2. ロシア語会話を重点内容に位置付け、必要に応じて文法知識の理解を図ることである <p>ロシア語の文法は複雑であるが、この教科書は最小限の文法で乗り切っている。ロシア語表現をできあいの形で覚え、いくつものパターンを蓄えて、実用に備えている。</p> <p>教科書の内容と構成として次の4点を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各課とも「新出単語、聞く、読む、話す、書く」の構成である。 2. 1冊につき30課の構成とする。 3. 使用語彙は、1冊につき300語を目途とする。 4. 練習問題編を別冊で作成し、応用訓練の一助とする。 <p>この教科書では学生自身の積極的な授業参加を前提にしている。たとえば、授業では学生の応答を得た後に次の指導が展開される場面が随所にあり、授業と家庭学習が練習問題編によって直結していることもその一例である。</p> <p>授業の内容を面白くするために沢山の笑い話、小話とジョークを使う。</p> <p>また、学生が図書館の資料を使って独学できる。</p>		
<p>[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか]</p> <p>ロシア語の知識は幅広い範囲の仕事場（会社、国家機関、文化団体）で使用できる。英語と並びロシア語を話せるならキャリアのための可能性はより広がる。将来の自分の目的に合わせて勉強ができる。</p> <p>この段階では、できるだけ会話のロシア語を使用し、学生達がロシア語に自然に慣れ、次の段階のロシア語の勉強のために基礎をつくる。</p> <p>ロシア語の知識を習得すると青森に住んでいるロシア人、ロシアから来ているロシア人とのコミュニケーションをとることができる。希望があれば、国内での簡単なボランティア活動をするチャンスも与えられる。</p>		
<p>[科目の到達目標(最終目標・中間目標)]</p> <p>授業で得た知識で日常生活や文化を話題としたロシア語の日常会話ができる。そのため、授業中に黙ってもらうのではなく、恥ずかしがらないで沢山話してもらうようにする。そして、さほど難しくないロシア語の文章は辞書を用いて読めるようになる。</p> <p>春学期の期末試験では、学生達が半年で習った基礎文法と基本単語と会話のパターンをいかに習得し、いかに将来に使うことができるか確かめる。</p> <p>その他、授業中に勉強したロシアという異文化の国についての理解度を高めることを目標とする。</p>		
<p>[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 以前はたまにシラバス通り進むことができなかつたことがあつたが、これからはシラバスに書かれた内容通りに進めたいと思う。 2. 授業の効果を高めるために重要な所を繰り返し、強調し、練習させる。 		

<p>〔教科書〕</p> <p>ロシア語教科書「テレモーク」中級編、2008年。</p>	
<p>〔指定図書〕</p> <p>和露辞典 露和辞典</p>	
<p>〔参考書〕</p> <p>「ロシア語文法ハンドブック」、寺田吉孝、2004年</p>	
<p>〔前提科目〕</p> <p>ロシア語入門</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>授業態度、出席、期末テストを総合的に評価する。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 テストの評価の基準</p> <p>A : 80点以上 B : 80点未満70点以上 C : 70点未満60点以上 D : 60点未満50点以上 F : 50点未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>学生達には授業に積極的に参加することを期待している。 そして、学生達は教科書の内容だけではなく、自分の関心に合う単語を学ぶことを期待している。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第1課 内 容: 空港の出迎え</p> <p>教科書・指定図書:「テレモーク」 p.3-7</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第2課 内 容: バス車内で</p> <p>教科書・指定図書:「テレモーク」 p.8-12</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第3課 内 容: ハヤトの部屋で</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.13-16</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第4課 内 容: 授業はいつですか</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.17-20</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):第5課 内 容: 無事到着</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.21-28</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):第6課 内 容: あなたはどちらから</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.25-28</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):第7課 内 容: 南極大陸からやってくるのは誰</p> <p>教科書・指定図書:「テレモーク」 p.29-32</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):第8課 内 容: 食料品はどこで買えますか</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.33-36</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):第9課 内 容: ランチは軽食堂で</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」p.37-40</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):第10課 内 容: 何歳になったの</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」p. 41-44</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):第11課 内 容: ありえないよ</p> <p>教科書・指定図書:「テレモーク」 p.45-48</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):第12課 内 容: 勉強を終えてから、思い切り遊びなさい</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.49-52</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):第13課 内 容: 怖がらないで</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.53-57</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):第14課 内 容: 明日の計画はなんですか</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.58-61</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):第15課 内 容: ご注意ください、ドアが閉まります</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.62-65</p>
試験	

〔科目名〕 韓国語会話	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシックス
〔担当者〕 リー ヘ キョン 李 恵 慶	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	
〔科目の概要〕 <p>韓国語入門の履修者、または同等のレベルの人を対象にした授業です。入門で学んだ基礎文法をしっかり固めながら、日常会話に必要な表現文型の幅を広げ、初中級レベルのコミュニケーション能力を身につけることが第一のねらいです。</p> <p>同じ語順をもつ韓国語と日本語は、特別に発想の転換を求められることなく理解できることから、初級のレベルであれば、言葉を入れ替えるだけですぐに会話を楽しむことができます。そのため、授業では、日常生活の様々な会話の場面のなかで基礎となる語彙、文法、文型を繰り返し練習し、自然に会話のなかで使えるようにします。</p> <p>授業は基本的に以下の授業スケジュール通りに沿って進めていきますが、他にMVや映画、新聞、ブログ等、様々な資料もできるだけ多く取り入れる予定です(受講生の希望や要望などにより変更になる場合があります)。韓国の文化や社会に触れられることで、韓国語をもっと身近に感じ、楽しみながら学ぶことができます。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 <p>日本と韓国は歴史的・文化的・地政学的に最も近い隣国として、これまで様々な形で交流を深めてきました。あらゆる分野においてグローバル化が進行している今日、日韓の関係は今後より一層広範かつ緊密なものになると予想されます。そのなかでお互いを深く理解し、信頼関係を築いていくことは何より重要で、相手の言葉を学ぶことはその最も効果的方法になります。なぜなら、人間の文化や社会を根本で支えるものが言語である以上、外国語を理解することはその国を理解し、人々の思考と文化を理解することに他ならないからです。</p> <p>とりわけ、日本人にとって韓国語は外国語のなかで最も習得しやすい言葉と言われています。そのため、学んですぐに楽しむことができ、旅行や友達づくり、K-Pop 等を通じて自分の世界を広げることができます。また、上達するのも早いので、レベル・アップを図れば将来、日韓の橋渡し役を担う人材として大いに活躍することも可能です。外国語を学ぶことが苦手な人はぜひ韓国語にチャレンジしてみてください。日本語と同じ文法構造をもつ韓国語を学ぶことで、苦手意識が克服できるかもしれません。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>本科目の最終目標は初級レベルの日常会話に必要な語彙と基礎表現を身につけると同時に、韓国語の背景にある朝鮮半島の文化や歴史・社会への興味を高めることです。具体的な中間目標としては以下の4つが挙げられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ② 日常生活の様々な会話の場面のなかで基礎となる文法や表現を身につける ② 日常会話に必要な語彙と文型を覚え、表現のバリエーションを増やす ③ 「聞く」「話す」を中心に韓国語コミュニケーションを楽しむ ④ 韓国語から韓国・朝鮮半島の文化や社会への理解を深める 		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>韓国語入門に比べ、難易度が上がるため、授業は丁寧かつゆっくり進めていく予定です。ただ、文法より会話に重点が置かれている授業ですので、積極的な参加が求められます。また、語学の学習において単語の暗記は必要不可欠ですので、毎回新しい単語をしっかり覚えるようにしてください。</p>		

<p>〔教科書〕 特になし(必要に応じてプリントを配布します)</p>	
<p>〔指定図書〕 必要に応じて講義中に示します。</p>	
<p>〔参考書〕 必要に応じて講義中に示します。</p>	
<p>〔前提科目〕 韓国語入門 ただ韓国語の読み・書きができ、韓国語入門履修と同等のレベルが認められた場合はその限りではありません。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>評価は出席および授業への参加度・貢献度40%、授業中に提示した課題(ミニレポート)10%、期末試験(プレゼンテーション)50%から総合的に行います。ただ、単位取得には上記の出席・課題・期末試験がすべて揃うことが前提条件となります。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>A:80点～100点 B:70点～79点 C:60点～69点 D:50点～59点 F:50点以下</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>遅刻・欠席はしないで、必ず単語を覚えて復習を行ってください。また、授業についての質問や要望等があったら遠慮せず申し出てください。韓国語はもちろん、韓国の文化や社会に関心のある人、大歓迎です。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション 内 容:授業について概観し、今後のスケジュール等について確認する</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 復習① 内 容:時制のおさらいと練習</p> <p>教科書・指定図書 特になし</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 復習② 内 容:願望の表現と会話練習</p> <p>教科書・指定図書 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』第17課</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 復習③ 内 容:可能と不可能の表現と会話練習</p> <p>教科書・指定図書 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』第16課</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 推量・意志・未来の表現 内 容:推量・意志・未来を表わす表現と練習</p> <p>教科書・指定図書 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』第20課</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 発展学習——会話を楽しもう① 内 容: 並列と理由・順序の表現(～て)と不規則用言</p> <p>教科書・指定図書 プリント資料</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 発展学習——会話を楽しもう② 内 容: 理由・発見の表現(～したので、～してから)と不規則用言</p> <p>教科書・指定図書 プリント資料</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 異文化コミュニケーション① 内 容: 韓国映画を楽しむ</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 異文化コミュニケーション 内 容: 韓国映画を楽しみ、議論する</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 発展学習——会話を楽しもう③ 内 容: 目的表現(～しに)</p> <p>教科書・指定図書 プリント資料</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 発展学習——会話を楽しもう④ 内 容: 計画・意図の表現(～しようと)</p> <p>教科書・指定図書 プリント資料</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 発展学習——会話を楽しもう⑤ 内 容: 状況・比較・対照／期待外れの表現(～したけど、～したのに)</p> <p>教科書・指定図書 プリント資料</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 発展学習——会話を楽しもう⑥ 内 容: 経験表現(～したことがある／ない)</p> <p>教科書・指定図書 プリント資料</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 発展学習——会話を楽しもう⑦ 内 容: 状況の変化・受け身表現(～になる、～くなる、～(ら)れる)</p> <p>教科書・指定図書 プリント資料</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 発展学習——会話を楽しもう⑧ 内 容: 能力表現(～することができる／できない)</p> <p>教科書・指定図書 プリント資料</p>
試験	<p>プレゼンテーション(場合によっては筆記試験を実施する)</p>

*授業スケジュールや授業内容等は受講者の人数やレベル等によって変更になる場合がある。

[科目名] 中国語会話	[単位数] 2単位	[科目区分]
[担当者] 呉 蘭	[オフィス・アワー] 非常勤なので、オフィス・アワーがありません。質問があれば、授業中クラスを見て回る時に聞いてください。授業時間外に、メールで連絡してください。	[授業の方法] 講義・演習
[科目の概要] ことばの「やりとり」ができる実践的な中国語力・コミュニケーション力を身に付けます。「中国語入門」で習ったものを繰り返し練習することによって、自分のものにして、新しい構文や単語も学びながら、さらに中国の文化や習慣などもより多く知り、会話練習を通じて中国語の運用能力を身につけます。		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 日本と中国は、歴史的にも地理的にも文化的にも経済的にも、切っても切れない関係にあります。本授業はリスニングとスピーキングを中心とする会話能力を養うとともに、中国の社会・文化も学ぶ科目です。経済・経営を専攻とする学生の皆さんが、将来ビジネスの場で、相手とスムーズにコミュニケーションが取れれば、まさに鬼に金棒でしょう。		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し練習することによって、中国語特有の音と声調が聞き取れるようになり、正確な発音が身につきます。 ・ 状況に合わせて相手と意見を交わすことができるようになります。 ・ 誤解をしたりされたりすることを減らすことができますようになります。 		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] これまでの学生の「授業評価」では、「ロールプレイなどで実践的な中国語の会話が身についた」「中国の文化なども映像で見せてくれて色々知ることができた」「楽しく、気楽な雰囲気の中で中国語を学べる」「みんな主体的に参加できる」「質問に丁寧に答えてくれるので、分からないまま授業を終えるということがなかった」などのコメントをもらいました。今後とも続いて質が高く、楽しい授業を提供するように工夫します。		

<p>〔教科書〕 『中国語つぎへの一步』(白水社) ★<u>初回の授業までに必ず用意してください。</u></p>	
<p>〔指定図書〕</p>	
<p>〔参考書〕 『しゃべっていいとも中国語』、『基礎から発展までよくわかる中国語文法』、『若き中国人の悩み』</p>	
<p>〔前提科目〕 ★「<u>中国語入門</u>」</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業内活動、発表、期末試験などを総合的に評価します。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 平常点(授業内活動)20%、(ロールプレイを含める)発表 30%、期末試験 50% A: 100～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59～50 点 F: 49～0 点</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 語学のコツは間違えることです。授業中は恥ずかしがらずに積極的に声を出してください。 また復習は非常に大切です。<u>必ず前回の授業の内容を復習してから授業に臨んでください。</u></p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中国に行こう! 内 容: ①経験を表す“过” ②助動詞“可以”、“要” 教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中国に行こう! 内 容: ①主述述語文 ②目的語が主述句の時 教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): ジャスミン茶を飲もう! 内 容: ①“的”の用法 ②「原因・理由」を表す“因为” ③復習: 文末助詞 “吧”、“呢” 教科書・指定図書</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):友達を作ろう!</p> <p>内 容:①復習:動作の対象を表す前置詞“给” ②復習:連動文 ③“是～的”の文 ④疑問詞“怎么”</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):長城に登ろう!</p> <p>内 容:①“了”の三つの用法 ②副詞“就” ③助動詞“应该”</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):卓球を楽しもう!</p> <p>内 容:①様態補語 ②比較級の否定文“A 没有 B～”</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):卓球を楽しもう!</p> <p>内 容:①「可能性の予測」を表す助動詞“会” ②「仮定」を表す“要是”</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):漢字を覚えよう!</p> <p>内 容:①復習:助動詞“能” ②結果補語(1) ③副詞“有点儿”</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):街を歩こう!</p> <p>内 容:①存現文 ②主語がフレーズの時 ③“了～了～”の用法</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):中国映画を見よう!</p> <p>内 容:①「状態の持続」を表す“着” ②副詞“再” ③疑問詞の不定詞用法</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):チャイナドレスを買おう!</p> <p>内 容:①方向補語 ②「使役」を表す“让”</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):中華を食べよう!</p> <p>内 容:①可能補語 ②強調表現</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):西遊記を読もう!</p> <p>内 容:①結果補語(2) ②「受身」を表す“被”</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):春節を祝おう!</p> <p>内 容:①“快～了”の用法 ②“把”の構文</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):メールを出そう!</p> <p>内 容:①復習 ②教科書のメール文を学ぶ</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	筆記試験

〔科目名〕 プレゼンテーション	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 アカデミック・コモンベーシックス
〔担当者〕 植田 栄子 Ueda Teruko	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回授業で紹介 場所: 607 研究室	〔授業の方法〕 アクティブ・ラーニング (相互学習方式)、講義
〔科目の概要〕 プレゼンテーションに必要な理論と実践を学び、最終的に無理なく必ず受講生全員のプレゼン力 UP をめざす。 主として以下の内容: 1) プレゼンテーションに必要な準備(レジュメの作り方とパワーポイントの作り方) 2) プレゼンテーションに必要な知識(音声のポイント、ジェスチャーとしてのポイント、アイコンタクト等) 3) プレゼンテーションの構成(アウトラインの作り方、提示の仕方、見せ方) 4) プレゼンテーションの種類(誰に対して、どんな目標で、どんな場所で) ①ゼミでの発表、②学会発表、③学外での発表、④就職面接での自己PR 5) プレゼンテーションの評価(「注意深く聞き評価できる」と、結果的に自分のプレゼンテーション力が向上します) 6) より優れたプレゼンテーションから学ぶ(NHK 番組「スーパープレゼンテーション」を視聴して、優れたプレゼンテーションの特徴を具体的に理解し、自分自身のプレゼンにフィードバックする。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕 学生時代はもちろん、社会に出てからより重要とされる力が、「プレゼンテーション力」です。 どんなコンピュータも AI も変わることが出来ないのが、「人間が行うプレゼンテーション」なのです。 このプレゼンテーションを学ぶ必要があるのは; 1) どんな時代になっても、「人が人に対して行うプレゼンテーションに代替できるものがない」。 2) ゼミや研究会で、より良いプレゼンテーションができるようになると、自分が伝えたいことがより明確に相手に伝わり、相手の心や行動を「動かす」ことができる。 さらに、プレゼンを学ぶと次のことに結びつきます。 3) 就職活動においてプレゼンテーション能力が求められ、さらに会社での評価に直接つながる。 4) 良いプレゼンテーションが行えるようになると、自分の見せ方や他者への効果的な情報の説明、意見の提示、説得力ある提示、質疑応答がより良く出来るようになります。 すなわち、自分と他人との関係が強化され、自分の意見を説得力をもってわかりやすく、相手に伝えられるのです。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 (中間目標) <ul style="list-style-type: none"> リスナーの人数に応じて、声の大きさ、アイコンタクト、姿勢、ジェスチャーにも気を配ってスピーチができる。 クラスメイト同士でも敬語表現を使って、フォーマル度の高い質疑応答や、話し方のスタイルを習得する。 他のプレゼンテーションに関して、詳細な点に関する適切な分析ができる聴き方をすることができ、それを言語化して相手に伝えられる。 人前で話すことの緊張感や苦手意識を軽減させる。 (最終目標) <ul style="list-style-type: none"> 付加価値の高いレジュメの書き方、効果的なパワーポイントの作成を行い、適切に改善していける。 プレゼンテーションの構成・内容を、リスナーとテーマに応じて工夫できる。リスナーに最も分かりやすく印象に残るプレゼンテーションの方法を、他の参考 DVD (スーパープレゼンテーション等) から利用して実践できる。 プレゼンテーションのレベルアップのために、ユーモア、エピソード、非言語的要素(笑顔、ジェスチャー、声の調子)について、工夫して実践できる。 		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 各受講生の発表時間が不足することを回避し、また最も効果的なプレゼンテーションの練習になるクラスサイズにしている。 「繰り返しプレゼンテーションする」ことで、必ず全員が「絶対に上達し、自信がつく」。相互に評価しあうことで、分析力がつき、それが自分の発表の向上につながる。プレゼンテーションを苦手と思っている人こそ受講してほしい。 特に、プレゼンテーションの内容が非常に面白くなっており、学科を越えた相互情報交流の場になる。学期中2回のプレゼンと、毎回出席して発表者に書くコメントシートを提出することで、必ずプレゼンテーション力が向上する。 当然だが、毎回必ず出席し、クラスメイトの発表を聞くという蓄積が、結果的に自分自身のプレゼン上達のカギである。		
〔教科書〕 授業時に適宜紹介する。		

<p>〔指定図書〕 授業時に適宜紹介する。</p>	
<p>〔参考書〕 授業時に適宜紹介する。</p>	
<p>〔前提科目〕 なし</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>プレゼンテーション2回(口頭発表と作成資料)60% + 質疑応答や提出物(分析レポート):20% + 出席20% = 100%</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>80～100 A 70～79 B 60～69 C 50～59 D 49以下 F</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>*実践的に学べるように、初回から徐々に必要な知識と能力を身に付けていきます。出席することが大前提です。なぜなら、他の人がプレゼンテーションすることを聞く・質問する・コメントする、という作業がとても重要で効果的なプレゼンテーション力の養成に直結します。</p> <p>*発表中は、そのプレゼンテーションに集中して、当然ですがスマホや私語は厳禁です。自分がスピーカーの立場になれば、わかることですが。</p> <p>*発表に関する感想、質問の時間を取って、フォーマルな表現(敬語)を使うようにします。積極的に発言して下さい。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>海外大学での教育研究活動以外の実務経歴(現地の商工会議所など異文化との交渉にかかる実践経歴)等を活かし、プレゼンテーションに関してグローバルな視点も入れて実践的に学びます。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションについて学ぶ必要 内 容: コミュニケーションの基礎知識。プレゼンテーションに関するニーズ分析。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションの目的 内 容: 様々なプレゼンテーションの種類、構成要素を知る。参考DVDを視聴。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションの基礎知識の復習(「対人コミュニケーションに関して」) 内 容: その中におけるプレゼンテーションの基本的知識、これからの目的</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションに必要な材料(レジュメとは? パワーポイントとは?) 内 容: それぞれの特徴と作成方法を学ぶ</p>

第5回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習① 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第6回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習② 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第7回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第8回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第9回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習⑤ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。 *これまでの講評とパワーポイント発表に関する注意点。 *参考となるDVD 視聴
第10回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習① 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。 *ここからのパワーポイントを用いたプレゼンテーションはアクティブラーニング室(405)で実施予定。 *スーパープレゼンテーションを途中で視聴予定(最低でも2本)
第11回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習② 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第12回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第13回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第14回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習⑤ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第15回	全体を通して成果を挙げた点、さらなる今後の課題。 スーパープレゼンテーションを視聴して分析レポートとする期末課題説明。
評価	授業中に行う2回のプレゼンテーション、その資料内容、提出するコメントシート、授業内での質疑応答、指定するプレゼンテーションを視聴して分析レポートを最後に提出、以上により総合評価を行う。

〔科目名〕 哲学I	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 大森 史博 Ohmori Fumihiro	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業の初回に提示する 場所: 613 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>西洋哲学の歴史に登場する著名な哲学者、および主要な概念を厳選してとりあげ、解説し、考察をおこなう。哲学の学説や概念は一見ただけでは難解にも思われるが、その根本にある思考、核心にある問いに目を向けることにより、この学に接近したい。西洋哲学の歴史にあらわれる人物、思想、概念に触れ、自覚的に考えることをとおして、われわれ一人一人が世界を生きることを学びなおすための思考の鍛錬をおこなう。</p> <p>授業において参加者には、自分の思考を可視化するための方法として、ワーキングシートを作成してもらおう。ワーキングシートによる思考の可視化と振り返りが、自身の思考を深めてゆく助けになるはずである。この方法については授業のなかで詳しく説明する。また、大教室でおこなわれる授業では、手をあげて質問することをためらうかもしれないが、自覚的に質問すること、問いを投げかけることを試みて欲しい。質疑応答を実現することができれば、理解も深まり、考えるためのヒントも得られるはずである。</p> <p>基本的には、毎回一つのトピックを読み切りにして、①前回の反復とあらたな問いの提起、②配布資料をふまえた解説、③ワーキングシートの作成、という組み立てを授業のユニットにする。しかし、限られた時間では完結できない場合も多くある。くり返し立ち戻りながら考察をかさね、理解を深めたい。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 <p>哲学は「知を愛する」ということ、つまり、あらゆる事象についてのあくなき探求を意味する。いかにも素朴な知の探求であると思われるとしても、みずから「問い」をもつことが根本にある。この授業が企図するところは、具体的な経験と眼前の事象に即しながら、われわれの学問や知識の深層にある、そうした「問い」を再考することである。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>中間目標: 西洋哲学の著名な哲学者の思想、主要な概念、核心にある問いを知る。</p> <p>最終目標: 学び覚えた哲学者の思想や概念をふまえ、自らの経験を背景にして、自分の問いを提起することができる。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>ただ知識を身につけるだけでなく、自分で考える取り組みがあること、学んだ内容や自分の考えを可視化できること、等をよい点とするコメントがあった。履修者自身がじっくり考えるという本来の目的が実現できるよう、授業の形式についても、内容についても改善の工夫をかさねていく。問題点として指摘されたこともある。少し話しが複雑で理解が難しい、といった事柄である。事象そのものに即して考えるならば、現実の世界は、ふだん我々が気づかずに、あるいは、あえて見過ごしてきたことも思いのほか多く、複雑である。そうした事柄を学ぶことの意味はなにか。十分な理解を促すことができるよう説明の工夫をしていきたい。大切な論点は、より多くの時間をかけてでも詳しく話さなければならない場合がある。その点は理解して欲しい。一方で、学習内容が過剰になることのないよう注意する。プリントを受け取っていない、マイクの音量を上げて欲しい、といった簡単にすぐ解決できることを我慢したりしないようにして欲しい。広い教室においては、対話を展開してコミュニケーションを深めることは容易ではないとしても、できるかぎり相互的な応答の関係をつくることができるようめざしていく。</p>		
〔教科書〕 使用しない。適宜プリントを配布する。		
〔指定図書〕 なし		

<p>〔参考書〕 『よくわかる哲学・思想』 納富信留 ほか編著、ミネルヴァ書房、2019年 『図鑑 世界の哲学者』 サイモン・ブラックバーン 監修、熊野純彦 日本語版監修、東京書籍、2020年 その他、授業のなかで紹介する。</p>	
<p>〔前提科目〕 前提科目はない。春学期に開講する「哲学Ⅰ」と秋学期に開講する「哲学Ⅱ」は、各々が独立に完結する授業である。どちらを先に履修してもよいし、どちらか一方だけを履修してもよい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>全体の五分の四以上の出席を前提に、次のとおりの割合で評価する。 レスポンスカード・ワーキングシートの作成、授業内の活動や発言(50%)、期末の課題(50%)</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>A:80点以上 B:80点未満70点以上 C:70点未満60点以上 D:60点未満50点以上 F:50点未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>哲学には独特の難しさがあると思われるかもしれない。しかし、言葉や事柄そのものの難しさを、ひとつひとつ解きほぐしながら考える作業こそが哲学の営みであり、この難しさを楽しむことこそ、哲学への最良のアプローチの仕方だろう。自ら考え、自ら問いをもつことを本来として、焦らず、ねばり強く、授業に参加して欲しい。 授業各回のスケジュールや扱う内容は、参加者の関心や進行状況に応じて変更することがある。</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):イントロダクション、「哲学とは何か」という問い 内 容:この授業の趣旨と進め方、評価の方法、哲学とはどのような学問なのか、問いと答え</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):「哲学の始まり」についての問い 内 容:アルケーの探究、ソクラテス以前の哲学者、ワーキングシートの意味と目的</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):「真理」についての問い 内 容:ソフィストとフィロソフォス、相対主義</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):「存在」についての問い 内 容:パルメニデス、存在と時間、自然学</p> <p>教科書・指定図書</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):「対話」という方法 内 容: 不知の自覚、ソクラテスの死</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):「本質」についての問い 内 容: プラトンの哲学、探究のパラドクスとイデア論</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):「自然」についての問い 内 容: アリストテレスの哲学、理論知と実践知、四原因説、幸福論</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):「汝自身を知れ」という格率 内 容: オイディプス王の伝説、アウグスティヌスの哲学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):「懐疑」という方法 内 容: 考える私の存在、主観客観の図式、デカルトの哲学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):「自由」と「必然」についての問い 内 容: 神即自然、スピノザの哲学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):「なぜ」という問い 内 容: 予定調和、多元論、ライプニッツの哲学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):「知の源泉」についての問い 内 容: ヒュームの懐疑論、連合説</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):「認識の基礎づけ」についての問い 内 容: コペルニクス的転回、カントの哲学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):「価値」についての問い 内 容: ニーチェの哲学、永劫回帰</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):「時間」と「存在」についての問い 内 容: 総括と補足</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	

〔科目名〕 人間の歴史	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 荷見 守義 Hasumi Moriyoshi	〔オフィス・アワー〕 時間: メールでご調整の上、対応可能 場所: 講師控え室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 現代は難しい時代です。色々なことが急速に変化するし、ニュースで見聞きする出来事はとても複雑で、専門家であっても理解に苦しむことが多い昨今です。このような時代にどのようにつきあうべきなのでしょう。万能薬は多分なさそうで、みなさん一人一人が自分の頭で一生懸命考え、試行錯誤しながらやってみて行くしかなさそうです。歴史学はそのような時代について考える上で、有用なツールとなる学問です。この科目では、中国史を専門とする研究者として、みなさんに東ユーラシア史を材料として、現代を考えるヒントを、15回という極めて短い時間ですが、提供したいと考えます。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕 歴史にはロマンがあるから好きという歴史ファン(歴女というのもそういう人々なのではないでしょうか?)は実にたくさんいますが、歴史学という学問の本質は、「比較的長い時間」、物事を観察するということです。一瞬では分からないことでも、ある程度、長く観察していると分かることは多いものです。この手法は「一定の傾向性を有する事象」の分析には、極めて有効な方法です。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 (最終目標) ・比較的長期の観察に基づいて、人間・社会・国家の事象に一定の傾向性があることを発見できるという歴史学の学問としての特質を理解し、身につけること (中間目標) ・歴史学は暗記ではなく、論理的に推理していく学問であることを理解すること ・自分と世界とを結びつけて考える思考法を身につけること		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業の中で定期的にリアクションペーパーを使用して、みなさんの反応を確認しながら授業を進めます。		
〔教科書〕 なし。毎回の授業時に資料を配付します。		
〔指定図書〕 なし		
〔参考書〕 荷見守義 『永楽帝 明朝第二の創業者』山川世界史リブレット人 038(山川出版社、2016年)		
〔前提科目〕 なし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 下記の通り、平常評価・中間評価・期末評価を合算して、最終的な成績評価をおこないます(評価基準は次項参照)。 [平常評価] リアクションペーパー3回分 40% [中間評価] 中間レポート 30% [期末評価] 期末レポート 30% ・リアクションペーパーは 講義の主題について、分かったこと/興味を持ったこと/疑問に思ったこと・もっと知りたいと思ったこと、など自由に記述してください。事後の授業の中で参照してお答えします。 ・中間レポートは、講義前半の主題について、みなさんが考えたこと、調べて分かったことを文章にまとめて頂きます。 ・期末レポートは、講義全体をふまえて理解したこと、考えたことをまとめて頂きます。 目的は、 ①この講義を通して、歴史学という学問の特質をどれだけ認識したかを自らの文章でまとめること、そのことにより自身の学修の進展を確認すること ②このことにより、本科目の主題と学生各自の学修テーマとを結びつけ、さらなる成長を促すことの2点にあります。		

<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>○リアクションペーパーは記述量で、4段階評価をし、3 回分の平均点を評価とします。</p> <p>A(400 字以上) B(200～299 字) C(1～199 字) D(0字、未提出)</p> <p>○レポートの評価基準は、中間・期末レポートともに、下記の基準で5段階評価し6倍します。なお、日本語が母語ではない留学生等は、文意の点については考慮します。</p> <p>5:レポートテーマの要件を満たし、具体例を交えて自分なりの言葉で表現し、タイトルや構成も工夫している。 4:レポートテーマの要件を満たし、具体例を交えて自分なりの言葉で表現している。 3:レポートテーマの要件を満たし、自分なりの言葉で表現し、文意が通る。 2:レポートテーマの要件を満たしているが、文章が稚拙で、読むに堪えない。 1:レポートテーマの要件を満たさず、文章が稚拙で、読むに堪えない。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>○講義形式ですが、定期的リアクションペーパーの提出を求め、みなさんの理解度を測定します。分からないことは放置せずに積極的に質問してください。みなさんの疑問や質問については、随時、授業に織り込みますので、何でも聞いてください。</p> <p>○前回のプリントを見直すことがあるので、各回での配布物は毎回持ってきてください。</p> <p>○受講のマナーを守ることができず周りの人の学習権を侵害する学生の履修は固くお断りします。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): プロローグ～歴史学はどのような学問なのか～</p> <p>内 容: 講義全体を支える歴史学という学問の性格について説明するとともに、講義全体の組み立てや目的について概観し、本講義を通じて学ぶべきことについて提示します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 北緯 40 度の歴史学Ⅰ～青森から世界を見る～</p> <p>内 容: 青森県は生態環境上、歴史上、どのように位置づけられたらよいか、北緯 40 度を補助線として概観します。青森と世界の結びつけ方について提示します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 北緯 40 度の歴史学Ⅱ～環日本海域・環シナ海域と「四つの口論」～</p> <p>内 容: 世界を観察する視点として「海域の連鎖」について提示し、江戸時代の日本を環日本海域・環シナ海域に位置づけ、江戸時代の対外関係としての「四つの口論」について理解を深めます。世界の一部に組み込まれている日本という立ち位置について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 北緯 40 度の歴史学Ⅲ～柳川一件・唐人町・俵物産品・北前船・島津氏～</p> <p>内 容: 「四つの口」を具体的な事件の分析を通じて肉付けします。北日本の歴史がどのように東ユーラシアと接続しているのか理解を深めます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 13 世紀世界システム</p> <p>内 容: グローバル化の始まりを 13 世紀のモンゴルによる世界統治に求める議論が盛んになっています。モンゴルによる世界統治がグローバル化に与えた影響について考えていきます。現代を理解する上での重要な歴史上の分岐点について理解を深めます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 13 世紀世界システムと元寇・日本</p> <p>内 容: 大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」に見る北条氏による鎌倉幕府支配ですが、執権北条時宗の時の元寇は 13 世紀世界システムではどのように位置づけられればよいのでしょうか、日本もこのシステムとは無縁ではなかったことを見て行きます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):14世紀の危機</p> <p>内容:モンゴル中心の世界(パクスモンゴリカ)は急激な寒冷化に伴う異常気象とパンデミックによって崩壊しました。明朝建国者である朱元璋の伝記史料を中心にその様相を見て行きます。現代的なトピックとなっているパンデミックについて、歴史の観点から見ていきます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):「14世紀の危機」とポストモンゴル</p> <p>内容:「13世紀世界システム」が崩壊した後、どのような世界ができあがったか、見て行きます。現代と歴史との結び付きについて学びます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):ポストモンゴル国家としての明朝の建国</p> <p>内容:東ユーラシア圏においては、モンゴルと明朝が対立する新たな「南北朝時代」を迎えるが、その特徴を永楽帝の親征を軸に理解していきます。歴史の構造把握法について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):朱元璋の目指した明朝という国家</p> <p>内容:朱元璋が創造した国家には「14世紀の危機」を克服しようとした苦闘の跡が読み取ることができます。その実相を見て行きます。パンデミックが歴史上、何を引き起こしたのかを学びます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):倭寇と明朝による日本探査・日本地図</p> <p>内容:「14世紀の危機」におけるモンゴルの退潮は環シナ海域における勢力地図も書き換わりました。明朝は日本にスパイを放って最新状況の把握に努めますが、その様相を見て行きます。併せて、中国において作成された古地図の世界を見て行きます。歴史上の空間把握と人々の交流について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):中華型外交と日本</p> <p>内容:中華王朝の外交体制を朝貢システムと呼びます。この外交体制の特質について永楽帝の外交姿勢・遣明船派遣を例に取って理解を深めます。中国の対外関係の歴史的背景について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):東ユーラシア圏の貨幣史</p> <p>内容:デジタル貨幣なるものまで登場する現在ですが、「お金」の本質が失われたわけではありません。ポストモンゴルの国際貿易・国内取引を支えた貨幣の特質について学びます。現在の常識とは全く違う貨幣の姿について理解を深めることで、経済の本質的理解を促します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):皇帝専制支配とは</p> <p>内容:ポストモンゴルの中華世界では皇帝専制が強化されます。それでは、皇帝が勝手に何でも決められたのでしょうか。永楽政権における内閣制度の誕生と発展というできごとを通じて、皇帝専制の内実を探っていきます。現在もよく独裁という言葉が使われますが、独裁にはカラクリがあることを学びます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):歴史における救済とは何か?</p> <p>内容:ポストモンゴルは災害が多発する時代でした。中華の皇帝は被災者に対して救済を行いましたし、民間にも弱者救済の取組がありました。なぜ、被災者は救済されるのでしょうか。現代とは全く違う意味での救済の本質について理解を深めます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配付します。</p>
試験	レポート課題の提出

〔科目名〕 憲法概論	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教養科目 (第2群)文化と社会
〔担当者〕 調整中	〔オフィス・アワー〕 時間： 講義開始後に指示する。 場所： 講義開始後に指示する。	〔授業の方法〕 講義形式中心
〔科目の概要〕 本授業では、私たちの「人権」を保障する法・法律である「憲法」を学び、基礎的な法的知識及び法的思考を身に付けることをねらいとして講義する。国家の基本法である「憲法」は、私たちの「人権」をよりよく保障するために、国家機関に権力を授け、かつそれが暴走しないように一定の制限を定めた法である。そのため、国民を縛るルールではなく、国家権力を縛るルールとして機能する。こうした憲法の意義を理解し、日本国憲法における適切な「人権」保障の在り方と、その保障のために存在する国家の統治機構の概要を学ぶことを通じて、国家と国民との関係について考えることの出来る能力を養成し、将来的な政治参画の意思を育む。そして日本における現代的かつ将来的な「人権」問題について捉え、どのように解決すべきかの方法を検討する機会も提供する。 なお、一般に難解であると捉えられがちな「法学」および「憲法学」の講義であるが、具体的な裁判例や最近の身近な素材(書籍、雑誌、テレビニュース、新聞記事、インターネットなど)を利用して、理解を促すように工夫する予定である。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 昨今の日本では、国会の中で日本国憲法改正の議論がなされており、近い将来に私たち国民が、憲法第96条に規定された手続に従って、国会により提案された憲法改正案に対する国民投票に参加・投票する機会が訪れるかもしれない。この憲法改正の国民投票の際には、18歳参政権が制度化された現代において、大学生であっても重要な政治的判断を求められることになる。そして、こうした政治的判断を表明する際には、その基準として、憲法的な知識を身に着けたうえで参加する必要がある。加えて、日常的に行われる選挙参加(参政権の行使)についても同様である。そこで、憲法とはどのような法・法律であるのか、現在の日本国憲法において「人権」を保障するとはどういうことかについて学び、それについて考え、主権者として国家の政治に関わるための基礎力を養う機会を本科目で提供する。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 第一に、「憲法」という法・法律の意義と特徴を理解することを中間目標とし、最終的には以下の事項を習得することを最終目標とする。 (1) 日本国憲法に関する基礎的知識を習得し、日本国憲法の特徴および「立憲主義」の意味を理解する。 (2) 日本国憲法が保障する「人権」とは何なのかを理解し、その保障の意義を認識する。 (3) 日本国憲法に定められた、人権保障のために存在する統治機構の制度の意義を認識する。 (4) 憲法改正や安全保障などの最近の憲法をめぐる問題について関心を持ち、憲法の知識・理解を通じて、自らその問題の是非を考え、検討する能力を習得する。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 本科目で取り扱う講義内容の理解の定着を促すために、重要な点について繰り返し説明を行う。これに対して例年の授業評価アンケートでは、理解が深められるとの肯定的な意見もある一方で、復習に割かれる時間が長く、講義内容の進行が遅いという指摘もあることが多い(これまでも同様であった)。そのため、理解の定着を促すための時間配分と、講義の進行状況を考えながら、今後は適切な講義を行うことに努めたい。また教員の声量等の問題への指摘も例年あるが、今後はできる限り履修者全員が授業内容を理解できるような声量および声の速度で講義を行うように心がけるようにする。なお、本科目は「憲法学」という抽象的な学問内容を取り上げて講義するため、科目の性質上、明快・簡潔な説明だけでなく、抽象的かつ難解な表現で説明されることもある。この点については、具体的な事例等を用いて、「憲法学」を具体的なイメージでも捉えられるような講義展開を行うように努める。		
〔教科書〕 斎藤一久・堀口悟郎(編)『図録日本国憲法 第2版』(弘文堂、2021年)		
〔指定図書〕 講義中に紹介する。		
〔参考書〕 大津浩・大藤紀子・高佐智美・長谷川憲『新憲法四重奏 第二版』(有信堂、2017年) 芦部信喜著(高橋和之補訂)『憲法 第7版』(岩波書店、2019年) 長谷部恭男・石川健二・宍戸常寿(編)『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第7版)』(有斐閣、2019年) など。上記以外は講義中に紹介する。		

〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 定期試験もしくはレポートの結果だけでなく、通常授業時における受講生の理解度なども評価対象として、総合的に評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕 授業に対する取り組み姿勢および授業内での理解度把握のための提出物による評価(毎回の授業後に復習問題を提示する予定であり、全15回のうち数回、この復習問題の解答の提出を求める可能性があり、この正答率を評価の対象の一部とする可能性がある。)や期末定期試験もしくはレポートの成績に基づいて総合的に評価を行う。総合成績評価において、50%以上取得した者に対して単位認定する。なお上記の成績対象においては、憲法学に対する基礎的な知識を身につけ、理解ができているかどうかが主な評価基準であり、その上で、自身の意見や考え方を有することができているかどうかは補足的な評価基準である。(※なおこの基準は、新型コロナウイルス対策等のための講義展開の変更に伴い、変更される場合がある。その場合は、その都度、新たな成績基準や成績評価方法に関する説明を行う予定である。)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 授業内で取り上げる憲法をめぐるトピックスについては、受講者の希望をできる限り取り入れ、現在起きている社会問題について新聞記事などを活用して取り上げたいと考えているので、随時提案してもらいたい。そのため、最近の憲法をめぐるニュースについて関心をもって授業に臨むことを期待する。 また、授業内容については、授業の進捗を勘案して適宜調整することがある。加えて、受講者の習熟度によっては、授業内容を変更することもある。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス・法とは何か・憲法とは何か 内 容: 初回ガイダンスをかねて、法とは何か、憲法とは何かを考え、それぞれの意味を検討する。その際、キーワードとして「立憲主義」に言及し、この意味を探る。 教科書・指定図書 レジュメを配布予定。準備学習として、憲法とはどのような法律なのか、イメージをもって授業に臨むこと。
第2回	テーマ(何を学ぶか): 人権とは何か・人権保障のための裁判所 内 容: 人権とはいったいどのような性質を有する権利であるのかを確認し、日本国憲法に規定されている具体的な人権の内容を理解する。また人権保障のために存在し、機能すべき裁判所の役割も確認する。 教科書・指定図書 教科書「1 憲法とは何か」・「18 統治機構・総論」・「23 裁判所」・「24 司法権と憲法訴訟」
第3回	テーマ(何を学ぶか): 日本国憲法における人権保障の享有主体 内 容: 日本国憲法における人権保障の享有主体について、基本的人権の享有を定めた憲法11条等の主語が「国民」であることの意味を検討しながら講義し、日本国憲法は誰の人権保障を行っているのか検討する。 教科書・指定図書 教科書「2 人権の射程」
第4回	テーマ(何を学ぶか): 幸福追求権①(自己情報コントロール権) 内 容: 日本国憲法における人権保障の在り方の基本である「内在的制約原理」について理解する。そして、表現の自由の保障とプライバシーの権利の衝突を通じた人権保障の在り方の事例を紹介し、このプライバシーの権利が憲法のどの規定から保障されるべきかを検討する。 教科書・指定図書 教科書「3 新しい人権」
第5回	テーマ(何を学ぶか): 幸福追求権②(生命に対する自由) 内 容: 人間の「幸福」をめぐる自由としての幸福追求権の保障とその限界について、生命の処分をめぐる事例「エホバの証人無断輸血事件」「東海大学安楽死事件」等を取り上げて講義する。 教科書・指定図書 教科書「3 新しい人権」
第6回	テーマ(何を学ぶか): 法の下での平等と平等原則 内 容: 日本国憲法が保障する「法の下での平等」の意義について講義し、それが平等として一般にイメージされる「絶対的平等」とは異なり、「合理的差別」を認めるものであることを講義する。そして、「合理的差別」が認められる基準はどこにあるのかを探る。 教科書・指定図書 教科書「4 法の下での平等」

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):精神的自由①(内心の自由)</p> <p>内 容:各人の内心の自由について、なぜ保障すべきか、そしてどの範囲まで保障されるべきかについて、「君が代訴訟」「加持祈祷事件」「オウム真理教事件」等を取り上げて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「5 思想・良心の自由」・「6 信教の自由」</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):精神的自由②(表現の自由の優越)</p> <p>内 容:自身の思考を表に示す権利としての表現の自由が、なぜ重要な人権として保障されるべきかについて講義し、この自由の保障の重要性から「二重の基準論」と精神的自由の保障の在り方について説明する。また、表現の自由の保障の限界について、「チャタレイ事件」等の判例から導かれるわいせつ表現の規制、在日朝鮮・韓国人に対するヘイト・スピーチに対する立法による規制などとの関係から検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「7 表現の自由・総論」・「8 表現の自由・各論」</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済的自由(職業選択の自由・財産権)</p> <p>内 容:自身の生活設計に関わる経済的自由について講義する。具体的には、どのような方法で生計をたてるための金銭を獲得するかについて選択する職業選択の自由と獲得した金銭をどのように使用するかに関わる財産権の保障の内容についてである。そしてこの経済的自由に対する補償の限界について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「11 職業選択の自由」・「12 財産権」</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会権・生存権</p> <p>内 容:社会的・経済的弱者が「健康で文化的な最低限度の生活を営む」ために必要な権利とはどのような権利であるのかについて、「朝日訴訟」「堀木訴訟」等を通じて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「13 生存権」</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境権・平和的生存権</p> <p>内 容:現代社会の中で、私たちが平和で安全にかつ安心して生活することができるために保障されるべき人権としての、環境権および平和的生存権について講義する。またこの回の講義では特に、現在の日本の改憲論争の中心となっている自衛のために自衛隊を有することと憲法第9条の関係性について明らかにした上で、平和的生存権とはどのような人権であるべきかについて考察する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「3 新しい人権」・「13 生存権」・「28 平和主義」</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):人身の自由</p> <p>内 容:日本国憲法に定められた「人身の自由」の保障のあり方について、日本の刑事事件と裁判制度の問題を取り上げて講義する。具体的には、法学上の重要な考えである「罪刑法定主義」の意味について考える。また、自身が刑事裁判の判断に裁判員として関わりうる裁判員制度の制度内容についても講義し、その問題点について考察する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「17 刑事手続上の権利」</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):国民主権</p> <p>内 容:日本国憲法に定められた「国民主権」の意味について、民主主義の実現との関係から講義し、特に現代日本において、主に選挙に基づく代表民主制と、憲法改正の国民投票における直接民主制といった民主主義体制を採用していることの意味について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「18 統治機構・総論」</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):選挙制度と参政権</p> <p>内 容:立法を担う国会議員を、選挙を通じて選択する権利である国民の参政権の保障と、日本における選挙制度が複雑な制度であることとの関係についての理解を促す講義を行う。加えて、参政権の実質的な保障と「一票の格差」の問題についても講義し、この是正方法について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「16 参政権と選挙制度」</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):国会と内閣</p> <p>内 容:国家統治を担う機関として、立法権を有する国会と行政権を有する内閣の各権能について確認し、両者の権能の重複について、どのように分立されるべきかについて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「19 国会」・「20 議院と議員」・「21 内閣」・「22 行政」</p>
試験	<p>定期試験(第1～15回の講義内容を範囲とした、記号選択式の問題+論述式の問題)</p> <p>もしくは課題レポートの提出</p>

〔科目名〕 地球科学	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 三浦 英樹	〔オフィス・アワー〕 時間： 講義後または適宜(事前のメール連絡で時間調整します) 場所： 研究室(大学院棟 1203 室)	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 地球科学を学ぶことは、われわれが暮らす惑星「地球」の環境や歴史を知り、その素晴らしさと限界を認識・理解することです。この授業では、人類が地球を認識してきた歴史を縦軸に、見出された地球の現象の内容と意味を横軸にして、以下の目標と内容で展開します。 <ol style="list-style-type: none"> ① 自然がもつ圧倒的な力、偉大さを感じ取り、自然に対する畏敬の念をもてるように、映像や写真、図などを活用して、地球上に見られる様々な自然現象の美しさや不思議さを紹介すること ② 古代ギリシア・ローマ時代に始まり、大航海時代を経て、現代に至るまで、世界中の地理学者・博物学者・自然科学者が地球を知るために行ってきた探検、観察、実験等を取り上げ、それらの着眼点の面白さを感じられるように、発見・発想に至ったエピソード、作成された様々な図や記載および考察の内容を紹介すること ③ 地球上で生じる様々な自然現象の原因やプロセスの内容と意味を理解できるように、それらを科学的・論理的に解説すること ④ 地球をひとつのシステムとして理解するために、地球システムの考え方、異なる現象間の相互関係や現象の歴史性の考え方を伝えること ⑤ 地球温暖化、食料問題、エネルギー問題、災害等、人類の存続に関わる問題を考える背景として、グローバルな視点とローカルな視点の両面から、人類と地球・自然との関係について考えること 		
〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 人類はどのように地球を理解してきたのか、そして、地球はどのように成り立っているのか、そのような経緯や地球の仕組みと歴史を知ることは、現在の地球環境や今後の人類のあり方を相対化して考えることに繋がり、現代の人類が抱える様々な問題を客観的に考えるための第一歩となります。 また、自然を深く理解して、より良く社会に活かすこと、災害から自分の命を守ることは人類の大きな知恵とも言えます。地球科学を学び、地球を理解することは、このような知恵を生み出すための基礎的な情報源になります。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 授業を通して、地球上で生じる様々な自然現象を解説していきます。特に、毎回、重要な内容については、「ここがポイント！」というコーナーを設けて詳しく解説しますので、少なくともここだけは、地球科学の基本知識として、しっかりと理解して身につけて下さい。また、それらの知識をつけることで、地球で見られる様々な現象を知的に把握して、楽しめるようになって欲しいと思います。授業の合間にお話する、地球科学に関する探検史や研究の歴史、エピソードは、教養として楽しんで下さい。これらのことがらを習得することを到達目標とします。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 限られた時間内で伝えたいことが多く、内容の取舍選択が難しかった。問題点としても指摘されているように、授業回によっては、ボリュームが多く、早足で、理解しづらい説明もあったため、盛り込む内容とボリュームの再検討が必要と考えている。 動画の活用への評価が高かったので、引き続き、活用していきたい。また、毎回の授業後のリアクションペーパーには、はっとさせられるものも多く、勉強になるものも多く、終了後に、読むことは楽しみであった。質問内容にも、時間が限られる中、授業内ですべての質問に回答することは難しいが、丁寧な質問への回答・解説に対する評価は高かったようなので、できる範囲で継続していきたい。		
〔教科書〕 ありません。各回で、必要に応じ、資料を配付します。すべての配布資料は、試験の時に持ち込み可能ですので、メモ等を記入して下さい。		
〔指定図書〕 ありません。		
〔参考書〕 荒木健太郎(2021)『空のふしぎがすべてわかる！すごすぎる天気の見極め』KADOKAWA. 貝塚爽平ほか編著(2019)『写真と図でみる地形学 増補新装版』東京大学出版会. 第一学習社(2023)『新課程二訂版 スクエア最新図説地学』第一学習社. 数研出版編集部(2023)『新課程 視覚でとらえる フォトサイエンス 地学図録』数研出版.		

平 朝彦・国立研究開発法人海洋研究開発機構 (2020) 『カラー図解 地球科学入門 地球の観察—地質・地形・地球史を読み解く』 講談社。
 ニュートン編集部 (2014) 『奇跡の惑星 地球の科学』。ニュートンプレス。
 ニュートン編集部 (2022) 『地球温暖化の教科書』。ニュートンプレス。
 浜島書店(2022) 『ニューステージ新地学図表: 地学基礎+地学対応』。数研出版。

〔前提科目〕

ありません。なお、専門科目の「地形地理情報論」、「自然史・地理情報と地域創造」を履修する予定の方は、この科目を履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

- ① 授業の最後には、「リアクションペーパー」の時間を設けて、提出してもらいます。「リアクションペーパー」には、授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。文章は、他人が読むことを前提に、わかりやすく論理的に書いてください。おもしろい、または重要な意見・質問は、できるだけ、次の授業の冒頭で紹介・回答します。
- ② 授業中には、「ここがポイント!」というコーナーを設けて、地球科学における重要な現象・用語の内容について強調して説明します。期末に行う「試験」の前半3分の2は、この「ここがポイント!」で解説した内容の中から数件をピックアップして出題するので、それらを説明する形式で回答してもらいます。授業中の説明を理解していれば回答できる内容です。
- ③ 「試験」の後半3分の1については、授業中に示した地球科学の考え方や見方に基づいて、人類と地球・自然との関係について問いを出題しますので、それに対して自分の考えや意見を中心に論理的に自由に記述する形式とします。

〔評価の基準及びスケール〕

- ① 「試験」の前半3分の2では、地球科学における重要な現象・用語の内容や説明について、正しく論理的に理解して、説明ができるかという観点で評価します。
- ② 「試験」の後半3分の1では、人類と地球・自然との関係に関する問いへの自由記述になりますので、ここでは他人が理解できる文章を書いていること、自分の中にある問題意識や考えを自分なりの言葉でわかりやすく論理的に表現しているかという観点で評価します。
- ③ 総合的な評価は、「リアクションペーパー」の評価60%、「試験」の評価40%の比率で、両者を合算して、合計100点満点(A:80点以上、B:70~79点、C:60~69点、D:50~59点、E:50点以下)で評価します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

- ① 毎回、授業の冒頭で、地球科学やそれに関連するテーマについて、いろいろな質問を口頭で問いかけますので、各自でよく考えて、当てられた人は、思うところを率直に答えてみて下さい。ここは間違えても、いっこうに構いません。質問の内容を自分事として考えることで、授業で私が何をテーマとして伝えようとしているのかがわかり、そのあとの説明が頭に入りやすくなり、内容を楽しめるようになるかもしれません。
- ② 授業では、テレビや新聞など、日常でよく目や耳にする基本的な自然現象を丁寧に解説していきます。これらの地球科学の基本知識は、地球環境問題や自然災害を理解するための基本的背景となっており、経営経済学部の学生として、また社会人としても、いまや欠かすことのできない重要な教養となっています。それは遠い世界のことでなく、実は自分の日常生活やこれからの人生をどのように過ごしていくかということにも関係しています。自分事として考えることで、内容への興味が湧いてくることと思います。
- ③ 旅行あるいはテレビやインターネットで、これまでただ漫然と眺めていた地球の風景は、その見方や読み方を知ることで、まったく違うものに見えてきます。それらを明らかにしてきた人間の知恵の素晴らしさと地球の美しさを実感できるようになって、旅をすることが楽しくなるようになって欲しいと思っています。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション、(1)地球の姿と活動: ①地球の大きさや形 内 容: 全体のイントロダクションとして、この授業の目的と内容を概説します。また、地球科学の基本的な情報として、地球の大きさや形の考え方について解説します。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): (1)地球の姿と活動: ②地球の構造と地磁気 内 容: 地球内部の層構造はどのようになっているのか、地磁気とはどういうものかについて解説します。 教科書・指定図書

第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): (1)地球の姿と活動: ③地球内部の熱とプレートテクトニクス</p> <p>内 容: 地球内部にはなぜ熱が存在するのか、プレートテクトニクスの考え方はどのように導かれてきたのかについて解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): (1)地球の姿と活動: ④プレートの境界で生じる現象</p> <p>内 容: プレートの境界にはどのような種類があり、それぞれの境界では、どのような地球科学上の現象が生じているのかについて解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): (1)地球の姿と活動: ⑤地震の仕組み</p> <p>内 容: 地震が発生する仕組みと地震に関わる用語について解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): (1)地球の姿と活動: ⑥地震と活断層</p> <p>内 容: 地震が起こる場所と断層との関係、活断層、地殻変動及びそれらがもたらす地形や災害について解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): (1)地球の姿と活動: ⑦火山活動の仕組み</p> <p>内 容: マグマの発生と火山活動の仕組み、火山の分布について解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): (1)地球の姿と活動: ⑧火山噴火と火山噴出物・火山地形</p> <p>内 容: 火山噴火の様式と火山噴出物、火山地形及び火山噴火がもたらす災害や恩恵について解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)地球の歴史: ①風化と重力、河川および海の波による地表の変化と地形・地層</p> <p>内 容: 風化と重力、河川および海の波がつくる地形と地層について解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): (2)地球の歴史: ②風および氷河による地表の変化と地形・地層、地質時代の区分</p> <p>内 容: 風および氷河がつくる地形と地層、及び地球の地質時代の区分について解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): (3)大気と海洋: ①大気と海洋の構造と循環</p> <p>内 容: 地球全体の熱収支、大気圏の構造と循環、海洋の構造と循環について解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): (3)大気と海洋: ②雲の形成と降水・降雪</p> <p>内 容: 大気中の水蒸気、雲の形成、降水・降雪の仕組みについて解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): (3)大気と海洋: ③低気圧と高気圧</p> <p>内 容: 大気の流れと高気圧・低気圧、温帯低気圧と熱帯低気圧の発生の仕組みについて解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): (3)大気と海洋: ④日本列島周辺の気候と気象</p> <p>内 容: 日本列島周辺で見られる気候と気象の現象とその特徴について解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): (4)地球の環境: 地球システム・地球環境の変化と人類</p> <p>内 容: 地球システムと地球の歴史という視点で、今まで見てきた様々な現象を捉えなおし、そこに人間がどのように関与し、影響を与えるようになってきたのかを解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	80分の筆記試験を実施します。

〔科目名〕 宇宙科学	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 市村 雅一	〔オフィス・アワー〕 時間: 講義の前後 場所: 講義室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>この科目では、人類の長い歴史の中で明らかにされてきた宇宙に関する知識を学びます。具体的には、太陽系内の地球、月、太陽、惑星の運動や性質、太陽に代表される恒星の進化と最後の姿、恒星の集まりである銀河系や宇宙そのものについて学習します。また、これらを理解するために必要な基礎的な知識や法則についても学びます。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>物事に対する好奇心・探求心や新しい発見をしたいという欲求は、科学の入り口です。この授業は、宇宙に興味を持っている人がその好奇心を満たすための知識、方法を学ぶ授業です。客観的データに基づいて論理的に問題解決に向かうやり方は、自然科学のどの分野でも共通するものです。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>宇宙科学に関する基礎的な知識を身につけます。また授業で得た知識をきっかけにして、何か宇宙に関連する話題に触れた際に、それに興味を持ち、疑問を見つけ、それを解決するために必要な科学的なアプローチをする、そういうことができるようになるのが目標です。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>やや理解しにくいところがあったとの声がありましたが、よりわかりやすく説明できるよう内容を改善していきます。質問時間をあまりとれませんでした。講義終了後に質問を受け付けるようにしますので、疑問点はなるべくその日のうちに知らせてください。みなさんの声を聞きながら授業をより良いものにしていきたいと思っています。</p>		
〔教科書〕 使用しません		
〔指定図書〕 特になし		
〔参考書〕 特になし		
〔前提科目〕 なし		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>第8回の授業の際に中間の確認試験を、最後に期末試験を実施します。これらのほかに、簡単なレポートを2回程度課します。中間の確認試験30%、期末試験50%、レポート20%の重みで総合点を算出し評価します。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>総合点が60点以上を合格とします。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>その日の授業で疑問に思うところがあれば、自分で調べるなり、教員に質問するなりしてなるべく早めに解決するようにしてください。</p> <p>宇宙の話に興味をもっている人に、美しい天体の写真を見て感動したあとに、もう一步踏み込んで考えてもらえるようにしたいと考えています。その写真から何が読み取れるか？どんな疑問がわくか？それを解決するにはどうしたら良いか？そのために必要な論理的な考え方や基本的な知識をこの授業を通して伝えていきたいと思っています。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 序</p> <p>内 容: 科学の考え方、宇宙観測からわかってきたこと、角度測定、距離の単位とスケール</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 星の運動、日食・月食と月の運動</p> <p>内 容: 裸眼による天文学、星座、星の日周・年周運動、地球の自転・公転と季節 月食、日食、月の自転・公転</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 重力と惑星の運動 I</p> <p>内 容: 天動説と地動説、惑星現象、ケプラーの3法則</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 重力と惑星の運動 II</p> <p>内 容: ケプラーの3法則(続)、万有引力、潮汐力</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 光の性質 I</p> <p>内 容: 光速、電磁波、ウィーンの法則、シュテファン=ボルツマンの法則、光子</p> <p>教科書・指定図書</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 光の性質 II 内 容: 星のスペクトル、原子のラザフォードモデル、ボーアの式、ドップラーシフト</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 太陽系 内 容: 惑星の分類、平均密度、化学組成、クレーター、太陽系の形成、系外惑星</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 前半のまとめ、中間試験 内 容: 前半のまとめをした後、中間の確認試験を行います。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 恒星の性質 内 容: 熱核融合反応、太陽、距離の測定、等級、光度、スペクトルと温度、H-R 図、連星、</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 星の誕生 内 容: 星間ガスとダスト、原始星、主系列星への進化、HII 領域</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 星の進化 I 内 容: 主系列星後の進化、赤色巨星、ヘリウムフラッシュ、AGB 星</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 星の進化 II 内 容: 惑星状星雲、白色矮星、超新星爆発</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中性子星とブラックホール 内 容: パルサー、脈動 X 線星、相対論の基礎、ブラックホールの性質</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 銀河系 内 容: 銀河系の大きさと形状、ダークマター、銀河の回転運動</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 宇宙の始まりと進化 内 容: 膨張宇宙、ビッグバン、ハッブルの法則、宇宙背景放射</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>筆記試験を行います。</p>

〔科目名〕 健康と医療	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 長岡朋人	〔オフィス・アワー〕 時間:12:20~12:50(要予約) 場所:605 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 1. 講義の内容 本講義は、人体の構造と機能の学習を通して、健康と医療に関するリテラシーを涵養することを目的とします。人体と構造と機能は医学・医療の基礎となります。近年の医学・医療は急激に発展しており、社会との関わりが密になっています。本講義は、細胞や遺伝子の講義から始まり、人体そのもののマクロ的な視点を涵養し、ときには症例をまじえながら、基礎医学と臨床医学の橋渡しとなる講義を目指します。講義は、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、神経系、内分泌系、運動器系、生殖器系の講義を行います。 2. 講義の特色 医学・医療系の講義は膨大な用語を正しく理解する必要があります。語学と同様に手間と時間をかけなければ医学の「言葉」は理解できません。講義資料には欧文(英語、ラテン語)を含む場合があります。本講義は暗記を目的としていませんが、理解するためには反復学習が必要です。全講義に出席しなければ試験には対応できませんので全講義に出席できる学生の受講を希望します。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕 1. 批判的思考 私たちは医療に密接にかかわる場面で生活しています。医療の知識は常に進歩していき、当たり前だと思った知識も色褪せていきます。身近にある当たり前の事柄に疑いを持ち(病院における診断も必ずしも正しいとは限りません)、情報を取捨選択するための基礎知識を涵養します。 2. 専門分野との学際的接点 本科目と経営経済学との学際的接点(たとえば感染症と経営経済学は密接に関わります)により、学生の知的好奇心を高めることができると確信しています。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1. 最終目標 (1) 書籍やインターネットの情報を検索・取捨選択し正しく引用できること、(2) 自分の言葉で情報を整理し意見を述べるができること、(3) 医学・医療に対する批判的思考を身につけることです。 2. 中間目標 膨大な情報量を持つ学問領域を知ること、健康や医療のリテラシーを身につけることです。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 板書について、字が読みづらいなどの指摘がありました。しかし、これは講義中のアンケートですすでに改善済みの点ではあり、改めて指摘されることではないと考えます。パワーポイントの資料とペンタブレットを利用して文字の見づらさはいっそう改善できる見込みです。解決済みの指摘ですが、板書の文字が読みづらいというのは講義をきちんと聞いていれば(講義を聴きながらメモを取る習慣がついていれば)気にならない問題です。また、講義中に読めない文字や難しい文字があればアクションペーパーなどで指摘する機会を設けていましたのでそのときに指摘してください。 不真面目な学生が周りの学生に迷惑をかけているという点について、この点は教員から学生に注意すべきことかと受け止めています。大学生にもなってこのような注意をするのは考えてしまいますが、きちんと指導を受けなければ理解できない学生がいるので、教育的な配慮として学生には諭します。		
〔教科書〕 配布資料		
〔指定図書〕 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)、「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)		
〔参考書〕 なし		
〔前提科目〕 なし		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 試験、講義時の課題への取り組み(課題シート)、レポート。課題シートは講義を踏まえて書くものであるため <u>後日提出は認めません</u>。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 Aは80点以上、Bは70～79点、Cは60～69点、Dは50～59点、Eは49点以下と評価します。全講義回数の3分の1(講義回数が15回であれば5回以上)の欠席者はF評価とします。また、試験の無断欠席者、レポートの未提出者・遅延者はF評価とします。また、試験の無断欠席者、レポートの未提出者・遅延者はF評価とします。<u>課題シートの後日提出は認めません</u>。欠席届は事務局の印鑑をもらってから提出ください。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>1. 受講の姿勢 (1) 講義の目的は暗記ではありません。健康と医療に関するトピックをもとに、当たり前と想っていた事柄に対して批判的な思考を身につけましょう。(2) 医学・医療に関わる膨大な情報量を理解するために、講義では常にノートでメモを取る必要があります。講義への積極的な参加を希望します。講義の難易度は高校の理科よりも難しいレベルであり、復習が欠かせません。漠然と講義を受けるだけでは理解できないため、講義を受講しながらメモを取る癖をつけましょう。</p> <p>2. 学生への要望 (1) 遅刻・欠席は控えてください(すべての講義に出席できる方が受講してください)。(2) 講義で分からないことは質問してください。(3) 受動的な姿勢で受講しないでください。講義中の私語や携帯電話の利用は禁じます。(4) マスクや手指消毒を行い感染対策に努めてください。</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 本講義の目的、内容、評価方法について理解を深める。 教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 解剖生理学を学ぶための基礎知識 内 容: 細胞生物学と組織学について理解を深める。 教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 解剖生理学を学ぶための基礎知識 内 容: 人体の構造と区分、人体の部位と器官、方向を示す用語について理解を深める。 教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消化器系 内 容: 口、咽頭、食道、腹部消化管の構造と機能について理解を深める。 教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 呼吸器系 内 容: 呼吸器の構成、肺の構造と機能、呼吸器系の病態生理について理解を深める。 教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 循環器系 内 容: 心臓の構造と機能について理解を深める。 教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 循環器系 内 容: 末梢循環器系の構造と機能、リンパ管系について理解を深める。 教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):神経系</p> <p>内 容:中枢神経の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):神経系</p> <p>内 容:末梢神経の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):医の倫理</p> <p>内 容:生命倫理に関する講義です。生命倫理が誕生した背景、医学研究をめぐる倫理指針(ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言)、インフォームドコンセント、臓器移植や再生医療をめぐる倫理的問題について理解します。</p> <p>教科書・指定図書「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):医の倫理</p> <p>内 容:生命倫理に関する講義です。生命倫理が誕生した背景、医学研究をめぐる倫理指針(ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言)、インフォームドコンセント、臓器移植や再生医療をめぐる倫理的問題について理解します。</p> <p>教科書・指定図書「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):人類と感染症の歴史</p> <p>内 容:人類と感染症の歴史について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):医史学</p> <p>内 容:病気と治療の歴史について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):医史学</p> <p>内 容:病気と治療の歴史について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域医療</p> <p>内 容:青森の医療の現状と課題について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書:なし</p>
試験	<p>期末試験</p>

〔科目名〕 科学技術と社会Ⅰ	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 長岡朋人	〔オフィス・アワー〕 時間:12:20～12:50(要予約) 場所:605 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 1. 講義の内容 本講義は、科学の実用的な価値を教える「科学の教育」ではなく、科学を対象化して外から評価する「科学についての教育」を目的とします。科学の歴史において、現象や法則の発見のプロセスを、その研究者の時代的な背景をもとに解き明かし、科学的事実が社会や文化に与えた影響を考究します。科学技術とそれを取り巻く社会や文化を講じる時、生命科学、地球科学、宇宙科学、医学などの技術の数だけテーマに広がりがあり、それぞれに技術の発展の背景があります。本講義のねらいは、科学の光と影の歴史を見渡す視座を通して、現代の複雑な問題に対処できる問題解決能力を涵養することです。科学哲学、科学技術社会論、科学史・科学技術史を概説し、近年発展が著しい医史学や生物学史を掘り下げ、科学と社会に関する幅広い知見と学際的な視点を紹介します。また、「人間とは何か」という命題に対する科学的理解と社会への影響をトピックに、進化論が生まれた19世紀以降、人間の由来をめぐる科学の発展と葛藤の歴史を通して、科学が社会とともにどのように歩んだかを振り返ります。本講義の独自の試みとして、青森県を舞台とした科学史・科学技術史の軌跡を振り返り、ときには青森県内の博物館施設の利用を促し、学生の好奇心を高めるとともに青森県に根ざした学びを支援します。科学技術と社会Ⅰでは科学哲学、科学技術社会論を中心に講義を行います。全講義に出席しなければ試験には対応できませんので全講義に出席できる学生の受講を希望します。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 1. 批判的思考 私たちは科学技術に密接にかかわる場面で生活しています。科学の知識は必ずしも絶対的なものではなく、政治社会経済的背景を反映します。社会は常に変化していき、当たり前だと思った知識も色褪せていきます。身近にある当り前の事柄に疑いを持たばメディアにあふれる情報を取捨選択できるでしょう。 2. 専門分野との学際的接点 本科目と経営経済学との学際的接点(たとえば生物学史における進化ゲーム理論は経済学にも応用されています)の意外性により学生の知的好奇心を高めることができると確信しています。 3. 地域貢献 青森にある学習資源を生かした教育により深く地域を理解し、地域の発展に資する人材を育成します。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1. 最終目標 (1) 書籍やインターネットの情報を検索・取捨選択し正しく引用できること、(2) 自分の言葉で情報を整理し意見を述べることができること、(3) 科学に対する批判的思考を身につけることです。 2. 中間目標 本を読む習慣を身につけること、科学リテラシーを身につけることです。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 講義をシラバスの順番通りに行ってほしいというコメントがありましたが、講義は日々のトピックを含めていますので講義の順番や内容が変わることがあります。また、講義の分かりやすさから順番を入れ替える工夫をしています。		
〔教科書〕 講義時に資料を配布します。		
〔指定図書〕 「理系人に役立つ科学哲学」(森田邦久、化学同人、2010年)、「科学技術社会論の挑戦 2 科学技術と社会」(藤垣裕子ほか、東京大学出版会、2020年)、「軍事研究の戦後史」(杉山滋郎、ミネルヴァ書房、2017年)、「科学者と戦争」(池内了、岩波新書、2016年)、「疑似科学入門」(池内了、岩波新書、2008年)、「見る目が変わる博物館の楽しみ方」(矢野興一、ベレ出版、2016年)		
〔参考書〕 なし		
〔前提科目〕 なし		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 試験、講義時の課題への取り組み(課題シート)、レポート。課題シートは講義を踏まえて書くものであるため後日提出は認めません。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 Aは80点以上、Bは70～79点、Cは60～69点、Dは50～59点、Eは49点以下と評価します。全講義回数の3分の1(講義回数が15回であれば5回以上)の欠席者はF評価とします。また、試験の無断欠席者、レポートの未提出者・遅延者はF評価とします。課題シートの後日提出は認めません。欠席届は事務局の印鑑をもらってから提出ください。</p>	
<p>〔教員としての授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>1. 受講の姿勢 (1)講義の目的は暗記ではありません。科学技術と社会に関するトピックをもとに、当たり前と思っていた事柄に対して批判的な思考を身につけましょう。(2)大学における学びは講義室で完結するものではなく、私たちの周りにある自然、環境、生活、社会の中でつねに接点を持つものです。大学の外においても青森にある学習資源を生かした積極的な学びをお勧めします。講義には欧文資料を用いることがあります。講義の難易度は高校の理科よりも難しいレベルであり、復習が欠かせません。漠然と講義を受けるだけでは理解できないため、講義を受講しながらメモを取る癖をつけましょう。</p> <p>2. 学生への要望 (1)遅刻・欠席は控えてください(すべての講義に出席できる方が受講してください)。(2)講義で分からないことは気軽に質問してください。(3)受動的な姿勢で受講しないでください。講義中の私語や携帯電話の利用は禁じます。(4)マスクや手指消毒を行い感染対策に努めてください。</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):イントロダクション 内 容:歴史の枠組みの中で、「科学技術と社会」を学ぶための基礎知識を整理します。 教科書・指定図書:高校の理科、社会の教科書が手元があれば持参してください。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):科学哲学 内 容:科学哲学の基礎を学びます。科学とは何でしょうか。科学における推論(演繹的推論と帰納的推論の違い)を理解します。 教科書・指定図書:「理系人に役立つ科学哲学」(森田邦久、化学同人、2010年)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):科学哲学 内 容:科学哲学の基礎を学びます。科学の境界(科学と非科学の違い)を理解します。 教科書・指定図書:「理系人に役立つ科学哲学」(森田邦久、化学同人、2010年)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):科学哲学 内 容:科学概念について学びます。科学における現象の説明はどのようにすればよいでしょうか。科学における因果関係、法則、理論の概念を理解します。 教科書・指定図書:「理系人に役立つ科学哲学」(森田邦久、化学同人、2010年)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):科学技術社会論 内 容:科学コミュニケーションに関する講義です。科学コミュニケーションは、科学者が科学を市民に伝え科学リテラシーを高めるとともに市民から社会的リテラシーを高める双方向のコミュニケーションです。科学コミュニケーションのツールとして、科学者と市民の対話であるサイエンスカフェの現状と課題について理解します。 教科書・指定図書:「科学技術社会論の挑戦 2 科学技術と社会」(藤垣裕子ほか、東京大学出版会、2020年)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):科学技術社会論 内 容:科学者と戦争に関する講義です。科学は平和利用にも軍事利用にも使われるデュアルユースです。科学者が軍事研究に従ってきた歴史と軍学共同研究が急速に進んでいる現状を理解します。 教科書・指定図書:「軍事研究の戦後史」(杉山滋郎、ミネルヴァ書房、2017年)、「科学者と戦争」(池内了、岩波新書、2016年)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):科学技術社会論 内 容:科学者と戦争に関する講義の続きです。科学は平和利用にも軍事利用にも使われるデュアルユースです。科学者が軍事研究に従ってきた歴史と軍学共同研究が急速に進んでいる現状を理解します。 教科書・指定図書:「軍事研究の戦後史」(杉山滋郎、ミネルヴァ書房、2017年)、「科学者と戦争」(池内了、</p>

	岩波新書、2016年)
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 科学技術社会論</p> <p>内 容: 科学者と戦争に関する講義の続きです。科学は平和利用にも軍事利用にも使われるデュアルコースです。科学者が軍事研究に従ってきた歴史と軍学共同研究が急速に進んでいる現状を理解します。</p> <p>教科書・指定図書: 「軍事研究の戦後史」(杉山滋郎、ミネルヴァ書房、2017年)、「科学者と戦争」(池内了、岩波新書、2016年)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 科学技術社会論</p> <p>内 容: 科学と疑似科学に関する講義です。第一種疑似科学(占い、超能力、超科学)、第二種疑似科学(根拠のない科学的効果の商業利用)、第三種疑似科学(異常気象などの複雑な現象に対して原因があたかもわかっているように居直る)を理解します。</p> <p>教科書・指定図書: 「疑似科学入門」(池内了、岩波新書、2008年)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 科学技術社会論</p> <p>内 容: 科学と疑似科学に関する講義の続きです。第一種疑似科学(占い、超能力、超科学)、第二種疑似科学(根拠のない科学的効果の商業利用)、第三種疑似科学(異常気象などの複雑な現象に対して原因があたかもわかっているように居直る)を理解します。</p> <p>教科書・指定図書: 「疑似科学入門」(池内了、岩波新書、2008年)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 科学技術社会論</p> <p>内 容: 科学と疑似科学に関する講義の続きです。第一種疑似科学(占い、超能力、超科学)、第二種疑似科学(根拠のない科学的効果の商業利用)、第三種疑似科学(異常気象などの複雑な現象に対して原因があたかもわかっているように居直る)を理解します。</p> <p>教科書・指定図書: 「疑似科学入門」(池内了、岩波新書、2008年)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 科学技術社会論</p> <p>内 容: 科学と不正に関する講義です。科学史における重大な研究不正の事例、不正の原因、不正への防止の取り組みを学びます。</p> <p>教科書・指定図書: 「科学研究とデータのからくり」(谷岡一郎、PHP、2015年)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 科学技術社会論</p> <p>内 容: 生命倫理に関する講義です。生命倫理が誕生した背景、医学研究をめぐる倫理指針(ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言)、インフォームドコンセント、臓器移植や再生医療をめぐる倫理的問題について理解します。</p> <p>教科書・指定図書: 「科学技術社会論の挑戦 2 科学技術と社会」(藤垣裕子ほか、東京大学出版会、2020年)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 科学と地域</p> <p>内 容: 地域に根ざした学習素材をもとに科学と社会の関係を学びます。東北地方に残る日本の産業革命遺産(たとえば鉱山開発や製鉄の遺構)を参考に、産業革命が社会や生活をどのように変えたかを理解します。また、青森にゆかりがある科学者として、植物学者である郡場寛や航空工学者の木村秀政の足跡をたどります。</p> <p>教科書・指定図書: なし</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 生涯学習</p> <p>内 容: 博物館は私たちが科学に触れる生涯学習の場です。最先端の科学技術の成果と歴史の証拠である標本を実見しながら科学リテラシーを高めることができます。現在では自宅にいながらオンラインで博物館を見学することができます。博物館における生涯学習について学びます。</p> <p>教科書・指定図書: 「見る目が変わる博物館の楽しみ方」(矢野興一、ベレ出版、2016年)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): グループ学習</p> <p>内 容: 科学哲学と科学技術社会論に関する課題に対して、グループ学習を行います。</p> <p>教科書・指定図書: なし</p>
試験	期末試験

〔科目名〕 教養特殊講義 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 横手一彦	〔オフィス・アワー〕 時間: 講義開始時に指示 場所: 横手研究室(616 号室)	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>この講義は、近代日本文学の作品を個別に読み解くことを基本に、そのことに関連する事柄を含めて、ことばへの一般的な理解を深め(理論的)、自分のことばで表現すること(実践的)を目的とする。</p> <p>このことは、作品内容を要約し、成立背景等を確認し、本文を読み込むということにとどまらない。ことばは、自分が考えるという、思考そのものを外在化させる一つの形式である。</p> <p>そして、文学作品の読解は、非定型的な思考や感情の在り方を読み解くという行為でもある。そこに、これまで自分が理解し、持ち得ていたこととは異なる、特異性や意外性があることに気付く。それは、外部要因に誘発されながら、内部的な在り方を深めることに広がる。これまでの「国語」教科と違う点である。</p> <p>読書行為は、感受＝感じ取る、享受＝受け取って自分のものにする、鑑賞＝意味を理解し味わう、批評＝評価を述べる、評論＝意味を論じる、解釈＝意味を解き説明する、研究＝事実を調べ分析的に論理的に解説する、という各段階に区別される。</p> <p>作品は、読者(自分及び自分たち)の読書行為によって成立し、読者の位置(現在性)を問い直すことに拡散する。そして、新たな意味付けは拡散し、再集約される。そこに、作品を読む込む面白さがある。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕 <p>ことばを学ぶ基礎は、自分の見方や考え方を捉え、自分と異なる見方や考え方を習得する契機を得て、再度自分の在り方に立ち返ることにある。</p> <p>ことばは、見えることを表現し、見えないことも表現する。その狭間などを表現することで、それまでと異なる、私的な時空間が創出される。それは、現実の時空間にありながらも、部分的に、現実の時空間を超える(理想・幻想・虚妄……)。</p> <p>学び、考える主体として、近代という自明性に疑問符を付し、再構成し、全体像を構想し、その変化を部分的に読み解く。このような考察や分析の基本に立ち返ることで、他の科目との相互性が底辺部に形成される。</p> <p>ことばによって、「理解すること」と「表現すること」の意味を再把握する内的な営為は、間接的に、生きるという姿や形に関わる。時には、直接的に関わる。</p> <p>〈学ぶ〉ことは、自立的に生き、生き続け、より人間的に真っ当に在り続ける方途である。それらを、教場でともに考えたい。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標： <p>この講義は、教養教育科目の一つである。文学作品を具体的に読み、そこから掬い上げる非定型の知情の在り方を分析し、考察し、それらを講義前半の獲得目標に置く。読むということは、単に読み流すことではなく、作品本文を焦点化し、分析して、そこに書かれた内容と、書かれていない内容を理解し、考察することである。これまでの「国語」教科とは異なる〈ことばを学ぶパターン〉を紹介する。そして、自分が自分の行為を理解し、自分の内面を表現する大切さに及びたい。これを、中間目標とする。</p> 最終目標： <p>ことばを理解し、表現する、という人文科学領域の段階的な実践から、特定の課題に対し、それを対象化して、解決する方向性を模索する。講義後半では、映像や画像などの視覚媒体との関わりに拡大する。具体的には、青森県大間町の漁港をロケ地とした映画を取り上げる。そして最終目標を、現実に向き合い、現実の課題を解決する能力の獲得(視覚媒体も含めた文字媒体による「理解」と「表現」)とする。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>受講生から、板書等の教授法に関する改善を求められた。それらの改善に努める。また、プリントを活用する。平板な講義内容にならないように、また受講生の理解を深めるように講義内容を工夫し、組み立てる。今年度も、新たな教材研究に基づく教材開発に努め、その一端を講義に組み入れる(講義内容の部分的変更もある)。</p>		

〔教科書〕	
特に指定しない。	
〔指定図書〕	
特に指定しない。	
〔参考書〕	
講義の進行に伴い、適書を指示し、参考文献を紹介する。	
〔前提科目〕	
なし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
<p>近代の文学作品が、日本の近代化の諸相を、どのような人間的行為として描いたのか。この概略を多義的な視点から読解する。このことに対する学生側からの意見を求める。</p> <p>また、過去の特定の地点に立ち返り、現在の時空間の具体相についての理解を深める契機ともしたい。後半には、視覚媒体の教材を含める。</p> <p>自分が、自分の在り方を考察し、自分のことばで論理的に表現する。その能力を高める。これらが、毎講義における評価の観点である。受講者数などの要件によって、具体的な実施方法等は異なってくるが、講義のなかで小レポートを課す(クイズ)。また講義終了時、講義内容等に関するコメントを求める。学生の講義への参加を促し、それらの関わりを評価する。</p>	
〔評価の基準及びスケール〕	
講義への積極的な関わり(30%)、小テストや小レポート(30%)、学期末テスト(40%)。学期末に実施予定の試験は100点満点で採点する。それらを按分し、区分ける。A=100-80点 B=79-70点 C=69-60点 D=59-50点 F=49-0点	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
<p>この講義は、次のように進行する。多義的であり、雑多な感を持つであろうが、次のような項目立てと段階に拠っている。I. はじめに II. 前回の学生コメントの紹介 III. 復習 IV. 学生の考察・作業 V. 作品紹介 VI. 分析と考察と論理化 VII. 理論的な思考方法 VIII. 要点確認 IX. 質問 X. コメント。</p> <p>講義内容に関連する事柄を事前に学習し、挙手や質問シートに書き込むなど、積極的な取り組みを望む。</p>	
〔実務経歴〕	
該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 講義への導入</p> <p>内 容: 自己紹介 受講要件の確認 受講態度など 講義の概略 出席カード</p> <p>講義の導入(例. 言葉の基本形 作品評価の具体例) 宮野美乃里の作品 国語と母語</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 物語るという行為1</p> <p>内 容: ことばの基本形 学校教育 『言海』 自国の言語の規範 蕪村の作品</p> <p>文学作品の分析例 文学の3要素 分析の3視点</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 物語るという行為2</p> <p>内 容: 物語るという動物的な行為(?) 物語るという人間的な行為 神の視点から人間の視点への転換 時空間の整序 科学的思考方法の一例 解釈学的な経験</p>

	教科書・指定図書
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 分析的思考と論理化1 内 容: 近代という考え方 三重の時間の束 身体的な関わり1 耳からの読書 目からの読書 例. 宮沢賢治の作品</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 分析的思考と論理化2 内 容: 思考方法(四角形と補助線) 原典研究と批評史研究 存在と非在 例. 三浦綾子の作品 教育的価値観の逆転=墨塗教科書</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): テーマ性の追求(人類史的な経験)——長崎(浦上)原爆1 内 容: 世界戦争と人間の在り方 過去完了形と現在進行形 身体的な関わり2 例. 林京子の作A 当事者と非当事者 平和的な関係性</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): テーマ性の追求(人類史的な経験)——長崎(浦上)原爆2 石田雅子の作品 内 容: 家族の形 書誌的追求 被爆時の救援列車 例. 林京子の作品B 敗戦 敗戦期の文学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域史研究・文化研究の可能性 内 容: 長崎県島原半島 口之津港 外国船 地域に生きる 地域外に生きる 子守唄 情の結晶 地域の庶民史 地域の文化 過去の生成物 津軽・下北・三八・上北 例. 事例研究「島原の子守唄」</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 思考過程を組み立てる・思考過程を文字化する 内 容: 対話「本気」 夢と現実 学ぶということ ことばで語る ことばで表現する 例. 咸宜園 適塾</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば1——文字媒体・画像媒体・映像媒体の段階 内 容: 絵画と文字 壁画 印刷 肖像画 写真技術の発達 上野彦馬</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば2——画像媒体の進化 目の現実とレンズの「現実」 内 容: 絵画による理解 画像による理解 映像による理解 米国企業コダック 19世紀から20世紀へ 映像の諸相 画像から映像へ 映画産業の成立</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば3——映像の進化 内 容: ヒトラーとチャップリン 電子技術 「理解」と「表現」</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば4——文学と映像A 地域に生きる 内 容: 吉村昭『魚影の群れ』と映画『魚影の群れ』 作品成立の背景 現実に生きる</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば5——文学と映像B 「現実」が描く事実と人 批評する視点 内 容: 吉村昭『魚影の群れ』と映画『魚影の群れ』 視覚化された作品世界 現実と「現実」</p> <p>教科書・指定図書</p>

第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ</p> <p>内 容: ことば(話す・聞く・読む・書く) 文学作品 表現と形式 理解と表現 視覚資料と文字資料による現実と「現実」</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>期末試験をおこなう(—受講者数の関心の在り方などを考慮し、レポート提出に代えることもある)。</p>

〔科目名〕 自治行政政策論	〔単位数〕 1単位	〔科目区分〕 キャリア教育科目
〔担当者〕 青森県職員 (コーディネーター：経済グループ)	〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 青森県の経済・財政・労働政策・農林業・水産業・観光などに関し、現状や課題および今後の方向性といったことについて、青森県庁の関連セクションの責任者を講師として招き、最新の情報をまじえて講義をしていただきます。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 自治行政の現実や課題を知って、キャリア形成に役立ててください。 公的機関に関心のある人は本科目から多くの刺激を受けるでしょう。一方公的機関に関心のない人も地域住民の一人として、地方自治体がどのような問題意識を抱いて政策を立案しているのかを知ってもらいたいと思います。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 ここでは、地方自治体としての青森県の自治行政政策全般、ならびに主要な施策に関する具体的な計画や事例をとりあげます。この講義を通して地域公共政策のあり方、地方自治体が直面する諸問題を、制度と現実の両面から理解し、考察する力を養うことが主な目標です。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業評価アンケートでは、「出席カードの記入時間、提出時間」についてコメントがありました。これについて、検討してみます。また、教員の声が小さいとのご意見もありましたので、マイクを使用するなどの改善を行います。		
〔教科書〕 授業ごとに資料を配布します。		
〔指定図書〕 なし		
〔参考書〕 図書館に地方行政・公共経済・地方財政など多くの本があるので、積極的に参照してください。		
〔前提科目〕 なし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験(実施方法は初回に示す)および出席状況を総合的に評価します。		
〔評価の基準及びスケール〕 学生便覧の「成績評価」に示されている本学の規定通りです。		
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 県議会の開会など、やむをえない公用がある場合、休講・補講や講義内容の変更、講師の変更などがあるかもしれません。掲示に十分注意してください。 受講時の私語や途中退室は厳禁です。これらの行為に対しては注意を行い、評価点に反映させます。		
〔実務経歴〕 自治体での実務経験を活かし、青森県の経済・財政・労働政策・農林業・水産業・観光などに関し、現状や課題及び今後の方向性について、最新の情報をまじえて講義する授業です。		

※ 授業スケジュールについては別途掲示にてお知らせします。

〔科目名〕 経営戦略論Ⅱ	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目
〔担当者〕 小林 哲也 こばやし てつや	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回講義時に説明します 場所: 初回講義時に説明します	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>「経営戦略論Ⅰ」では、主要な戦略の中の「事業戦略」について、学習したと思います。ここでは、「経営戦略とは何か」という基本的な概念から、企業がどのような意図をもって、製品やサービスを提供し、企業の持続的成長を実現しようとしているのかを学んだと思います。</p> <p>「経営戦略論Ⅱ」では、これよりももう少し広い範囲で企業の経営戦略を考える「全社戦略」に焦点をあてて皆さんと考えていきます。全社戦略は、事業戦略よりも高い視野に立って、企業自身の持続的成長を可能にする競争戦略をどのように維持していくのかを考えていく戦略です。「事業戦略」では各事業それぞれの戦略に焦点をあてましたが、「全社戦略」では、それぞれの事業を融合させ、有効気機能させながら、企業全体の持続的成長を目指す戦略となりますので、より広範で高い視点からみた戦略の設定が必要となります。</p> <p>本講義では、「事業戦略」をベースとして、「全社戦略」に焦点をあてて、企業が競争優位を獲得していくために、どのような手法を使っているのかを中心に考えていきます。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕		
〔他の科目との関連付け〕 <p>経営戦略は、企業や組織内にあるさまざまな機能をもとに構築されています。また、本講義で取り扱う「全社戦略」は、各事業の戦略を結び付けた関係にもあります。本講義を理解するためには、「経営戦略論Ⅰ」を履修していることが前提になります。また、事業戦略策定の前提として、マーケティングやサービス、財務、人事労務などの分野から得られる情報などを基に作成されます。一方で、経営戦略の多くは、企業の外部環境にも大きく影響されます。たとえば、市場動向や競争環境の変化は、経営戦略の方向性にも影響します。そのため、幅広い知識をもとにまなぶことで、より理解しやすくなります。</p> 〔学んだことが何に結びつか〕 <p>経営学科のディプロマ・ポリシーにある「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる人材」と「会計データを読み、資金の調達や引用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示する人材」に係る能力の構築に深く関係します。また、「組織と個人の関わり合いや、組織における複雑な人間関係の問題に焦点をあてながら、多人数の協働を確立し、維持・発展できる人材」に係る能力の導入を進め、ディプロマ・ポリシーに明示された能力の構築を目指します。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>本講義では、経営学科のディプロマ・ポリシーにある「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる」能力と「会計データを読み、資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示できる」能力の構築を目指します。また、授業を通じて、「組織と個人の関わり合いや、組織における複雑な人間関係の問題に焦点をあてながら、多人数の協働を確立し、維持・発展できる」能力の導入を進め、その基本的な能力の構築を目指します。</p> <p>本講義を通じて、さまざまな情報を取捨選択しながら、自ら考え、意思決定し、自らの方向性を確立できる能力の構築を到達目標とします。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 担当教員にとって初年度の授業のため、コメント等は行いません。		
〔教科書〕 特に指定しません。		
〔指定図書〕 以下は、講義に際して参照文献として紹介します。 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞社、2011年 イゴール・H・アンソフ著・広田寿亮訳『企業戦略論』産業能率大学出版部、1969年 ウルリッヒ・ピドゥン著・松田千恵子訳『全社戦略 グループ経営の理論と実践』ダイヤモンド社、2022年		

ジェイ・B・バーニー著・岡田正大訳『企業戦略論(上・中・下)』ダイヤモンド社, 2021年。	
【参考書】 伊丹敬之『経営戦略の論理』日本経済新聞出版, 2012年 菅野寛『全社戦略がわかる』日本経済新聞出版社, 2019年 アルフレッド・D・チャンドラーJr 著・三菱経済研究所訳『経営戦略と組織』実業之日本社 1967年 ピーター・F・ドラッカー著・上田惇生訳『現代の経営(上・下)』1996年 マイケル・E・ポーター著・土岐・中辻・服部訳『競争の戦略』ダイヤモンド社, 1982年 マイケル・E・ポーター著・土岐・中辻・服部訳『国の競争優位(上・下)』ダイヤモンド社, 1992年	
【前提科目】 「経営戦略論 I」および経済・経営に関係する科目を履修していることが望ましい。	
【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 学期末試験の結果 (50%) 授業の理解度や疑問点等を把握するために毎回実施するリアクションペーパーの内容 (50%) 学期末試験の内容等については、試験前の授業時に説明します。 ただし、特別の配慮が必要な方については、個別に対応します。	
【評価の基準及びスケール】 上記の配分に従い、下記の点数の範囲で評価を行います。 A:100～80点, B:79～70点, C:69～60点, D:59～50点, F:49点以下	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 本格的な経営学の内容を学ぶに際して学生の皆さんが理解しやすいように丁寧に、具体的事例を活用しながら授業を展開していきます。 授業開始前には、シラバスをもとに授業で取り扱う内容について参考文献などの事前に内容をみておくことが求められます。授業後は、授業内容を振り返り、内容を確認しておくこと、わからないことがあった場合は、担当教員に確認するなどして、疑問点を解決しておくことが求められます。授業における標準的な事前・事後学習時間は3時間です。	
【実務経歴】 シンクタンクでの研究員としての勤務実績(10年間)	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): インTRODクシヨン 内 容: 授業の進め方となぜこの内容を学ぶのかについての概要説明。この授業で何を学ぶのかを理解できる。 教科書・指定図書 なし
第2回	テーマ(何を学ぶか): 全社戦略 内 容: 「全社戦略」についての概要。全社戦略の定義を理解できる。 教科書・指定図書 ピドゥン第1章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 事業定義と企業ドメイン 内 容: 企業が決定する事業領域とその組み合わせ。事業領域とドメインを理解することができる。 教科書・指定図書 網倉・新宅 第9章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 多角化 内 容: 企業が多角化する理由と多角化戦略の概要。多角化の定義となぜ多角化するのかを理解できる。 教科書・指定図書 ピドゥン 第2章
第5回	テーマ(何を学ぶか): エージェンシー問題とエージェンシーコスト 内 容: 多角化戦略を実施するタイに必要な条件とエージェンシーコストについての解説。エージェンシーコストとは何かとなぜ発生するのかを理解できる 教科書・指定図書 バーニー 第13章

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):ポートフォリオ・マネジメント</p> <p>内 容:製品ポートフォリオとは何か,これをどのように管理運営していくのかの解説。製品ポートフォリオとポートフォリオ・マネジメントを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 網倉・新宅 第11章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業価値</p> <p>内 容:「企業の価値」は何によって決まるのか,その価値はどのように上昇するのかについての解説。企業価値とは何かを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 ピドゥン 第2章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の存在意義と方向性</p> <p>内 容:企業は「何のために」存在するのか,その価値観の定義と概要についての解説。企業は何のために存在しているのかを理解することができる。</p> <p>教科書・指定図書 ピドゥン 第2章,第3章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の資源と能力</p> <p>内 容:企業の競争優位の源泉となる資源は,どのように活用されているのかについての解説。企業の内部資源をどのように活用することで競争優位を獲得できるかを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 ピドゥン 第3章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):成長戦略</p> <p>内 容:企業にとって「なぜ成長が必要なのか」についての解説。業成長のための仕組みを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 ピドゥン 第5章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):M&A</p> <p>内 容:企業の合併・買収の概要とその目的についての解説。M&Aの効果を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 ピドゥン 第7章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):提携</p> <p>内 容:提携の形態(M&A)との違いとそのメリットとデメリットについての解説。提携(戦略提携)の目的と効果を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 ピドゥン 第7章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):事業の再構築</p> <p>内 容:事業の再構築,リストラクチャリングとは何か,どのような手法があるのかの解説。リストラクチャリングの手法と効果を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 ピドゥン 第7章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後的な発展パターン</p> <p>内 容:創発的戦略とは何かの解説。創発的戦略を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 網倉・新宅 第1章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめとフィードバック</p> <p>内 容:これまでの授業を振り返り,内容についての疑問点等についてフィードバックを行う</p> <p>目標:これまでの授業における疑問点や質問等を解消し,内容をより深く理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
試験	<p>期末試験を実施の予定</p>

〔科目名〕 マネジメント論Ⅱ	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目
〔担当者〕 小林 哲也 こばやし てつや	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回講義時に説明します 場所: 初回講義時に説明します	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>「マネジメント論Ⅰ」では、「マネジメント」についての基礎的な分野を学習したと思います。ここでは、「マネジメントとは何か」という基本的な概念から、マネジメントを構成している各機能についての内容を理解したと思いますが、「マネジメント論Ⅱ」では、この基本的な分野を基盤として、より専門的な分野を皆さんと考えていきます。具体的には、マネジメントの領域のひとつである「イノベーション・マネジメント」に焦点を当てて、その内容を考えていきます。企業の持続的な成長を実現するためにイノベーションは、不可欠な存在であると考えられています。本講義では、そのイノベーションをいかにして創出し、維持、成長させていくのか、そのためには、どのようなマネジメントが必要なのか、どのような手法が考えられるのかなどについて考えていきます。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 〔他の科目との関連付け〕 <p>マネジメントは、企業や組織の日常の業務をどのように進めていくのかや、企業の持続的な成長をいかにして獲得していくのかなどを考え、これを実現させるためにどのように企業を運営していくのかといったことを中心に考えていく領域です。そのため、経営学の基本的な分野、基礎的な領域を基盤として、その上に発展させているものになります。1年次で学ぶ経営学の基本的な分野はもちろんのこと、経営戦略や、マーケティングなど、経営学の幅広い分野の学習と関係する分野です。</p> <p>〔学んだことが何に結びつくか〕 経営学科のディプロマ・ポリシーにある「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる人材」と「会計データを読み、資金の調達や引用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示する人材」に係る能力の構築に深く関係します。また、「組織と個人の関わり合いや、組織における複雑な人間関係の問題に焦点をあてながら、多人数の協働を確立し、維持・発展できる人材」に係る能力の導入を進め、ディプロマ・ポリシーに明示された能力の構築を目指します。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>本講義では、経営学科のディプロマ・ポリシーにある「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる」能力と「会計データを読み、資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示できる」能力の構築を目指します。また、授業を通じて、「組織と個人の関わり合いや、組織における複雑な人間関係の問題に焦点をあてながら、多人数の協働を確立し、維持・発展できる」能力の導入を進め、その基本的な能力の構築を目指します。</p> <p>また、イノベーションという、企業や組織の持続的な成長のために必要となる領域を学ぶことで、企業の成長や発展の背景を理解できるようにすることを目的にします。</p> <p>本講義を通じて、さまざまな情報を取捨選択しながら、自ら考え、意思決定し、自らの方向性を確立できる能力の構築を到達目標とします。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 担当教員にとって初年度の授業のため、コメント等はいりません。		
〔教科書〕 特に指定しません。		
〔指定図書〕 以下は、講義に際して参考文献として紹介します。 一橋大学イノベーション研究センター編『新装版イノベーション・マネジメント入門』, 2022年, 日本経済新聞社 近能善範・高井文子『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 2010年, 新世社。		
〔参考書〕 P.F.ドラッカー『マネジメント』, 2001年, ダイヤモンド社		

<p>〔前提科目〕 「マネジメント論Ⅰ」および経営学に関係する科目を履修していることが望ましい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 学期末試験の結果 (70%) 授業の理解度や疑問点等を把握するために毎回実施するリアクションペーパーの内容 (30%) ただし、特別の配慮が必要な方については、個別に対応します。学期末試験の詳細は授業時に解説します。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 上記の配分に従い、下記の点数の範囲で評価を行います。 A:100～80点, B:79～70点, C:69～60点, D:59～50点, F:49点以下</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本格的な経営学の内容を学ぶに際して学生の皆さんが理解しやすいように丁寧に、具体的事例を活用しながら授業を展開していきます。 授業開始前には、シラバスをもとに授業で取り扱う内容について参考文献などの事前に内容をみておくことが求められます。授業後は、授業内容を振り返り、内容を確認しておくこと、わからないことがあった場合は、担当教員に確認するなどして、疑問点を解決しておくことが求められます。授業における標準的な事前・事後学習時間は3時間です。</p>	
<p>〔実務経歴〕 シンクタンクでの研究員としての勤務実績(10年間)</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 授業の進め方となぜこの内容を学ぶのかについての概要説明 目標: この授業で何を学ぶのかを理解できる。 教科書・指定図書 なし</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): イノベーション・マネジメントの重要性 内 容: イノベーション・マネジメントとは何かについての説明。なぜイノベーション・マネジメントを理解しておくことが必要なのかを理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第1章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 研究技術開発と競争優位 内 容: 研究技術開発が競争優位になぜ結びつくのかについての説明。なぜ、競争優位の確立にイノベーション・マネジメントが必要なのかを理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第6章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 業界標準 内 容: 業界標準の確立と競争優位の関係について。なぜ、業界標準の獲得が競争優位の確立につながるのかを理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第7章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 業界標準の世代交代戦略 内 容: 業界標準の世代交代が起きる要因と競争優位への影響について。業界標準はなぜ交代するのかを理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第7章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 製品開発プロセス(1) 内 容: 製品開発プロセスの説明。製品開発のプロセスとイノベーションの関係について理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第9章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 製品開発プロセス(2) 内 容: 製品開発を実施する際の組織マネジメントについて。組織マネジメントが製品開発プロセスになぜ必要なのかを理解できる。 教科書・指定図書 近能・高井 第10章</p>

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):組織マネジメントとデザイン</p> <p>内 容:イノベーションにおける組織の役割とそのマネジメントについて。組織マネジメントとイノベーションの関係を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第10章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):プロジェクトチームとプロジェクトマネージャー</p> <p>内 容:製品開発を進めるプロジェクトチームとプロジェクトマネージャーの役割について。プロジェクトチームにおけるプロジェクトマネージャーの役割を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第10章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業間のマネジメント</p> <p>内 容:企業間関係のマネジメントについて。企業間関係におけるマネジメントの役割を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 一橋大学イノベーション研究センター 第10章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):外部委託</p> <p>内 容:分業構造における外部利用の役割について。外部組織の役割を理解することができる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第11章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):外部委託のメリットとデメリット</p> <p>内 容:外部組織を利用することのメリットとデメリットの比較について。外部委託のメリットとデメリットを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第11章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):コンカレントエンジニアリング</p> <p>内 容:コンカレントエンジニアリングとは何かについて。コンカレントエンジニアリングのメリットを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第10章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):ビジネスモデル</p> <p>内 容:ビジネスモデルとは何かについて。ビジネスモデルの構築とその内容を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 近能・高井 第12章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめとフィードバック</p> <p>内 容:これまでの授業を振り返り、内容についての疑問点等についてフィードバック。これまでの授業における疑問点や質問等を解消し、内容をより深く理解できる。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
試験	<p>期末試験を実施の予定</p>

〔科目名〕 マーケティング論 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 経営学科基幹科目
〔担当者〕 行本 雅 Yukimoto Tadashi	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回の授業でお伝えします。 場所: 515 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕		
<p>本講義では、マーケティングについての基礎的な知識を身につけてもらうことを目標とします。マーケティングとは、「人間や社会のニーズを見極めそれに応えること」(Kotler&Keller:2007)、です。このために、「ターゲット市場を選択し、優れた顧客価値を創造し、提供し、伝達することによって、顧客を獲得し、維持し、育てていく技術および科学」(Kotler&Keller:2007)を幅広くあつかいます。</p> <p>これらは、市場分析や企業の製品戦略といった市場における企業間の競争をあつかうマーケティング戦略、流通チャネルやサプライチェーンといった企業間の取引関係をあつかう流通論、消費者の認知メカニズムや消費者とのコミュニケーションをあつかう消費者行動論など、さまざまな分野からなります。このためアプローチの仕方も、企業や経営者の視点を重視する経営学的なものから、市場での競争を重視する経済学的なもの、さらには個々の消費者の認知メカニズムを重視する心理学的なものまで、さまざまな立場があります。</p> <p>本講義では、まずオーソドックスなマーケティング論の理論とマーケティング分野の基本的な知識を学びます。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕		
<p>企業は社会や人々に対してさまざまな財やサービスを提供しています。しかし、たとえすぐれた製品やサービスであったとしても、それが消費者に伝わらなければ購入してもらえません。まして、社会や人々のニーズに応えるものでなければ当然評価してもらえません。こうしたギャップを埋めるのがマーケティングの中心的な課題です。</p> <p>マーケティングは、経営学の他分野と深い関係にあります。マーケティング戦略は企業全体の経営戦略をふまえて決定されますし、流通チャネルの管理は一般的な組織論の特殊ケースと考えられます。また、流通論ではものの流れの管理をあつかいますが、それにとまなうお金の流れを管理するには会計の知識が必要になります。</p> <p>他の学問分野でも経済学や心理学とは、伝統的に深い関わりがあります。また、マーケティングを取り巻く制度は経済法や商法といった法律で定められています。この他にも最近では IT 化の進展により、工学や情報学といった分野とも接する領域が広がってきています。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕		
<p>マーケティングはかなり広範なテーマをあつかいますし、アプローチの仕方もさまざまなものがありますが、本講義では、まずオーソドックスなマーケティング論の理論と各分野の基本的な知識を身につけることを目標とします。各分野でどのようなテーマがあつかわれているかを理解し、各分野の基本的な用語や知識を身につけるのが目標となります。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕		
<p>マーケティング論 I は、マーケティング論 II や市場調査論といったマーケティング分野の科目の基礎科目となります。そこで、経営学科以外の学生さんもふくめなるべく多くの学生さんに、マーケティング分野全般について基本的な知識を一通り身につけてもらうことをねらいとしています。</p> <p>授業で使用しているテキストはアメリカの標準的なテキストの簡易版ですが、日本のテキストに比べるとかなりボリュームがあります。そこで、授業ではポイントに絞って、レジュメに沿って解説するようにしています。レジュメについては、わかりやすいという人が多いようなので、今のやり方を続けていきたいと思っています。また、昨年度から具体的な企業の事例の紹介を行うようにしましたが、これも好評のようなので続けていきたいと思っています。</p>		

<p>〔教科書〕 P. Kotler and K. L. Keller(2007) <i>A Framework for Marketing Management third edition</i>, Pearson(恩藏直人 監修、月谷真紀 訳、『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編 第3版』、丸善出版、2014年).</p>	
<p>〔指定図書〕</p>	
<p>〔参考書〕 マーケティング戦略の入門書 沼上幹(2008)『わかりやすいマーケティング戦略 新版』、有斐閣. 事例ベースの入門書 青木幸弘編(2015)『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣. 学部中級～上級のテキスト 池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩(2010)『マーケティング』、有斐閣. この授業の教科書のフルバージョン P. Kotler, K. L. Keller and Alexander Chernev (2022) <i>Marketing Management 16th edition</i>, Pearson (恩藏直人 監訳、『コトラー&ケラー&チェルネフのマーケティング・マネジメント 原書16版』、丸善出版、2022年).</p>	
<p>〔前提科目〕 なし</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 成績評価は、基本的に期末試験によって行います。ただし、授業時に5回行う小テストの成績も加味します。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 A: 80点以上 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 50～59点 F: 49点以下</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 マーケティングはともすれば企業の視点にかたよりがちな分野ですが、企業のマーケティング活動がビジネスとして上手くいっているかだけでなく、それが消費者や社会にも貢献できているのかといった幅広い観点を養ってもらいたいと思います。</p>	
<p>〔実務経歴〕 なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
<p>第1回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): マーケティングとは 内 容: マーケティングでどのような問題をあつかうかを学びます 教科書・指定図書: P. Kotler and K. L. Keller(2007)第1章</p>
<p>第2回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): マーケティング戦略 内 容: マーケティング戦略の基本的な考え方を学びます 教科書・指定図書: P. Kotler and K. L. Keller(2007)第2章</p>
<p>第3回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): 市場調査 内 容: マーケティング・リサーチの基本的な考え方を学びます 教科書・指定図書: P. Kotler and K. L. Keller(2007)第3章</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):顧客管理 内 容:関係性マーケティングの基本的な考え方を学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第4章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):消費者市場とビジネス市場 内 容:消費者行動の基本的な考え方とビジネス市場の特徴について学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第5章、第6章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):セグメンテーションとターゲティング 内 容:どのように市場をセグメントにわけてターゲットを選択するかを学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第7章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):ブランド・エクイティ 内 容:どのようにブランドを確立し、それを維持していくかを学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第8章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):競争戦略 内 容:市場においてどのようなポジションを目指し、ライバルと競争していくかを学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第9章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):製品のマネジメント 内 容:製品ラインや製品の普及段階に応じたマネジメントについて学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第10章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):サービスのマネジメント 内 容:サービス産業の特徴について学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第11章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):価格戦略 内 容:さまざまな価格戦略について学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第12章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):チャネル管理 内 容:チャネル管理の基本的な考え方を学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第13章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):流通業者 内 容:卸・小売といった流通業者の役割について学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第14章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):コミュニケーションの管理 内 容:マーケティング・コミュニケーションの基本的な考えかたを学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第15章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):マス・コミュニケーションと人的コミュニケーション 内 容:広告やプロモーション、販売について学びます</p> <p>教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第16章、第17章</p>
試験	<p>期末試験を行います。</p>

〔科目名〕 人事管理論 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 基幹科目
〔担当者〕 中川宗人 NAKAGAWA Muneto	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業内で提示する 場所: 505 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 人事管理は企業の経営目標達成に貢献するために、ヒトが担う労働・サービスをより良く発揮できるように働きかける活動です。社会・経済の変化に伴って企業経営や人々の働き方も多様化し、人事管理のあり方も複雑になってきています。学問としての人事管理論は、こうした現代の人事管理を科学的に調査・研究し、望ましい人事管理のあり方を構想しようとする分野です。この人事管理論 I では人事管理の基礎的な内容を扱います。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 人事管理は経営管理を構成する一機能ですが、労働時間や賃金といった事項を扱うことから、何らかの組織で働く人すべてにとって身近な科目です。また現在の人事管理に関する戦略は、経営戦略とも密接に関わり、企業の将来をますます左右するようになっていきます。例えば、現在の重要な経営資源の一つである情報は、企業で働くヒトが重要な担い手となっています。人事管理論は、労働条件といった身近な事柄だけでなく、企業の行動や経営学についてより深く理解する手がかりとなります。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <ul style="list-style-type: none"> ・企業経営における人事管理の基本的な機能について説明することができる。 ・日本企業の人事管理制度の特徴について正確に説明することができる。 ・人事管理の個別の事項について、基本的な知識を説明することができる。 		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <ul style="list-style-type: none"> ・しゃべるスピードや音量についての希望が多かったので、聞き取りやすい説明を心がけます。 ・スライドや資料はできるだけ事前にオンラインで配布するように心がけます。 		
〔教科書〕		
〔指定図書〕 佐口和郎(2018)『雇用システム論』有斐閣 平野光俊・江夏幾多郎(2018)『人事管理』有斐閣		
〔参考書〕		
〔前提科目〕 なし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 中間テストと期末テストの合計で行います。 詳細は授業内で説明します。		

<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>学生便覧の評価基準に準拠します。</p> <p>A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 D:50点以上 F:50点未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>日頃から雇用・労働に関するニュースに関心を持ち、授業で得た知識を活かして疑問を発する習慣を養ってください。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):イントロダクション</p> <p>内 容:授業の概要、進め方、成績評価などについて説明します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):総論:人事管理の機能と歴史</p> <p>内 容:企業経営全体における人事管理の機能と歴史について学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):総論:人事管理の理論・学説</p> <p>内 容:人事管理についての重要な理論・学説について学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):総論:労使関係と労働法政策</p> <p>内 容:人事管理を制約する主要因である労使関係と労働法システムについて学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):総論:日本企業の人事管理制度</p> <p>内 容:日本企業に独特な人事管理慣行の特徴とその捉え方について学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):各論:採用</p> <p>内 容:人事管理の個別の機能について学んでいきます。 労働者の採用の機能と制度について学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):各論:配置と異動</p> <p>内 容:労働者の配置や異動の機能や制度について学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):各論:教育訓練</p> <p>内 容:労働者の能力開発の意義と機能、そのための教育訓練制度について学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):各論:評価と昇進 内 容:労働者のパフォーマンスの評価と昇進管理の機能と制度について学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):各論:報酬 内 容:人事管理制度のなかでも重要な報酬制度について学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):各論:雇用調整・退職 内 容:雇用調整・退職の機能と制度について学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):各論:労働時間 内 容:労働条件のなかでも重要な労働時間管理について、日本の実態もふまえて学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):各論:福利厚生 内 容:報酬とあわせて重要な事項である福利厚生の機能と制度について学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):各論:非典型雇用 内 容:企業を構成する労働力のうち、重要性を増している非典型雇用の管理について、日本の実態もふまえて学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめ 内 容:授業全体のまとめ、期末テストの解説、人事管理論Ⅱの案内などを行います。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	

〔科目名〕 管理会計論 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 選択必修(経営学科)等
〔担当者〕 加藤 恵吉	〔オフィス・アワー〕 時間:木曜授業後休み時間 場所:講義の教室	〔授業の方法〕 講義(問題演習等を含む) 木曜3-4 限連続(15回目除く)
〔科目の概要〕 <p>本講義では、管理会計の学習において必要な、これまで学んだ商業簿記及び工業簿記(原価計算)の基礎概念や個別原価計算・総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算等を主体にしつつ、その計算技法採用の経緯を織り交ぜながら講義を進めます。なお、本講義は秋学期に開講される管理会計論Ⅱ履修のための前提科目になります。</p> <p>管理会計は、企業を経営するために必要な会計情報を提供します。管理会計の目的は、企業がさまざまな意思決定を行うことで適切な経営を行い、細分化して業績を評価・分析することで企業の収益性を高めることにもあります。したがって、単に財務的なデータを作成するだけではなく、その結果を解釈して、その後の企業の意思決定行動に反映させることが必要になります。</p> <p>講義では、単なる計算問題の演習に留まらず実際の企業の事例等にふれつつ管理会計情報の作成とそれに基づく改善活動についても講義していきたいと考えています。また、実際に問題等を解くことで理解を深めるため講義中問題演習を行います。</p> <p>講義では、最終の15回目を除き2コマ連続のため時折、関係する資料の輪読やビデオ教材も使用・視聴する予定です。</p> <p>本務校の公務にてやむを得ず休講になる場合は、1週ずつ講義最終日が後になります。この点、留意しておいてください。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕 <p>本講義での学習に当たっては、会計の対象である経済活動、経営活動、ビジネス活動に対する理解も必要と考えます。したがって、商業簿記、工業簿記、財務会計などの会計科目だけでなく経営学や、絶えず変化し続けている現代社会に対する時代認識、歴史認識も含めた科目を包括的に学習されることを望みます。</p> <p>また、日商簿記検定2級1級の試験にも本講義に関する計算問題等も含まれるので、簿記等の検定試験及び専門職への資格取得を目指しているものは積極的に学習していただきたい。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>できれば日商簿記検定の資格取得を目指して学習していただきたいと考えます。</p> <p>さらに、企業においては、管理会計が理解でき、実践できる人材を欲しています。将来そのような人材になれるような礎を築くことも本講義の目標です。</p> <p>なお、本講義は15回のみであり、指定教科書の前半部分を学習します。そのため、管理会計の範囲を網羅したい意欲的な学生の皆さんには秋学期の管理会計論Ⅱの履修をお勧めします。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 頁の関係上一部抜粋 <ul style="list-style-type: none"> ・レポートと試験をいっしょに出すことについて、もっと生徒のことを考えた方がいいと思う。レポートを同時に出すならもっと期末試験の範囲を早くに掲示するべき。 A.:レポートは救済の意味のあるものなので仕方がないのですが、R.5年度はこの点、問題ないようにします。 ・モニターの文字が見えにくい点 A.:プロジェクターの色合いで見えにくいかも知れませんが、機器の関係なので、前に座るか見やすい位置に座っていただければと思います。 ・レポートが手書きであること A.:レポートは全て手書きです。コピーだと点数あげられないし、その予防もあります。ワープロで作って提出の際に手書きしましょう。 ・ちょっと、難しいです A.:本科目の前提科目、工業簿記、簿記履修してますか? 管理会計はアドバンス科目なのでこれらを履修してから本授業をとらないと難しいかと思います。、授業理解は差があるため質問に来てもらえば対応します。 ・もう少し問題の難易度を下げて欲しいです。 A.:同上、ただし試験範囲をしっかりと勉強すればなんとかなるかと思っておりますので頑張ってください。 事実、履修の皆さんは、少数を除いて結構頑張ってくれていて単位取得率は高いです。 		

<p>〔教科書〕 岡本清 廣本敏郎 尾畑裕 挽文子『管理会計 第2版』中央経済社、及び配付資料 (上記テキストの前半部分を講義します。後半部分は、管理会計論Ⅱにて学習します)</p>																			
<p>〔指定図書〕</p>																			
<p>〔参考書〕 岡本清『原価計算』国元書房 (問題等を図書館の蔵書で確認すると良いでしょう)</p>																			
<p>〔前提科目〕 会計関連科目の「会計学基礎論」「商業簿記」「工業簿記」「財務会計」の事前履修が必要。 上記の科目を履修していないと理解は難しいです。</p>																			
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ① 手書きレポート (30%) ② 期末試験 (70%) ③ 出席確認を行います なお、評価については講義に出席することが前提であり、欠席が総講義数の3分の1を超えた方は、失格または大幅減点します。</p>																			
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>グレード表記</th> <th>評 点</th> <th>グレード・ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>80 点以上</td> <td>4.00</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>80 点未満 70 点以上</td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>70 点未満 60 点以上</td> <td>2.00</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>60 点未満 50 点以上</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>50 点未満</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>		グレード表記	評 点	グレード・ポイント	A	80 点以上	4.00	B	80 点未満 70 点以上	3.00	C	70 点未満 60 点以上	2.00	D	60 点未満 50 点以上	1.00	F	50 点未満	0.00
グレード表記	評 点	グレード・ポイント																	
A	80 点以上	4.00																	
B	80 点未満 70 点以上	3.00																	
C	70 点未満 60 点以上	2.00																	
D	60 点未満 50 点以上	1.00																	
F	50 点未満	0.00																	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 頭の中で計算システムを理解したと思っけていても、実際、計算してみると、きちんと計算できないことに直面することがあります。何回も問題を実際に手で解いて理解するようにして下さい。また、正確にスピーディに計算することも実際の資格試験では求められます。</p>																			
<p>〔実務経歴〕</p>																			
<p>授業スケジュール</p>																			
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス及び管理会計を学ぶ上で必須な(商業・工業)簿記の復習・速習 内 容: 講義の進め方、問題演習 教科書・ 教科書及び各自持っている商業簿記及び工業簿記(原価計算)の本 配付資料</p>																		
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 管理会計総説 内 容: 企業会計と会計情報システム 教科書・「管理会計」第1章</p>																		
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 管理会計総説 内 容: 企業会計と会計情報システム 教科書・「管理会計」</p>																		
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 管理会計総説 内 容: 経営管理者の職能、意思決定のプロセス 教科書・「管理会計」</p>																		

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):管理会計の体系 内 容:組織化、統制と意思決定会計 教科書・「管理会計」</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):管理会計の体系 内 容:経営戦略の策定と会計:会社組織、ラインとスタッフ 教科書・「管理会計」第1章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):問題発見のための会計 内 容:財務諸表分析総説 教科書・「管理会計」</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):問題発見のための会計 内 容:財務諸表における収益性・安全性の分析 教科書・「管理会計」</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):問題発見のための会計 内 容:財務諸表における生産性・キャッシュフローの分析 教科書・「管理会計」</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):問題発見のための会計 内 容:損益計算書と財務諸表の総合分析 教科書・「管理会計」</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):業績管理会計 内 容:短期利益計画のための CVP 分析 教科書・「管理会計」</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):業績管理会計 内 容:固定費と経営リスク 教科書・「管理会計」</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):業績管理会計 内 容:損益分岐点分析・安全率 教科書・「管理会計」</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):予算管理 内 容:予算管理プロセス 教科書・「管理会計」</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):予算管理 内 容:予算管理システムの役割(計画職能・統制職能・調整) 教科書・「管理会計」</p>
試験	<p>試験は筆記具・電卓以外持込不可になります。</p>

〔科目名〕 財務分析Ⅰ	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 選択必修
〔担当者〕 長谷川美千留	〔オフィス・アワー〕 講義時に提示 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 財務分析は、経営分析または財務諸表分析とも呼ばれる。伝統的な財務分析は、企業が制度のもと開示する財務諸表に対し、おもに4つの観点(安全性・収益性・生産性・成長性)から検討をする分野である。このような伝統的なアプローチは、その基礎を会計学においている。第一段階として、簿記により財務諸表の作成技術を学び、第二段階として会計制度を学修し、財務諸表の背景に存在する理論を習得する。そして、第三段階として、この財務諸表を安全性・収益性・生産性・成長性などの観点から、基本的(伝統的な)財務指標を用いて分析し、分析者の視点から当該企業の実態を把握するのである。 ここで重要なのは、分析者の視点という問題である。分析者は、一定の視点を持っている。分析者が、企業の在り方について、どのような見解、すなわち企業観をもっているのか、または利害関係者集団のうち、いずれに属しているのかという問題である。この点については、主に財務分析Ⅱで検討する。 したがって、本講義、財務分析Ⅰでは、財務諸表に関する基本事項を再確認し、伝統的な財務分析の手法に従い、基本的な財務指標を学ぶことをその内容としている。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 財務分析の対象となる財務諸表は、財務報告制度に基づき、会計理論を背景に、簿記という記帳技術により作成されている。したがって、簿記、会計関連の基礎科目とは密接な関連を持っている。また財務分析の対象となる財務諸表は、そもそも会計監査制度によりその信頼性が担保されているという前提であるから、この点で監査論とも関連している。 財務諸表を読む能力は、財務諸表の作成と同様に重要である。我々は企業社会に生きており、企業と関係を持たずに生活することは難しい。我々は何らかの形で企業の利害関係者となっている。財務分析の学習により、我々は利害関係者の一人として、企業の経済的実態を深く理解し、自らの経済的意思決定に結び付けることが可能となる。財務分析は、このように企業社会を生きるために必要な能力の習得に結び付く。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標 財務諸表(損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー計算書)に関する知識を再確認すること。 最終目標 中間目標で到達した知識を用いて、財務諸表の社会的な意義を理解し、基本的な財務諸表分析ができること。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕		
〔教科書〕 大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト公式テキスト3級第4版』(中央経済社、2022年)		
〔指定図書〕 大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式過去問題集3級第5版』(中央経済社、2022年)		
〔参考書〕 桜井久勝著『財務諸表分析 第8版』(中央経済社 2021年)		
〔前提科目〕 簿記・会計学の基礎科目		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価方法 定期試験(筆記)</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 定期試験(筆記) 100% A 評価 80 点以上 B 評価 70 点以上 80 点未満 C 評価 60 点以上 70 点未満 D 評価 50 点以上 60 点未満 F 評価 50 点未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義は、ゆっくり進めていきます。</p>	
<p>〔実務経歴〕 なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 財務諸表 内 容: 財務諸表の意義 教科書第1章・指定図書第1章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 貸借対照表1 内 容: 貸借対照表の仕組み 教科書第2章・指定図書第2章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 貸借対照表2 内 容: 貸借対照表の要素 教科書第2章・指定図書第2章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 損益計算書1 内 容: 損益計算書の仕組み 教科書第3章・指定図書第3章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 損益計算書2 内 容: 損益計算書の要素 教科書第3章・指定図書第3章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): キャッシュフロー計算書 内 容: キャッシュフロー計算書の仕組み 教科書第4章・指定図書第4章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株主資本等変動計算書 内 容: 株主資本等変動計算書の意義 教科書第2章・指定図書第2章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 財務諸表の入手 内 容: 財務諸表の入手方法と財務報告制度について 教科書第5章・指定図書第5章</p>

第9回	テーマ(何を学ぶか):財務諸表分析1 内 容:財務諸表分析の手法や利害関係者の視点について 教科書第5章・指定図書第5章
第10回	テーマ(何を学ぶか):財務諸表分析2 内 容:成長性分析 教科書第5章・指定図書第5章
第11回	テーマ(何を学ぶか):財務諸表分析3 内 容:安全性分析 教科書第5章・指定図書第5章
第12回	テーマ(何を学ぶか):財務諸表分析4 内 容:収益性分析① 教科書第5章・指定図書第5章
第13回	テーマ(何を学ぶか):財務諸表分析5 内 容:収益性分析② 教科書第5章・指定図書第5章
第14回	テーマ(何を学ぶか):財務分析実践1 内 容:実際の企業データを用いて分析を各自で実践 教科書第5章・指定図書第5章
第15回	テーマ(何を学ぶか):財務分析実践2 内 容:実際の企業データを用いて分析を各自で実践 教科書第5章・指定図書第5章
試験	定期試験(筆記)

授業科目名： 財務会計論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金子輝雄 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・会計学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>企業における財務内容公表制度（財務会計制度）を学ぶ。特に財務会計論Ⅱではキャッシュ・フロー会計や連結会計といった特殊な論点を取り上げ、会計基準とその基本的な考え方を学修する。到達目標として日商簿記2級1級を意識している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>従来の損益計算中心の会計から企業価値計算の会計へと企業会計が変化している状況を解説し、その結果として新たな流れである、キャッシュ・フロー重視、時価評価志向、リース・減損会計、年金会計および会計制度の国際化等といった論点を順次取り上げてゆく。また、制度・理論の説明だけでなく、2級1級程度の問題演習を通じて理解を深め、実践力を養ってもらう予定である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスとキャッシュ・フローの意義</p> <p>第2回：キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第3回：有価証券の評価</p> <p>第4回：デリバティブ取引の会計</p> <p>第5回：リース会計</p> <p>第6回：減損会計</p> <p>第7回：資産除去債務</p> <p>第8回：年金会計</p> <p>第9回：配当制限とのれん等調整額</p> <p>第10回：M&Aの会計</p> <p>第11回：税効果会計</p> <p>第12回：為替換算会計</p> <p>第13回：連結会計（1）</p> <p>第14回：連結会計（2）</p> <p>第15回：連結会計（3）</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

八田・橋本『財務会計の基本を学ぶ』 第13版 同文館出版 2021年

参考書・参考資料等

桜井久勝『財務会計講義』第22版 中央経済社 2021年

学生に対する評価

確認テスト（50%）と期末試験（50%）

〔科目名〕 市場調査論	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 専門科目 経営学科展開科目
〔担当者〕 行本 雅 Yukimoto Tadashi	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回の授業でお伝えします。 場所: 515 研究室	〔授業の方法〕 講義と演習
〔科目の概要〕 <p>本講義では、市場調査(マーケティング・リサーチ)でよく用いられる分析手法について基本的な知識を身につけて、どのような場合にどのような手法が用いられるかを理解するとともに、実際に初歩的な分析が出来るようになることを目標とします。</p> <p>市場調査では、経営課題に応じて回帰分析や因子分析をはじめとするさまざまな分析手法が用いられます。こうした手法を身につけるためには、実際にデータを用いて自分で手を動かしながら学習することが必要不可欠です。</p> <p>本講義では、市場調査で用いられる機会が増えてきているフリーの統計パッケージ R を用いて、実際に各自でデータを分析してもらいます。なお、テキストは GUI 環境を使用していますが、授業ではスクリプト(プログラム)を書いてもらいます。また、授業の最後には実際のデータを使って、R の実践的な使い方を学びます。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 <p>企業が経済活動を行う上で、自らの直面している市場の環境を把握したり、経営上の施策の効果を測定したりすることは基本となります。例えば、自らの商品が消費者にどのように思われているのか、市場で競合している商品はどれなのか、価格を変化させたときに売上や利益はどのように変化するのか、プロモーションの売上への効果はどの程度見込めるのか、といった分析に基づいて経営上の判断はなされます。さまざまなデータを収集して分析することで、こうした経営判断のための材料を提供するのが市場調査です。</p> <p>市場調査で用いられる定量的な分析手法の多くは、マーケティングに限らず経営学の他の分野や他の学問分野でも用いられています。また、実務上も広く用いられており、現実のビジネスや政策立案を定量的に理解する上でも必要となります。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>前半は、市場調査であつかうさまざまなデータの収集や管理、記述統計やグラフをもちいた基本的な分析が適切に出来るようになるのが目標となります。</p> <p>後半は、市場調査でよく用いられる回帰分析や因子分析、クラスター分析をはじめとする基本的な分析手法を、分析目的や使用するデータに応じて適切に使い、簡単なスクリプトを書けるようになることを目標とします。</p> <p>また、授業の最後には実際のデータを使って、R の実践的な使い方を学びます。</p>		
学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫 <p>この授業では、マーケティング・リサーチでよく用いられる分析手法について、R のスクリプトを書きながら実際に手を動かして課題をこなしてもらっています。</p> <p>最初は、つまづきながらも自分で手を動かしてやってみないと身につかないので、とにかく自分でやってみるようによみましょう。難しく感じる人もいますが、テキストで予習をしてから授業に臨むようにしましょう。</p>		
〔教科書〕 照井伸彦・佐藤忠夫(2022)『現代マーケティング・リサーチ 新版』,有斐閣。		

〔指定図書〕	
〔参考書〕 統計学のテキスト 森棟公夫・照井伸彦・中川満・西埜晴久・黒住英司(2015)『統計学 改訂版』, 有斐閣. R のコードを使ったマーケティング・リサーチのテキスト 里村卓也(2014)『マーケティング・データ分析の基礎』, 共立出版. 現実の POS データなどを使ったマーケティング・リサーチのテキスト 中原孝信 編(2021)『マーケティングデータ分析』, 朝倉書店. R によるデータ分析の基礎について実践的に解説したテキスト H.Wickham and G.Grolemund(2017) <i>R for Data Science</i> , O'REILLY(『R ではじめるデータサイエンス』, オライリー・ジャパン, 2017 年).	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 成績評価は、授業時の課題によって行います。	
〔評価の基準及びスケール〕 A: 80 点以上 B: 70～79 点 C: 60～69 点 D: 50～59 点 F: 49 点以下	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本講義では、経営系の学生を主な対象に、さまざまなデータ分析手法をとりあえず使えるようになってもらうことを優先します。このために自分で実際に手を動かしてもらうようにします。 学生のみなさんには、統計学や計量経済学など数理的な基礎にも興味を持って関連科目を受講されることをおすすめします。また、現在の市場調査では大規模なデータをあつかうことが増えており、プログラミングやデータベースの知識も必要になってきています。このため情報などの関連科目もあわせて受講されることをおすすめします。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 市場調査とは 内 容: 市場調査でどのような問題をあつかうかを学びます 教科書・指定図書: 照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第 1 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 市場調査データ 内 容: 市場調査で用いられるデータについて学びます 教科書・指定図書: 照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第 2 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): データ管理その 1 内 容: Access のサンプルデータ Northwind でデータベースについて学びます 教科書・指定図書: 使用しません

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):データ管理その2 内 容:Access のサンプルデータ Northwind でクエリについて学びます</p> <p>教科書・指定図書:使用しません</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):記述統計 内 容:基本的な記述統計について学びます</p> <p>教科書・指定図書:使用しません</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):グラフ 内 容:グラフによるデータの視覚的な把握について学びます</p> <p>教科書・指定図書:使用しません</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):サンプリング 内 容:サンプリングの方法について学びます</p> <p>教科書・指定図書:照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第3章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):調査票の設計 内 容:調査票の設計と Access のフォーム機能を使った調査票の作成方法について学びます</p> <p>教科書・指定図書:照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第4章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場反応分析 1:単回帰分析 内 容:価格が売上げに影響しているかを分析するための手法を学びます</p> <p>教科書・指定図書:照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第5章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場反応分析 2:重回帰分析 内 容:価格が売上げに影響しているかを分析するための手法を学びます</p> <p>教科書・指定図書:照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第5章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):知覚マップ:因子分析 内 容:消費者が製品に対してどのようなイメージを抱いているかを分析するための手法を学びます</p> <p>教科書・指定図書:照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第6章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):セグメンテーション:クラスター分析 内 容:マーケットをいくつかのセグメントに分けるための手法を学びます</p> <p>教科書・指定図書:照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第7章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):Rの実践的な使い方 1 内 容:Rでのプログラミングについて学びます</p> <p>教科書・指定図書:使用しません</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):Rの実践的な使い方 2 内 容:Rによるデータ・マネジメントとデータ可視化について学びます</p> <p>教科書・指定図書: Wickham and Grolemund(2017)第1章, 第3章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):Rの実践的な使い方 3 内 容:Rによるデータ・マネジメントとデータ可視化について学びます</p> <p>教科書・指定図書: Wickham and Grolemund(2017)第1章, 第3章</p>
試験	毎回の授業時の課題で評価します。

〔科目名〕 マクロ経済学	〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目 基礎科目
〔担当者〕 巽 一樹	〔オフィス・アワー〕 時間:授業終了後 場所:巽研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>「マクロ経済学」は一国の全体的な経済活動を対象として、国民所得、物価水準、失業率などについて研究する学問である。本科目では、最初に、国内総生産(GDP)の説明から始める。GDP はどのようなものによって構成されており、マクロ経済において、どのような意義を持っているのか説明する。次に、消費や投資の決定理論について説明する。続いて、GDP が決定する仕組みについて、マクロ経済モデルを使って説明する。最初はケインジアン・モデルの紹介から行い、IS—LM モデルと呼ばれる利率を考慮した分析へと発展させてゆく。</p> <p>後半の講義では、物価水準を扱った経済モデルを取り上げる。戦後日本の物価水準の推移を概観し、物価水準の変動にはどのような効果があるのか説明した上で、物価水準と失業率にはどのような関係があるのかについて検討する。</p> <p>講義の終盤では、経済成長の理論や対外経済取引を扱った経済理論について、学生の関心に応じて紹介する。特に、日本を含む先進諸国の経済停滞にはどのような要因があるのか、今後必要とされる経済政策について、検討を行う。</p>		
〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の大きな違いは個別の経済現象を分析の対象とするか、一国全体の国民経済を分析対象とするかにある。「ミクロ経済学」は家計の効用最大化行動や企業の利潤最大化といった個別の経済主体の最適化行動やその相互依存関係を分析対象としている。一方で、「マクロ経済学」は国民経済全体の経済活動を分析対象としている。例えば、国内総生産、雇用問題、物価変動、経済成長などが分析の対象となる。また、マクロ経済モデルは「ミクロ経済学」と比較し、現実を重視しており、政策的な意味を追求する傾向にある。</p> <p>「マクロ経済学」は「ミクロ経済学」とともに最も基礎的な分野である。これらは応用経済学と呼ばれる「財政学」、「金融経済学」、「国際経済学」、「労働経済学」における分析の基礎付けとなっている。「マクロ経済学」の理解を通じて、基幹科目の修得に役立てられることが期待される。また、マクロ経済モデルを学べば、GDP や物価水準の決定する仕組みについて理解できるようになり、新聞記事やニュースを正しく読み取る力が身に付けられる。官公庁や金融機関に就職したいと考えている学生にとっても、政策効果を分析する手助けとなる。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>中間目標はマクロ経済モデルを用いて、経済政策の効果について説明できることである。まず、消費・投資の決定リトンについて理解することを目指す。その次に、マクロ経済モデルにおけるGDP、利率、物価水準などマクロ経済変数が決定する仕組みについて理解することを目指す。それらの理論をもとに、経済政策によって、それらのマクロ経済変数がどのように変化するか分析できるようになることを目指す。経済学で扱う数学は難しいと思われがちであるが、講義時における問題演習を繰り返すことによって、着実な理解ができることを目指す。将来、公務員試験を受ける学生にとっても必要な力となる。また、今後履修する基幹科目における理解の助けとなる。</p> <p>最終目標は今後の日本経済及び世界経済に対する望ましい経済政策について提案できることにある。そのために、練習問題やディスカッションの際に、政策立案のためのトレーニングを行う。具体的には、理論と現実データの整合性に関する確認、身近な社会問題に対するマクロ経済理論を使った分析を行う。これらを繰り返すことによって、マクロ経済モデルに対する理解が深まるとともに、各自の希望進路に応じた実力を身に付けることができる。公務員を志望する学生にとっては政策効果の分析や政策立案力を高められるようになる。民間企業を志望する学生にとっても、経済動向を適切に把握する助けとなる。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕		

<p>〔教科書〕 福田慎一,照山博司 (2016). 『マクロ経済学・入門 第5版』.有斐閣</p>													
<p>〔指定図書〕 中谷巖,下井直毅,塚田裕昭 (2021). 『入門 マクロ経済学 [第6版]』.日本評論社</p>													
<p>〔参考書〕 N・グレゴリー・マンキュー(著), 足立英之,地主敏樹,中谷武,柳川隆(訳) (2017). 『マンキュー マクロ経済学 I 入門篇(第4版)』.東洋経済新報社 N・グレゴリー・マンキュー(著), 足立英之,地主敏樹,中谷武,柳川隆(訳) (2017). 『マンキュー マクロ経済学 II 応用篇(第4版)』.東洋経済新報社 齊藤誠,岩本康志,太田聰一,柴田章久 (2016). 『マクロ経済学 新版』.有斐閣 二神孝一(2017). 『マクロ経済学入門 [第3版]』日本評論社</p>													
<p>〔前提科目〕 特になし</p>													
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験 100%で評価する。期末試験の持ち込み資料は不可とする。</p>													
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>得点比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>80%~100%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70%~80%未満</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60%~70%未満</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>50%~60%未満</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>		評価	得点比率	A	80%~100%	B	70%~80%未満	C	60%~70%未満	D	50%~60%未満	F	50%未満
評価	得点比率												
A	80%~100%												
B	70%~80%未満												
C	60%~70%未満												
D	50%~60%未満												
F	50%未満												
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義中は問題演習及びディスカッションの時間を多く取る予定である。問題演習を通じて、着実な理解を目指していただきたい。疑問点については、講師への質問を積極的に行い、その都度解決していただきたい。また、ディスカッションでは、現実の経済データからどのようなことが起きているのか、どのような経済政策が望まれるのか、積極的に議論をしていただきたいと考えている。</p>													
<p>〔実務経歴〕 該当なし。</p>													
<p>授業スケジュール</p>													
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):授業の進め方、成績評価の方法について 内 容:授業の進め方、成績評価の方法、教科書の使い方について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書はしがき</p>												
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):GDP(国内総生産)、三面等価の原則 内 容:国民経済計算、三面等価の原則を通じて、GDP の概念について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第1章</p>												
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):「国内」の概念と「国民」の概念、名目値と実質賃金 内 容:GDP デフレーター、消費者物価指数など物価水準の指標について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第1章</p>												
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):ケインズ型の消費関数 内 容:可処分所得と消費の関係について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第2章</p>												
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約と消費 内 容:異時点間にわたる個人の消費と貯蓄の決定に関する理論「ライフサイクル仮説」及び「恒常所得仮説」について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第2章</p>												

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の貯蓄率と国際比較、「家計調査」でみた貯蓄率 内 容:日本の貯蓄率低下の要因について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第2章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の設備投資、投資の決定要因 内 容:企業の設備投資と利子率の関係について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第3章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):資本の限界生産性、資本の使用者費用 内 容:企業の投資増加による収入と費用について説明し、望ましい資本ストックの決定について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第3章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):投資理論、調整費用モデル、在庫投資 内 容:新古典派の投資理論、投資の調整速度、調整費用について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第3章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の資金調達、家計の資産選択、株価の決定理論 内 容:企業の資金調達、家計の資産選択について説明し、株価の決定理論について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第4章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):トービンの q 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資 内 容:トービンの q 理論について説明し、現実における投資の動きについて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第4章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):貨幣の機能、貨幣の概念、貨幣需要の動機、貨幣需要関数 内 容:貨幣の定義、貨幣の機能、マネーストック統計について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第5章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):ハイパワードマネーと貨幣の供給、貨幣量のコントロール方法 内 容:ハイパワードマネー、貨幣の信用創造プロセスについて説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第5章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):利子率の決定理論、テーラー・ルール 内 容:貨幣市場の需要と供給の均衡について説明し、利子率の決定について示す。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第5章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):ケインズ経済学の登場、有効需要の原理、乗数理論 内 容:ケインジアン・モデルを用いて、GDP の決定について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第6章</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線 内 容:財市場の需給均衡を満たす GDP と利子率の組み合わせを表す IS 曲線、貨幣市場の需給均衡を満たす GDP と利子率の組み合わせを表す LM 曲線について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第6章</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS—LM 分析、IS—LM 分析と財政・金融政策 内 容:IS 曲線、LM 曲線を用いて、財政政策及び金融政策の効果について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第6章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):景気循環と経済政策、トレンドの変動、IS—LM 分析における経済政策の有効性 内 容:マクロ経済において、経済政策がなぜ必要か説明し、財政政策と金融政策の有効性について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第7章</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):マクロ計量モデルの役割、マネタリズムの批判、非伝統的金融政策 内 容:近年の日本経済における金融政策について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第7章</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):財政政策の再考、国債の役割と問題点、日本の財政赤字 内 容:政府支出の拡大がもたらすコストと日本の財政赤字について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第8章</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):国債の中立命題、課税平準化の理論、日本の国債市場の動向 内 容:国際の中立命題について説明し、国債の現実にもたらす影響について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第8章</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):戦後日本の一般物価水準の推移、インフレーション 内 容:戦後日本の一般物価水準についてその推移を確認し、物価が上昇し続けること(インフレーション)について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第9章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):インフレのコスト、ハイパー・インフレーション、デフレーション 内 容:インフレがもたらすコスト、物価が低下し続けること(デフレーション)について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第9章</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働市場と失業、フィリップス曲線、自然失業率 内 容:失業率と物価変動の関係について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第10章</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):1990年代半ば以降の日本の失業率 内 容:近年の日本の失業率の上昇について説明し、その要因について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第10章</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済の成長、経済成長の源泉、経済成長理論 内 容:新古典派成長理論を用いて、経済成長率がどのようにして決定するのか説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第11章</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):成長会計、収束の概念 内 容:ソローの成長会計について説明し、経済成長の決定要因について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第11章</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):内生的経済成長理論、経済成長と所得分配 内 容:経済成長の要因の国際比較を通じて、経済成長に関する国家間の格差について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第11章</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際収支表、為替レート、国際通貨制度の推移 内 容:国際収支表の概念について説明し、為替相場制度の歴史的な推移と2つの制度の違いについて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第12章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):為替レートの決定要因、経常収支の決定要因 内 容:対外経済取引を含めたマクロ経済学の理論について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第12章</p>
試験	筆記試験の実施

〔科目名〕 統計学	〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目・基幹科目
〔担当者〕 七宮 圭	〔オフィス・アワー〕 時間:第1回授業でのアンケートから設定 場所:509 研究室	〔授業の方法〕 講義
<p>統計学は多分野において使用される共通の分析手法で、経済学では『計量経済学』の基礎であり、実証分析におけるデータ分析のための理論的な道具です。経済学の中でも各分野においてデータの特徴に合わせて独自の統計的手法が開発されているのですが、この授業で取り扱う統計学はそれらの手法の共通部分である記述統計学と推測統計学と呼ばれるものの基本的なものとし、さらに推測統計学については内容を標本理論に限定します。</p> <p>授業の大まかな内容として、記述統計学では観測したデータの特徴を掴むために代表的な値を計算や、表やグラフを作成する方法について学びます。推測統計学では確率論を背景にして、全体の一部分として観測したデータから観測できない全体の状況を推測するための理論や仮説検定などを学習します。また授業の中では推測統計学を理解するために必要な確率論も学習します。基本的には教科書の内容に沿って授業を行います。必要に応じて教科書に載っていない内容についても触れる予定です。</p> <p>このように内容が豊富ですので、授業の進捗状況や理解状況によっては、スケジュールで予定されている回帰分析は省略する場合があります。あらかじめ御了承下さい。</p>		
<p>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕</p> <p>計量経済学、実証経済分析などの統計学を基礎とした科目： 統計学はあくまでデータを分析のための道具です。そこにどのような経営学的あるいは経済学的な意味があるのかという解釈や説明をするためには、それぞれの専門分野の理論が必要になります。また各分野によって使用するデータに特徴があるので、分析の作法が異なることもあります。</p> <p>ファイナンスなどの確率論を使用する科目： 推測統計学の基礎にある確率論はファイナンスなどの確率論を使用する科目とほぼ共通のものです。</p>		
<p>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</p> <p>表やグラフなどの資料を見た時にその意味が理解できること、また統計学的に意味のある表やグラフを作成できること、新聞などで公表されている統計の数値の意味を理解できること、平均や分散の意味がわかること、自分で仮説を立てて統計的検定を行えるようになること、等々の統計学的な視点で考えることができるようになることが目標です。</p>		
<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</p> <p>授業評価のコメントで好評であったレジュメや授業での解説の内容と練習問題をさらに充実させることで、授業内容の改善を予定しています。また、授業中にスライドの画面上に手書きで作成する図をきれいに描くために、使用するパソコンを変更します。</p>		
<p>〔教科書〕 豊田利久・大谷一博・小川和夫・長谷川光・谷崎久志『基本統計学 第3版』東洋経済新報社 ISBN 9784492470831</p>		
<p>〔指定図書〕 なし</p>		
<p>〔参考書〕 大屋幸輔『コアテキスト 統計学 第3版』新世社 ISBN 9784883843077 白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの統計学 第2版』日本評論社 ISBN 9784535557901 P. G. ホーエル(著)、浅井晃、村上正康(訳)『原著第4版 初等統計学』培風館 ISBN 9784563008390 宮川公男『基本統計学 第5版』有斐閣 ISBN 9784641165960 村上正康・安田正實『統計学演習』培風館 ISBN 9784563008703 松原望・森本栄一『わかりやすい統計学 データサイエンスの基礎』丸善出版 ISBN 9784621306536 以上のように統計学の入門書は多数出版されているので他にも授業内にて適宜紹介する予定です。図書館などで例題や解説の文章を読んで、自分に合ったものを探すことをお勧めします。</p>		

〔前提科目〕

なし。ただし、経済統計と経済数学を履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

小テストと期末試験を予定しています。

テストでは平方根($\sqrt{\quad}$)の計算が可能な電卓の使用を許可しますが、スマートフォンなどの通信機器や関数電卓は使用不可です。

また、理解度を高めるために各授業末に練習問題を提示し、次の授業の開始時に解説を行う予定です。

〔評価の基準及びスケール〕

小テスト: 40%

期末テスト: 60%

として合計点を計算し、以下のように成績を評価します。

評価	点数の範囲
A	80 点以上
B	70 点以上 80 点未満
C	60 点以上 70 点未満
D	50 点以上 60 点未満
F	50 点未満

ただし、全体的に成績が悪い場合は点数の分布状況から範囲を適宜下方修正して評価を行います。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

統計学を習得するためには継続的な反復練習が必須です。教科書を利用しての予習・復習や練習問題を解くなどの努力を強くお勧めします。また、授業内では理解度を高めるために例題と練習問題を多めに解いていきます。平方根($\sqrt{\quad}$)の計算ができる電卓を用意しておくに立つでしょう。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、アンケート、度数分布 内 容: ガイダンス、簡単なアンケート、変数、度数分布、度数分布のグラフ 教科書: 第1章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 代表値① 内 容: いろいろな平均値、範囲と四分位範囲、標準偏差と分散 教科書: 第2章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 代表値② 内 容: 標準化変量、変動係数、相関係数 教科書: 第2章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 確率① 内 容: 基礎概念、標本空間、確率の定義と基本的性質 教科書: 第3章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 確率② 内 容: 加法定理と乗法定理 教科書: 第3章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 確率変数と確率分布① 内 容: 確率変数 教科書: 第4章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 確率変数と確率分布② 内 容: 期待値 教科書: 第4章

第8回	テーマ(何を学ぶか): 確率変数と確率分布③ 内 容: 同時確率分布① 教科書: 第4章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 確率変数と確率分布④ 内 容: 同時確率分布② 教科書: 第4章
第10回	テーマ(何を学ぶか): 正規分布と正規分布表① 内 容: 正規分布の特性、正規分布表の使い方 教科書: 第5章
第11回	テーマ(何を学ぶか): 正規分布と正規分布表② 内 容: 正規分布の特性、正規分布表の使い方 教科書: 第5章
第12回	テーマ(何を学ぶか): 標本分布① 内 容: 無作為抽出、標本平均の分布 教科書: 第6章
第13回	テーマ(何を学ぶか): 標本分布② 内 容: 中心極限定理 教科書: 第6章
第14回	テーマ(何を学ぶか): 標本分布③ 内 容: 正規母集団からの標本分布① 教科書: 第6章
第15回	テーマ(何を学ぶか): 記述統計学と確率論のまとめ 内 容: 第1回から第11回までの範囲のまとめと小テスト 教科書: 第1章から第5章まで
第16回	テーマ(何を学ぶか): 標本分布④ 内 容: 正規母集団からの標本分布② 教科書: 第6章
第17回	テーマ(何を学ぶか): 標本分布⑤と推定① 内 容: F分布、推定と推定量、推定量の性質 教科書: 第6章と第7章
第18回	テーマ(何を学ぶか): 推定② 内 容: 区間推定 教科書: 第7章
第19回	テーマ(何を学ぶか): 推定③ 内 容: 分散の区間推定 教科書: 第7章
第20回	テーマ(何を学ぶか): 推定④ 内 容: 比率の区間推定、最尤法 教科書: 第7章
第21回	テーマ(何を学ぶか): 仮説検定① 内 容: 仮説検定の考え方、正規母集団の平均の検定:母分散が既知の場合 教科書: 第8章

第22回	<p>テーマ(何を学ぶか): 仮説検定②</p> <p>内 容: 2種類の過誤、正規母集団の平均の検定:母分散が未知の場合</p> <p>教科書: 第8章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか): 仮説検定③</p> <p>内 容: 平均値の差の検定</p> <p>教科書: 第8章</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか): 仮説検定④</p> <p>内 容: 等分散の検定</p> <p>教科書: 第8章</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか): 仮説検定⑤</p> <p>内 容: 比率の検定</p> <p>教科書: 第8章</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか): 推測統計学のまとめ</p> <p>内 容: 標本分布、推定、仮説検定のまとめと練習問題</p> <p>教科書: 第6章から第8章</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか): 回帰分析①</p> <p>内 容: 回帰関係の意味、回帰モデルの諸仮定、最小2乗法</p> <p>教科書: 第9章</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか): 回帰分析②</p> <p>内 容: 最小2乗推定量の分布と性質、決定係数、数値例</p> <p>教科書: 第9章</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか): 回帰分析③</p> <p>内 容: 最小2乗推定量の分布と性質、決定係数、数値例</p> <p>教科書: 第9章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか): 総復習</p> <p>内 容: 講義内容の復習と練習問題</p> <p>教科書</p>
試験	<p>期末試験(筆記)</p>

[科目名] 応用ミクロ経済学	[単位数] 4単位	[科目区分] 基幹科目
[担当者] 河野秀孝	[オフィス・アワー] 時間： 月曜から金曜（毎日午後3時から5時まで、 その他の時間帯はメールでアポを取る）。 場所： 508 研究室	[授業の方法] 講義
[科目の概要] 本講義では、皆さんがミクロ経済学で、既に履修済みの基本的モデルの応用側面に焦点をあてます。我々にとって有用であるものはすべて「希少」です。これは天然資源に限られたことではありません。「希少性」は自ずと「(取捨) 選択」(即ち、「意思決定」)を不可避とします。また、「選択」や「意思決定」はその選択をする個人や組織の「目的」、「選択基準」、や「価値観」、や「価値体系」の明確化を必然的なものとします。応用ミクロ経済学では、このように「希少性」(即ち、制約条件)のもとでの「選択」問題を、論理的に、しかも、さまざまな問題に応用できるように、統一的に履修します。ミクロ経済学の分析概念、思考の枠組み、分析手法、予測の組み立て方、即ち、「科学する視点と方法」とその有用性を、さまざまな諸問題解決への応用を通じて学びます。また、近年の目覚ましい理論及び実証モデルの発展にも言及し、経済学の観点から、統一的・論理的分析ができるようになる事を目指します。		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 応用ミクロ経済学は、皆さんがこれまで履修した経済理論、特にミクロ経済学の応用で、毎日の経済現象を題材とした体系的論理的思考の訓練です。また、代表的モデルを思考の枠組みとして学習しながら、論理的思考を受身的に学ぶのではなく、少数の基本的概念から、少し進んだ分析的物語(モデル構築)を学生の皆さん各自が自力で作成できるようになることを念頭に、授業を進めるつもりです。簡単な論理的枠組みといえども、目的に応じた分析的物語作成の際、強力な力を発揮することを味わって頂きたい。さらに、一見すれば、正しいまともな議論と思われるものでも、必ずしも説得力が充分であるとは限らないことにも気づいてください。昨今、「説明責任の重要性」がますます認識される中、論理的思考力を高めることは、官民間問わず、ますます重要になって来ると考えます。講義を通じて、まずは、論理的思考の楽しさを味わってください。		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 私たちが住んでいる今日の世界では、経済に関する諸問題は、日々マスコミのニュースにもなっています。この事は、私たちの日常生活までも、経済的側面から多大なる影響を受けていることを示しているのです。本講義は、日々の私たちの生活への影響を、身近な事例として考えながら、皆さんを取り巻く経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようになることを目的とします。		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 授業をこれまで以上に分かりやすくするために、以下の改善・工夫をします。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 具体的例を出来るだけ多くする。 2. 重要なところは反復をする。 3. 定期的に講義の要点をもとに、宿題を課す。各自の理解度を認識してもらう。 		
[教科書] ハル・R・ヴァリアン著 佐藤隆三監訳『入門ミクロ経済 [原著第9版]』勁草書房、2015年。 ISBN 978-4-326-95132-1		
[指定図書] なし		
[参考書] ポール・ミルグロムとジョン・ロバーツ(訳 奥野正寛 他)「組織の経済学」NTT出版、1997年。		
[前提科目] 経済学基礎論、経営経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学。		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) 1回の定期試験(期末)により、成績を評価する。また、学期中に20回くらい出席状況を調べる。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 評価の基準として、80%以上がA、70%以上がB、60%以上がC、50%以上がD、50%未満をFとする。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 まずは、皆さんに論理的思考の楽しさを味わって頂きたい。出来るだけ身近な事例を挙げ、分かりやすく、また、興味を引くように授業の進め方を工夫するつもりです。 皆さんへの要望として、経済の諸問題に関心を持ち、少なくとも日本経済新聞の「経済教室」と「やさしい経済学」欄は、毎日読むようにし、授業には積極的に参加してください。</p>	
<p>〔実務経歴〕 製造業での実務経験を活かし、私たちの生活の身近な事例を考えながら、経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようにすることを目的とします。</p> <p style="text-align: center;">授業スケジュール</p>	
第1回 から	テーマ：9章 売買 教科書・指定図書
	テーマ：10章 異時点間の選択 教科書・指定図書
	テーマ：復習
	テーマ：11章 資産市場 教科書・指定図書
第10回	テーマ：12章 不確実性 教科書・指定図書
	テーマ：復習
	テーマ：13章 危険資産 教科書・指定図書
	テーマ：17章 オークション
第11回 から	テーマ：復習
	テーマ：26章 独占行動 教科書・指定図書
	テーマ：27章 要素市場 教科書・指定図書
	テーマ：復習
第20回	テーマ：28章 寡占 教科書・指定図書
	テーマ：32章 交換 教科書・指定図書
	テーマ：33章 生産 教科書・指定図書
	テーマ：
第21回 から	テーマ：34章 厚生 教科書・指定図書
	テーマ：復習
	テーマ：35章 外部性 教科書・指定図書
	テーマ：36章 情報技術 教科書・指定図書
第30回	テーマ：復習
	テーマ：38章 非対称情報 教科書・指定図書
	テーマ：続き
	テーマ：試験前復習
定期試験	期末試験

〔科目名〕 財政学	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 選択必修
〔担当者〕 木立 力	〔オフィス・アワー〕 時間: 開講時にお知らせします 場所: 木立研究室	
〔科目の概要〕 国税、地方税や社会保険料を財源として行われる政府の経済活動について学ぶ。 大きく4つの部分に分かれる。 第1にはミクロ経済学で学んだ「市場の失敗」の考え方を使得って政府の役割を理論的に説明する。 第2には日本および世界の債務累積の現状と財政破綻の可能性を、中央銀行の役割についての新しい理論を取り入れ平易に解説する。 第3には政府支出の項目の中から、受講者が関心を持ちそうな道路などの公共事業、医療、年金、介護、生活保護などの社会保障、小中学校の義務教育をはじめとする教育をとりあげ、日本における課題を具体的に検討する。 第4は日本の税制および最適課税などの税の経済理論を扱う。日本にしかない配偶者控除と女性労働について考察する。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 「財政学」を学ぶのではなく、政府の「財政」を経済学の視点で考えます。 経済学基礎論と、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましいが必須ではない。講義の中ではある程度数式などを用いるが平易に解説する。 「財政学」は財政制度や財政政策を重視した内容であり、「公共経済学」はよりミクロ経済理論を重視した内容である。 この講義で財政の大枠を把握した後に、社会保障については「社会保障論」で詳細を学ぶ。 国と地方の財政関係について学んだ内容は、「地域経済学」・「地方財政論」で学ぶ内容と関連する。 世界各国で中央銀行が国債を大量に購入し、金融政策との関連を強めている。「金融経済学」を合わせて履修してほしい。 税制についても多数回扱うので、経営学科の学生にとっても有用と考えている。 財政学は公務員試験、国税専門官試験の出題科目となっているので、出題が予想される範囲は講義で扱うこととする。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 (中間目標): “暗記”は案外大事である。 新聞やテレビに登場するさまざまな財政問題について、日常生活の必要性から、また国政選挙の投票の判断材料とするために、考えなければならない場面は多い。各種試験で問われる財政事情などに対応できる内容をとりあげる。また、各種試験で問われる財政理論や税理論に十分な水準の解説と問題練習を行う。 (最終目標): 事実を知っても、それらは年々変化する。理論は問題練習のためにあるのではない。 事実に対して他人が考えた意見を羅列するのではなく、新たな問題に直面した場合でも、経済学の視点から自分で財政の問題を考察する力をつけてほしい。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 財政の理論だけではなく、時事的な財政問題を取り入れたことはおおむね歓迎された。資料が多すぎるという意見もあった。資料については多少整理します。		

<p>〔教科書〕 なし</p>	
<p>〔指定図書〕 なし</p>	
<p>〔参考書〕 財務省「日本の財政関連資料」』など講義で多数紹介する。</p>	
<p>〔前提科目〕 経済学基礎論, ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 全部の回出席して財政問題についてしっかり考察することが重要であり、その成果としての小テスト1回と期末テストの結果のみで評価する。講義資料はアップロードする。出欠はとらないが、出席すれば理解が進むことを私は当然目指している。欠席した回の内容を私が補うことはしない。病欠など以外に就職活動や私用による小テストの欠席については、最終面接であっても追試も加点も一切行わない。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 80 点以上 A, 70 点以上 80 点未満 B, 60 点以上 70 点未満 C, 50 点以上 60 点未満 D, 50 点未満 F</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 受講者が日頃見聞きする財政の問題について考える気持ちが高まるような講義としたい。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府の活動 内 容: 財政が取り組む三つの機能について</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府の活動 内 容: 財政が取り組む三つの機能について</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府による資源配分 内 容: 市場の失敗について</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府による資源配分 内 容: 市場の失敗について</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本の財政の現状(1) 内 容: 現在の日本の財政状況について 財務省資料</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(2)</p> <p>内 容:</p> <p>財務省資料</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(3)</p> <p>内 容:</p> <p>財務省資料</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(4)</p> <p>内 容:</p> <p>財務省資料</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):予算制度</p> <p>内 容:日本の一般会計予算の決定過程について</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):費用便益分析</p> <p>内 容:費用便益分析の概要</p> <p>財務省資料</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):費用便益分析</p> <p>内 容:費用便益分析の概要</p> <p>配付資料</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):費用便益分析</p> <p>内 容:費用便益分析の概要</p> <p>配付資料</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の財政運営</p> <p>内 容:日本の近年の財政運営の実態</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):政府支出</p> <p>内 容:教育, 公共事業など支出項目の内容と近年の特徴</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):前半の復習と小テスト</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の税構造</p> <p>内 容:国と地方の税構造, 所得, 消費, 資産の割合についての日本の特徴</p> <p>『図説日本の税制』, など</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):所得税</p> <p>内 容:所得税と所得再分配について</p> <p>井堀6章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):所得税</p> <p>内 容:所得税のしくみと所得再分配について</p> <p>『図説日本の税制』</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):法人課税, 資産課税 内 容: 日本の法人課税と資産課税について</p> <p>『図説日本の税制』</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):公債の負担 内 容:国債と財政破綻の可能性について</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):年金(1) 内 容:日本と外国の年金制度</p> <p>小塩 8章など</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):年金(2) 内 容:年金財政の将来</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):医療 内 容:日本の医療保険と財政</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):医療 内 容:日本の医療保険と財政</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):地方財政(1) 内 容:日本の中央政府と地方政府の財政関係</p> <p>総務省『地方交付税のあらまし』</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):地方財政(2) 内 容:</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):行政経営 内 容:行政経営について</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):行政経営 内 容:行政経営について</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):財政とマクロ経済 内 容:景気安定化政策</p> <p>小塩 3章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):後半の復習</p>
定期試験	

[科目名] 経済特殊講義 I	[単位数] 2	[科目区分]
[担当者] 高柳友彦	[オフィス・アワー] 時間: 場所:	
[科目の概要] この講義では、幕末開港期から第二次世界大戦前後までの日本経済の経済発展のあり様を論じ、その特徴を紹介していきます。産業、貿易構造といったマクロ的な視点だけでなく、当時の人々の労働や消費のあり方などミクロ的な視点に焦点をあてて論じていきます。 また、講義では個々の地域に即した産業など地域経済の展開過程にも焦点をあてていきます。特に、地域経済の変容過程を国家の経済政策や日本における資本主義の展開の中で論じます。本講義では、青森県を含む東北地方の地域経済の展開に注目し、日本経済の発展の中で、東北地方がどのような役割を担い、また影響を受けたのか、東北開発をめぐる諸問題についても紹介していきます。(授業のスケジュールは、進行状況によっては変更されることもあります)		
「[授業科目群]・他の科目との関連付け」・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 私たちが生きている現実の社会・経済の動向を相対化するためには、歴史的な視点で長期的な変化を見ていく必要があります。本講義では、幕末開港期以降の日本経済の発展過程を概観するとともに、そのメカニズムの理解に努めていきます。 また、地域経済の担い手として将来を期待される受講生は、青森県など東北地方の地域経済・地域社会の実態に多くの関心を持つでしょう。本講義では日本経済の中での、東北地方の経済的位置やその展開のあり方など、地域経済の歴史的変化の過程を学ぶことで、地域の歴史・経済への理解を深めることができると考えます。		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 近代日本における日本経済の発展過程の特徴を時期毎に理解することで 経済発展のメカニズム(主要産業の展開) 人々の労働・生活のあり様 を学び、加えて 東北の地域経済の位置を理解すること 現在の地域経済の歴史的変容過程の理解 がこの講義の目標です。		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 例年いただいているコメントをいかして わかりやすい授業を目指していきます。 話すペースをゆっくりするとともに配布する資料も見やすいように改善します。 3コマ連続の授業なので、休憩を挟むなど、集中して授業に取り組めるように工夫します。		
[教科書] 毎回担当者がレジュメを配布するため、特に指定しない		

<p>〔指定図書〕 授業ごとに指示する。</p>	
<p>〔参考書〕 沢井実・谷本雅之『日本経済史』有斐閣、2016年 中西聡編『日本経済の歴史』名古屋大学出版会、2013年 三和良一『概説日本経済史 近現代 第3版』東京大学出版会、2012年</p>	
<p>〔前提科目〕 なし</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>毎回コメントカードを提出してもらいます。(授業は1度に3回分行う予定ですので、5回提出してもらいます)</p> <p>レポート(指定された文献を読み、感想を提出) A4, 3000字程度を予定</p> <p>期末テスト(論述問題)</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>レポート 30% テスト 70%</p> <p>ただ、毎回コメントカードを提出してもらいます。コメントカードの提出が2回以下の場合、成績評価に影響します。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>最低限の事実を理解することは必要ですが、年号や細かい事実を覚える必要ありません。 (出来事の順序、事実が持つ意味を理解することが大切です)</p> <p>特に、青森県を含む東北地方の経済・社会の歴史に興味を持ってください。</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 幕末維新の社会変動 内 容: ガイダンスならびに幕末開港による経済的影響を論じていきます。</p> <p>教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 明治初期の経済政策 内 容: 維新政府が行った国づくりの基本政策をとりあげます。</p> <p>教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 産業革命の展開 内 容: 日本経済の成長を牽引した諸産業の展開過程を学んでいきます。</p> <p>教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日清・日露戦後経営 内 容: 日清戦争、日露戦争時の国家財政・政策を概観します。</p> <p>教科書・指定図書 教員作成の資料</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第一次世界大戦期の日本経済 内 容: 第一次大戦と日本経済の発展との関わりを明らかにしていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 明治期における青森県の経済・社会 内 容: 経済発展をとげる中での東北地方の経済・社会の変容をみていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 1920年代の経済成長と恐慌 内 容: 1920年代における恐慌の様相と成長産業の展開をみていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金解禁と井上財政 内 容: 1920年代末に行われた井上準之助の経済政策を概観します。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第一次世界大戦期から1920年代における青森県の地域経済 内 容: 1910年代から20年代の東北経済の展開を明らかにしていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 世界恐慌と昭和恐慌 内 容: 世界恐慌・昭和恐慌による日本経済・地域経済(東北)への影響をとりあげます。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 高橋財政の展開 内 容: 昭和恐慌から脱出するための高橋是清の経済政策を概観します。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 恐慌下の青森県経済 内 容: 昭和恐慌下の青森県経済の様相について明らかにしていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 戦時経済への道 内 容: 日中戦争から太平洋戦争までの間の経済統制のあり様をみていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 東北振興政策の展開 内 容: 戦時期の東北振興政策の展開について、地域開発の様相を中心にみていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 戦時経済の展開とまとめ 内 容: 戦時経済の特集を組んだDVDをみます。 教科書・指定図書 教員作成の資料</p>
試験	

〔科目名〕 <p style="text-align: center;">ゲーム論</p>	〔単位数〕 <p style="text-align: center;">2 単位</p>	〔科目区分〕 専門科目 選択科目
〔担当者〕 <p style="text-align: center;">森 統 Mori Osamu</p>	〔オフィス・アワー〕 時間: 講義時間中にお知らせします。 場所: 非常勤講師控室 (5 階)	〔授業の方法〕 <p style="text-align: center;">講 義</p>
〔科目の概要〕 <p>社会においては、さまざまな主体がそれぞれに行動していますが、その行動は相互に影響を及ぼしあうのが通例です。たとえば、企業の経営戦略は、他の企業の経営戦略から影響を受けるとともに他の企業の戦略に影響を与えることにもなります。ゲーム理論は、経済や社会における行動主体の相互依存関係を踏まえ、各主体の意思決定とその帰結となる状況(均衡)を数学的なモデルを用いて分析するものです。</p> <p>ゲーム理論は、1928年のフォン・ノイマンの論文において誕生し、1944年のフォン・ノイマンとモルゲンシュテルンによる『ゲーム理論と経済行動』の出版において本格的に始まったとされますが、その後、目覚ましい展開を見せ、現在、経済学のみならず多くの学問分野で応用されています(岡田,2014)。</p> <p>本講義では、ゲームの理論の基礎的標準的な考え方をさまざまな例を用いて解説してゆきます。取り上げる予定の具体的な内容は以下の授業スケジュールで示されている通りです。講義は、理解を確実にするために演習問題を適宜活用して進めてゆきたいと考えています。</p> <p>なお、授業の進捗状況により、扱うテーマについて若干の変更や調整を行うことをあらかじめお断りしておきます。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 <p>近年、ゲーム理論はミクロ経済学や産業組織論の分析道具として不可欠なものとなっています。特に、寡占市場の問題においてゲーム理論による展開が分析の威力を発揮します。</p> <p>また、ビジネスの世界においても、その意思決定や行動様式のあり方についてゲーム理論的思考が注目されています。実際、さまざまな人間行動を解明するためにゲーム理論の考え方は極めて有用であり、同時に自身の意思決定や行動の指針として役立つものであると言えます。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>(中間目標) 受講者が、ゲーム理論の基本概念および基礎的理論の習得を目指します。</p> <p>(最終目標) 現実の経済・社会の問題の解明や制度設計に、ゲーム理論を応用できる思考力を身に着けることを目指します。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>説明をわかりやすくするため、よりきめ細かな内容についても詳しく説くようにし、計算の解説や例題解説を丁寧にしたいと考えています。また、できる限り問題演習を増やしたいと思っています。</p>		
〔教科書〕 <p style="text-align: center;">指定しません。</p>		
〔指定図書〕 <p style="text-align: center;">岡田章『ゲーム理論・入門 人間社会の理解のために 新版』有斐閣アルマ 2014 年 岡田章(監修・著)『ゲーム理論ワークブック』有斐閣 2015 年</p>		
〔参考書〕 <p style="text-align: center;">武藤滋夫『ゲーム理論入門』日経文庫 2001 年 渡部隆裕『一歩ずつ学ぶゲーム理論』裳華房 2021 年 その他の参考書・文献は、講義時間中に適宜紹介します。</p>		

<p>〔前提科目〕 特にありません。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験および小テストの結果によって評価します。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 期末試験及び小テストの結果を合わせて、100点満点で80点以上がA、70点以上80点未満がB、60点以上70点未満がC、50点以上60点未満がD、50点未満がFとします。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 数値例や図を多く使いながら、内容を直観的に把握しやすい説明を心がけたいと思います。 講義資料を配付する場合、資料は必ずしも完成されたものではなく、講義を聴いて内容を補い、完成させてゆく形になっていることがあります。毎回の講義で不明の部分を残さないよう心がけてください。また、復習をし、学んだことを定着させることを勧めます。 講義の中で適宜復習にあてる時間をとり、そこで演習問題を解きますが、これは試験の予行練習となります。 受講者の皆さんは、講義で用いた例以外にも学んだ理論が現実にもどのように応用できるかについて日頃から考えるようにしてください。</p>	
<p>〔実務経歴〕 実務経歴はありません。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):ゲーム理論とは? (付) 講義ガイダンス 内 容: ゲーム理論の基本用語、戦略形ゲームの種類</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):ゲームの戦略と均衡 内 容: ナッシュ均衡、支配戦略</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):ナッシュ均衡とパレート最適性 内 容: 囚人のジレンマ、公共財の供給ゲーム</p>
第4回	<p>第2章テーマ(何を学ぶか):混合戦略と マックスミニ戦略 内 容: 純戦略と混合戦略、混合戦略のナッシュ均衡、ゼロ和2人ゲーム、ミニマックス定理</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):展開形ゲーム(1) 内 容: 後ろ向き帰納法、ゲームの情報構造</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):展開形ゲーム(2) 内 容: 脅し戦略、部分ゲーム完全均衡</p>

第7回	テーマ(何を学ぶか):繰り返しゲーム 内 容:トリガー戦略とナッシュ均衡
第8回	テーマ(何を学ぶか):小テストを実施し、理解の確認を行う。テスト終了後解説を行う。 内 容:第1回～第7回の論題について出題。
第9回	テーマ(何を学ぶか):情報不完備ゲーム 内 容:ベイジアンゲーム、ベイジアン均衡、完全ベイジアン均衡、分離均衡と一括均衡
第10回	テーマ(何を学ぶか):交渉ゲーム 内 容:ナッシュ交渉問題と交渉解
第11回	テーマ(何を学ぶか):提携形ゲーム(1) 内 容:優加法的ゲーム、特性関数、コア、配分の支配
第12回	テーマ(何を学ぶか):提携形ゲーム(2) 内 容:3人対象ゲーム、シャープレイ値、投票ゲーム、シャープレイ=シュービック指数
第13回	テーマ(何を学ぶか):マーケットデザインとマッチング理論 内 容:GSアルゴリズム、安定マッチング、TTC法
第14回	テーマ(何を学ぶか):オークション 内 容:イングリッシュ・オークション、ダッチ・オークション、第1価格オークション、第2価格オークション、収入同値定理
第15回	テーマ(何を学ぶか):まとめ 内容:第9回～14回の主要内容の復習
試験	筆記試験

〔科目名〕 地域企業論 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 生田 泰亮 IKUTA Yasuaki	〔オフィス・アワー〕 時間: メールか直接アポイントメントを 場所: 1305 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>「地域に根ざした企業の経営を学ぶ」が本講義のテーマである。地域企業論 I では「地域と企業の基本的関係」「企業の構造と機能」「地域の産業構造と事業戦略」を理解するための基本的な概念枠組を学ぶ。また事例を紹介しながら「地域で企業を経営する」ための基礎的な知識や理論、昨今の地域と企業に関する動向を学ぶ。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>複眼的思考を身につけなければ、地域のビジネス・リーダー、コミュニティ・リーダーとして活躍することは難しい。本講義は、1年次で学んだ内容を基本としつつ、多くの選択必修科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」であると認識してほしい。本講義で新たな知見を得るとともに、これまで学んだ講義の復習であり、これから学ぶ講義にとっては予習となることが多々あるだろう。関連づけ、反復することで「有効な思考法」として身につく。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 地域企業論 I, II の両講義を通じて、以下のような目標とする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域の経済、産業、市場、企業の動向を理解するための専門用語を理解し「基礎知識」を身につける。 (2) 地域企業がおかれた社会、市場、産業などの「環境分析」のための基本的な理論を身につける。 (3) 地域企業の経営政策、事業戦略についてケース・スタディを行い、その成果として「問題解決策の立案」としての「戦略策定」や「政策提言」ができる。 		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>「説明がわかりやすい」「質の高い講義内容」といった高い評価が多数ありました。一方で少数ながらも、これらの高い評価と相反する様な意見もありました。可能な限り対応していきますので、質問や相談は早めに遠慮なくお願いします。なお、シラバスに記載し、講義中にもお伝えしている事項について、十分に理解されずに受講されている方が見受けられます。履修されるか否かは、シラバスをよく読み、初回の講義での説明をよく聞き、よく検討し、ご理解いただいた上で決めてください。受講態度の悪い学生(遅刻、欠席)、周囲の迷惑(私語)になるような行為には厳しく対処します。</p>		
〔教科書〕 ・なし。毎回資料を配布。		
〔指定図書〕 <ul style="list-style-type: none"> ・三戸浩、池内秀己、勝部伸夫『ひとりで学べる経営学 (改訂版)』文真堂、2021年。 ・塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男『経営管理 [新版]』有斐閣、2009年。 ・M.E.ポーター著、竹内弘高訳『競争戦略論 (I) (II)』ダイヤモンド社、1999年。 ・O.E.ウィリアムソン著、浅沼万里、岩崎晃訳『市場と企業組織』日本評論社、1980年。 その他、適宜指示、紹介する。		
〔参考書〕		
〔前提科目〕 <p>「経営学基礎論」を履修し、単位取得していること。また「有効な思考法」を身につけるためには、経済学、財務分析などの基礎知識も必要となる。関連する科目を履修している、あるいは今後の履修科目について計画的に考えたうえで、履修することを強く推奨する。特に秋学期の地域企業論 II を受講することも念頭に本科目を受講することを強く推奨する。</p>		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>理解度テスト (20%) 課題レポート (30%) 複数回実施する予定。詳細は講義内で説明する。 学期末の定期試験 (50%) ※講義進行の妨げとなる行為があり、注意を聞き入れない場合は、当該学生の本科目の評価を「F」とする。 無断欠席や課題レポートの未提出については、評価において大幅に減点する。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>80%以上 A 79-70% B 69-60% C 59-50% D 49%以下 F</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>ポイントを絞りつつも他の科目との関連性をしっかりと解説し、他の専門科目を深く学ぶ動機づけになるように心がけたい。毎回のテーマ、キーワード、問いやトピックに対して、疑問を持って講義に臨んでほしい。</p> <p>秋学期の地域企業論Ⅱでは『中小企業白書』を取り上げ、統計データの分析、地域における企業経営に関するケース・スタディ等を行う。こうしたことを通じて、地域企業を取り巻く環境分析、最新の動向を読みとく力、企業経営における戦略策定、地域産業への政策提言を行う力を身につけることを期待している。そのためには、地域企業論Ⅰでの学習内容が基礎となるので、この点も留意して履修してほしい。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ (何を学ぶか) : イントロダクション 内 容 : 講義内容と進め方について (※講義についての説明を行うのでシラバス持参のこと)</p>
第2回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 現代社会における地域と企業 (1) 現状と課題の概観 内 容 : 地域社会に与える企業の影響を考える。 なぜ、ねぶた祭りに企業は協賛するのか?</p>
第3回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 現代社会における地域と企業 (2) 基本概念の整理 内 容 : 経営経済学的な「地域社会」の理解 (地域、市場、産業、政府・自治体、企業、個人)</p>
第4回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 地域社会と企業 (1) 地方と都市と企業の歴史的考察 内 容 : 農村社会と近代都市、工業都市をキーワードに コミュニティとアソシエーション、2つの原理とその重層性について学ぶ</p>
第5回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 地域社会と企業 (2) われわれの生活と地域、企業 内 容 : 人口問題を中心に地域社会と企業の関係を考える。「極点化社会」「表日本と裏日本」</p>
第6回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 地域社会と企業 (3) 現代のコミュニティ問題と地域企業 内 容 : 労働、雇用機会の変容、地域社会を支える企業、業種転換・市場拡大を試みる中小企業</p>
第7回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 理解度テストと前半のまとめ 内 容 : 講義時間内に基礎知識の定着のために理解度テストを実施する。前半のまとめを行う。</p>

第8回	<p>テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（1）企業の成長・発展段階、企業の存在意義の変容</p> <p>内 容：経営体として企業を理解するための基礎的概念(企業、経営、事業)を学ぶ</p>
第9回	<p>テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（2）様々な企業観と企業の種類</p> <p>内 容：経済学的、経営学的な企業観、法的制度としての企業、その種類について学ぶ</p>
第10回	<p>テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（3）利益から考える企業の存在意義</p> <p>内 容：財務会計学的な企業理解、「利益」の現代的意義(マルクス、ウェーバー、ドラッカー)</p>
第11回	<p>テーマ（何を学ぶか）：事業論（1）資源、技術、商品、市場からの環境分析</p> <p>内 容：経営資源や技術、商品、市場の観点から事業を考える。</p>
第12回	<p>テーマ（何を学ぶか）：事業論（2）産業の立地条件</p> <p>内 容：M.E.ポーターの理論を中心に、競争要因、競争優位性、産業の立地条件を学ぶ。</p>
第13回	<p>テーマ（何を学ぶか）：事業論（3）企業間関係論、戦略的提携の視点</p> <p>内 容：産業構造を理解するために、組織間関係の理論（企業集団、系列化、戦略的提携）を学ぶ。</p>
第14回	<p>テーマ（何を学ぶか）：事業論（4）競争のない新たな市場開拓 ブルー・オーシャン戦略</p> <p>内 容：競争市場から独自の新たな市場空間を目指すための諸概念を学ぶ。</p>
第15回	<p>テーマ（何を学ぶか）：春学期全体の振り返りとまとめ、秋学期に向けての課題</p> <p>内 容：</p>
試験	

〔科目名〕 自治体経営論	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 選択必修科目
〔担当者〕 遠藤 哲哉 Endo Tetsuya	〔オフィス・アワー〕 時間:授業時間以外、随時 場所:大学院棟、1301 研究室	〔E-mail〕 tetsuya@b.nebuta.ac.jp
〔科目の概要〕 <p>地域社会に生きる人々の生命と安全を守り、全ての人々が幸せでやりがいのある仕事を行い、住みよい社会を創造していくために、どのような自治体経営における諸施策と地域マネジメントを行っていけば良いか。それらは、地域政治、行政及び経済の課題であると同時に、我々一人ひとりの行動や志にかかっている。特に今日では、社会起業家や政策起業家の台頭に焦点があてられることがあるように、地域に生きる人々一人ひとりの創意工夫、活力、ケアの精神、そしてまた（社内を含む）起業やイノベーション創発のためのコミュニティ形成等が重要である。</p> <p>自治体経営における課題克服の途は、このように、未来に向けてどれだけ「地域経営」的センスを持ち、イノベーションを起し、力を併せ実践できるかどうかにかかっている。授業では、自治体経営を考察する際に重要であると考えられる「地域経営」、「地域イノベーション」、「地域リーダーシップ」に関する考え方を自治体経営との関係で学び、日米比較の観点や諸事例を挙げながら理解を深める。</p> <p>具体的には、地域価値創造、人材、地域リーダーシップ、協働、起業・新ビジネス創出、地域企業とのパートナーシップ、地域ガバナンス、PPPなど最近の自治体経営、地域行政を巡る動向を紹介し、学際的観点から地域社会における経営改革プロセスを明らかにし、その未来を考える。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕 <p>自治体経営は、様々な領域と深く結びついている。なぜならば、地域に生きる人々の豊かな生命を育み、新たな地域社会の未来を創造するための営みに関係しているからである。地域の一人ひとりが主役であり、潜在的な可能性を引き出し、日々成長を続け、新しい自己と地域社会を創造していくのである。そのために、なにが必要となるか、関連諸科学の成果を活用し究明していく。</p> <p>したがって、この科目では、地域社会において重要な役割を果たしている自治体経営について、主として地域イノベーションの創発、行政改革、地域リーダーシップ等の観点から把握し理解を深める。そのために、自治体経営に隣接する諸科学の成果をも援用しつつ、学際的にアプローチする予定である。この科目を学ぶことによって、諸君は、地域社会に生きる一市民として、自治体経営の役割と意義を再検討することが期待される。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 最終目標 自治体経営の様々な改革動向を踏まえて、さらに改革を行っていく上で必要と思われる内容を、地域イノベーション、リーダーシップ、関連する地域経営等の諸観点から理解する。 中間目標 自治体経営に関連する地域イノベーション、地域経営の具体的なケースを、事例に沿って理解し、その意義と役割について、理解を深める。特に、近年の財政危機の中にあつて、様々な改革動向が存在している。その実態を知ることによって、将来の改革展望についての認識を新たにできる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <ul style="list-style-type: none"> ・従来ほぼ毎回授業簡易レポートを提出させているが、受講生の理解度、及び状況を考慮しながら、レポート形式を検討したい。 ・映像の補助教材を使用してきたが、今後、学生の関心、状況に応じて活用し、理解の一助にしていきたい。 ・評価について、コメントしている学生がいるので、より適切な説明、提示を行なっていくことにする。 		
〔教科書〕 <ol style="list-style-type: none"> ① 遠藤哲哉『「地域経営」における価値創造:新しい自治体経営を志向して』現代図書、2019年。 ② 遠藤哲哉（編著書）『自治体経営と地域イノベーションⅠ』アクセス21出版有限会社、2022年。（②については、授業中に書籍を貸し出します。また②は電子書籍としても入手可能。方法については、授業の中で伝えます。） 		

〔指定図書〕

横石知二『生涯現役社会のつくり方』ソフトバンク新書

〔参考書〕

アンドレ・シャミネ『行政デザイン』ビー・エヌ・エヌ新社
P. センゲ『学習する組織——システム思考で未来を創造する』英知出版
クリスチャン・ブッシュ『セレンディピティ:点をつなぐ力』東洋経済新報社
リチャード・セイラー&キャス・サンズティーン『NUDGE 実践 行動経済学 完全版』日経BP版
矢口 芳生『地域経営論』農林統計出版
童門冬二・村瀬誠『村瀬誠の自治体職員世直し志士論』地方自治ジャーナルブックレット
上山信一『行政の経営改革—管理から経営へ』第一法規出版
宮本憲一『地方自治の歴史と展望』自治体研究者
松下圭一『日本の自治・分権』岩波新書
佐々木信夫『自治体政策学入門』ぎょうせい
田村明『まちづくりの実践』岩波新書
新藤 宗幸『行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書
今井照『地方自治講義』ちくま新書
金井利之『自治制度』東京大学出版会
徳坂邦夫編著『シティマネージャー制度論—市町村長を廃止する』埼玉新聞社
山下祐介『地域学入門』ちくま新書
斎藤 慎『社会起業家～社会責任ビジネスの新しい潮流』岩波書店
ムハマド・ユヌス『貧困の無い世界を創る～ソーシャルビジネスと新しい資本主義』学陽書房
チームくまモン『くまモンの秘密』幻冬舎
山内道雄『離島発 生き残るための10の戦略』NHK出版
岸川政之『高校生レストランの奇跡』伊勢新聞社
高野誠鮮『ローマ法王に米を食べさせた男 過疎の村を救ったスーパー公務員は何をしたか?』講談社
清原慶子『三鷹が創る「自治体新時代」—21世紀をひらく政策のかたち』ぎょうせい

随時、授業中に紹介します。

沢山の参考書を紹介するので、この機会に読破して欲しい。

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

- ・ 授業後、簡単な授業レポートの提出か小テストを行う予定です。
- ・ 評価は、試験、授業レポート、小テスト、授業への参加等から総合的に判定します。

〔評価の基準及びスケール〕

- ・ 試験、授業レポート・小テスト、及び授業への参加度等、全体を通して評価します。
配点は、中間テスト 30 点、期末テスト 40 点、授業レポート・小テスト・授業への参加 30 点、合計 100 点です。
- A: 100～80 点
B: 79～70 点
C: 69～60 点
D: 59～50 点
F: 49 点～

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

グローバル化と少子高齢化、情報化の進展という社会の構造変動の中で、どのような地域社会を構想していけば良いか、未来の社会を描き検討する授業にしたいと考えています。

自治体経営には、様々な改革ドラマが始まっています。ぜひ、そうした動向を知り、自治体経営への理解を深めて下さい。また、この科目をきっかけに、実際に地域づくりの現場に行ったり、多くの関連書籍、文献を読破して、見聞を広めて欲しいと思います。なお、英文の資料も、使用する。

〔実務経験〕 自治体	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション～自治体経営論の射程 内 容: 科目の概要、自治体経営、地域経営、地域価値創造、地域リーダーシップ、地域行政の役割、地域社会の再創造 教科書・指定図書 資料配布
第2回	テーマ(何を学ぶか):新たな社会への模索 地域イノベーション、地域リーダーシップとの関連で 内 容: 自治体経営と地域経営 教科書・指定図書 資料配布
第3回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 システム、制度の改革 内 容: 自治体経営と地域経営(1) 教科書・指定図書 資料配布
第4回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 中央集権から地方分権へ 内 容: 自治体経営と地域経営(2) 教科書・指定図書 資料配布
第5回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 組織論、学習する組織への変革目指して 内 容: 自治体経営と地域経営(3) 教科書・指定図書 資料配布
第6回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 米国の事例に学ぶ 内 容: 地域社会課題と自治体経営(1) 教科書・指定図書 資料配布
第7回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 米国の事例に学ぶ 内 容: 地域社会課題と自治体経営(2) 教科書・指定図書 資料配布
第8回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 中間まとめ 内 容: 自治体経営と地域経営振り返り 教科書・指定図書 資料配布
第9回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営におけるキーパーソン(1) 内 容: グローバルな創造的経営:地域リーダーシップ(1) 教科書・指定図書 資料配布
第10回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営におけるキーパーソン(2) 内 容: グローバルな創造的経営:地域リーダーシップ(2) 教科書・指定図書 資料配布
第11回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営におけるキーパーソン(3) 内 容: グローバルな創造的経営:地域リーダーシップ(3) 教科書・指定図書 資料配布
第12回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営と関連理論(1) 内 容:組織文化、組織変革 教科書・指定図書 資料配布
第13回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営と関連理論(2) 内 容:政治と行政、経営の関係 教科書・指定図書 資料配布
第14回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営と関連理論(3) 内 容 戦略的行政経営の実践 教科書・指定図書 資料配布
第15回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と展望 内 容 まとめ (対話、イノベーション、創造、学習、成長、リーダーシップ、構造と全体システム) 教科書・指定図書 資料配布
期末試験	

〔科目名〕 地域社会論 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 佐々木 てる	〔オフィス・アワー〕 時間:授業開始時に指示 場所:授業開始時に指示	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 青森県に限らず、人口減少地域においては観光を中心とした「交流人口」を増加させるための、取り組みや企画が考えられている。その中でも特に、各地方地域には独自の祭礼(都市型の祭り)が存在し、それを通じた観光客の誘致を行っている。その経済効果は地域 GDP の数%に上ることもあり、地域にとってはかかせない資源となっている。 青森市に関してはいえば、それは「ねぶた祭」であり、この祭りでは毎年のべ 300 万人がおとずれている。ではこうした祭りはいかに創りあげられているのか。そしてどのような歴史を持つのか。さらに地域市民はどのように祭りにかかわっているのか。これらの問いについて解説することを通じて、地域社会そのものの仕組みを理解していくこととする。 本講義では「ねぶた祭」を通じて、文化伝統の創出や継承、人口減少対策、経済効果、日常文化の再生産といった地域の様々な側面をみていくこととする。また本年は特に、地域活性化と祭礼についての関係性に注目する。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 自分が住んでいる地域の「市民」としての意識を持ち、現在指摘されている問題が自分の将来、そして自分の家族にとってどのような意味を持つのか、そして問題の解決策を考えるのは学生にとって非常に重要なことである。これは学科を問わず、個々人が考える必要があるだろう。 こうした理解から、この講義での具体的な内容は、将来就職した後に、新しいアイデアをより専門的で、地元根付いた視点から提出するとき役に立つといえる。特に人口減少と観光を結びつけて考える上では必須の講義となる。具体的な事例を他の事例と比較しつつ、普遍的な考えを学ぶことによって、将来的にはワールドワイドな視点に生かすこともできようになるだろう。 扱うテーマは青森県、青森市ではあるが、それを比較社会的な視点から分析することを学ぶことで、様々な応用が可能になる。なお考え方の基本は社会学的な発想を基本としているため、教養科目「社会と人間」を受講していることが望ましい。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 最終目標:地域における問題、課題を自ら発見し、提出し、それに対する解決策を提示できるような思考を養う。特に、人口減少対策としての自分なりにチャレンジしたいことを、具体的な祭りやイベントを通じて行う思考実験のレベルで提出していくこと。また青森県の事例のほかにも、自分なりに同様の事例を見つけ、自ら分析できる力を養うこと。 中間目標:身の回りの文化や資源について「何」があるのか、もう一度気づくことができるようになること。そしてその資源を生かす思考を作ること。なお特に前半は理論的な視座を理解することが最初の目標となる。具体的には伝統の構築、文化人類学的な祭礼研究、社会学的な地域社会学的な視点である。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業のテーマ、内容について、本年度も第一回の授業の際にテーマについてしっかり説明する。そのため第一回目の授業に受講予定者は必ず出席し、講義内容を確認することを義務付ける。そのうえで受講するかどうかを決定してほしい。特に、なぜ「ねぶた祭」をあつかうのか、「ねぶた祭」の分析で何をみていくのかを話す予定である。その点をしっかり理解することが望ましい。 また成績評価の基準をこれまで以上に分かりやすくするため、成績評価の方法についてもより詳しく説明する。		
〔教科書〕 特になし		
〔指定図書〕 特になし		
〔参考書〕 下記の本を参照することが望ましい。 宮田登／小松和彦 『増補版 青森ねぶた誌』青森市、2016年 河合清子 2010『ねぶた祭 ——“ねぶたバカ”たちの祭典』角川書店		
〔前提科目〕 特にないが、「社会と人間」を受講しているのが望ましい。		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。コメント用紙は主に0～5点で、評価を行う。また中間時に小テストを行う。なお毎回出席はとる予定でいる。成績評価はこれらの得点と期末試験時の得点を合算したもので算出する。 ・コメント用紙は一方的な講義にならないようにしているためのものでもある。授業への感想意見なども積極的に書いてほしい。修正できることはその次の週から取り入れて、修正していく。 ・欠席が多いものは、単位取得が不可能であることを前提としている。 ・試験期間に試験を行う予定でいる。出題内容は授業内容に関するもの。主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。 ・授業に関して興味がないもの、また私語が多いものは受講する必要はないと考えている。 	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験60%、コメント用紙30%、中間テスト10%として採点する。 A～Fの評価は本学の規定に準ずる。 	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>第一回目の授業時に成績評価の方法、講義の進め方、内容、注意事項、変更点について説明する。そのため、受講予定者は必ず出席すること。</p> <p>前期講義に関しては、特に青森県、青森市のまつりをテーマとし、具体的な日常生活と関連したものを扱う。こういった日常の話題を自分の出身地の文化・風習や、日常生活に結びつけて考えること、すなわち比較できる能力を求めている。また事例を別の事例に応用して、文化発信、ビジネスチャンスなどに結びつけられるか常に考える力が必要といえる。本講義では受動的に、教科書的なことを学ぶのではなく、自らの想像力と発想力をより豊かにするという考えで授業の取り組んでほしい。</p> <p>なお担当者の専門領域は「社会学」であり、社会学的な視点を理解する力も求められる。そのうえで、経営、経済学との違いを理解し、応用できるよう自らの力で考える姿勢を求める。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域と向き合う</p> <p>内 容: ガイダンス 地域社会を考えることの意味。具体的には「ねぶた祭」を通じて何を学ぶか、講義全体のビジョンと主旨を説明する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森文化を考える視点: グローカル文化を考える</p> <p>内 容: 地域文化論の基本的な考えを理論的な視座から学ぶ。その際に、人口減少対策としての「交流人口」「循環人口」「共生人口」の概念について学ぶ。同時にグローバルな視点を考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 祭りとは何か: 基本知識①</p> <p>内 容: 基本的な歴史を学ぶ。歴史学、民俗学的な視点からの重要性もあわせて紹介する。この回は特に講義に必要な基礎知識を紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 祭りとは何か: 基本知識②</p> <p>内 容: 現代的なねぶた祭の構造について学ぶ。そこに関わる人々と社会構造を考える。基本的には地域社会学的な視点から、日常生活におけるイベント等についての意味づけを考えていく。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日常文化と祭礼①</p> <p>内 容: 都市型の祭礼としてのねぶた祭を考える。特に理論的な視座を学ぶ。比較社会学的な視点を重視し、他の祭礼との比較も考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日常文化と祭礼②</p> <p>内 容: 青森ねぶた祭の日常性を考える。地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日常文化と祭礼③</p> <p>内 容: 前回に引き続き地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。特に青森に根差した企業の活動を紹介し、地方における企業経営と職場についても考える。教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 前半のまとめ、小テスト。</p> <p>内 容: 前半に学んだ祭礼、地域社会学的な理論的視座、企業経営と祭りに関する視点を振り返りまとめていく。同時に前半の理解度を小テストなどによって確認する。 教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の活動①: 地域メディアとねぶた</p> <p>内 容: ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していく。日常的な実践が、大きな企画に結びつき、地域の文化を創り上げていることを学ぶ。またねぶたを取りあげるメディアに注目する。 教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の活動②: ねぶた祭を支える人々、組織</p> <p>内 容: 地域活動を考える第二回目として、ねぶた祭に主体的に関わる人々の実践例を紹介する。特に、ねぶた祭を支える企業や、組織などについて紹介していく。祭りを通じた地元産業の在り方について学ぶ。 教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の活動③: 他の祭礼との比較</p> <p>内 容: 前回までの地域社会の活動を踏まえた上で、青森市以外の地域の祭礼との比較を行う。特に日本各地の祭礼が、どのように地域と結びつきながら開催されているかを学ぶ。 教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設①: ねぶた師という仕事</p> <p>内 容: この回から地域文化が、伝統や文化財になっていくことの意義を考える。まさしく地域の特徴、伝統が創り上げられていくことの重要性を考える。特にこの会は「ねぶた師」に注目する。 教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設②: 造形物としてのねぶたアート</p> <p>内 容: 前回に引き続き、伝統や文化財について考える。この回は特にねぶた師の技術に注目し、それがいかに伝統文化として認識されているか、さらには新しいアートを生み出しているかを考える。 教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設③: 文化の外部化</p> <p>内 容: 地域文化がパッケージ化され、外部で使用される事例を考える。具体的には首都圏で行われている「ねぶた祭」を紹介しつつ、青森との比較を行う。これによって「祭」の文化としての役割を考える。 教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の未来にむけて。</p> <p>内 容: 講義を総括しつつ、地域社会の課題、未来、可能性について考えていく。特に具体的な事例から普遍的な思考を養うための理論的視座をいかに構築していくかを考える。 教科書・指定図書</p>
試験	

〔科目名〕 会計学基礎論（経営学科・地域みらい学科）	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 専門科目 基礎科目
〔担当者〕 池田 享誉 Ikeda Yukitaka	〔オフィス・アワー〕 時間： 最初の授業中に通知 場所： 研究室(514)	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>会計情報は経営意思決定・投資意思決定の要であり、会計はビジネス言語と呼ばれている。ビジネス言語を知らずして、ビジネス社会で成功することはできない。</p> <p>本科目「会計学基礎論」は、多くの学生にとってこのビジネス言語を学ぶ第1歩であろう。ここで学ぶことは、会計数字をより良く読めるようになるために、まずは会計数字がどのように作られているのかについて、つまりビジネス言語の文法を学ぶことにする。そして、実際に自分で帳「簿記」入をし、会計情報を作成することによって、ビジネス言語を肌で感じ取ってもらおうと考えている。そして、簿記能力を簿記資格という見える形にしておくことを薦めたい。履歴書に記入された簿記資格は、将来において就職活動を行う際、ビジネス言語を修得した証として役に立つからである。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>「会計学基礎論」は青森公立大学におけるすべての会計関連科目の基礎となる科目であり、特に1年次秋学期の「商業簿記」、「財務会計論」、「工業簿記」へと直接つながる科目である。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>「会計学基礎論」では、簿記に力点をおいた授業を行う。</p> <p>最終目標：日商簿記検定3級レベルの複式簿記の修得 期末試験も日商簿記検定3級と同レベルの内容を出題する。</p> <p>中間目標：日商簿記検定4級レベルの複式簿記の修得</p> <p>* 日商簿記検定試験は、6月、11月、2月に実施されている。春学期は4月～7月なので日商簿記検定試験は一度しか受けられないが、6月に日商簿記検定3級に合格することを目指して欲しい。</p> <p>* 商業高校出身であって、すでに日商簿記検定2級に合格しており、なおかつ先の学習を希望するものに対しては別途対応するので申し出ること。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>学生の授業評価で、「復習用のプリントが用意されており良かった」、「TAがいて質問できて良かった」、「とてもわかりやすく丁寧に教えてくれる」、「進むのが速い」という意見を受けました。今年も例年通り、復習用のプリントを用意しますし、TAも準備しています。難しいことを分かりやすく説明しますので、例年皆さん非常によく勉強してくれています。今年度講義を受ける皆さんもぜひ頑張ってください。「進むのが速い」という点についてですが、昨年以上に学生の皆さんの理解度を確認しながら進めていこうと考えています。周りの学生に遅れないようにしっかりついてきて下さい。</p>		

〔教科書〕 『ALFA 3 commercial Bookkeeping』 大原簿記学校 (テキスト、問題集、解答)	
〔指定図書〕 なし	
〔参考書〕 授業の中で適宜紹介する。	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 小テストを数回と期末試験を課す(持込不可)。 レポートは課さない。 6月の日商簿記3級合格者には特典を与える(必ず合格証のコピーを提出すること)。	
〔評価の基準及びスケール〕 小テスト20点、期末試験80点、A \geq 80点、B \geq 70点、C \geq 60点、D \geq 50点、F<50点として評価する。 (期末試験のウェイトが非常に高いことに注意。)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 この科目は、本学で学ぶすべての会計関連科目の基礎となる科目なので、学生諸君が授業内容をどれだけ理解できているかを確認するために小テストを行う。この小テストにより、学生諸君自身も自分の理解度をチェックし、各自計画を立てて学習を進めて欲しい。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ (何を学ぶか) : 簿記を学ぶにあたっておよび貸借対照表 内 容 : 授業の紹介および貸借対照表 教科書 : 第1章
第2回	テーマ (何を学ぶか) : 貸借対照表と損益計算書 内 容 : 貸借対照表と損益計算書の作成 教科書 : 第1章
第3回	テーマ (何を学ぶか) : 勘定、仕訳、試算表 内 容 : 勘定の理解、仕訳の練習と試算表の作成 教科書 : 第2章
第4回	テーマ (何を学ぶか) : 商品売買① 内 容 : 商品売買に関する取引の記帳について学ぶ。 教科書 : 第3章

第5回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 商品売買②</p> <p>内 容 : 商品売買に関する取引の記帳について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第4章</p>
第6回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 商品売買③</p> <p>内 容 : 商品有高帳について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第4章</p>
第7回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 商品売買④</p> <p>内 容 : 商品有高帳について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第4章</p>
第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 第7回までの理解度の確認および現金預金①</p> <p>内 容 : 確認テストおよび現金預金に関する取引について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第5章</p>
第9回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 現金預金②</p> <p>内 容 : 現金預金に関する取引について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第5章</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 手形①</p> <p>内 容 : 手形に関する取引について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第6章</p>
第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 手形②</p> <p>内 容 : 手形に関する取引について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第6章</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 有形固定資産</p> <p>内 容 : 有形固定資産に関する取引について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第7章</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 債権・債務①</p> <p>内 容 : 債権・債務に関する取引の記帳について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第8章</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 債権・債務②</p> <p>内 容 : 債権・債務に関する取引について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第8章</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 第14回までの理解度の確認および株式会社の会計</p> <p>内 容 : 確認テストおよび株式会社に関する取引について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第9章</p>
第16回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 消費税等</p> <p>内 容 : 消費税等に関する取引について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第10章</p>
第17回	<p>テーマ (何を学ぶか) : その他の費用・収益</p> <p>内 容 : その他の費用・収益について学ぶ。</p> <p>教科書 : 第11章</p>

第18回	テーマ (何を学ぶか) : 試算表 内 容 : 試算表の作成について学ぶ。 教科書 : 第12章
第19回	テーマ (何を学ぶか) : 伝票 内 容 : 伝票の作成について学ぶ。 教科書 : 第13章
第20回	テーマ (何を学ぶか) : 第19回までの理解度の確認および証憑 内 容 : 確認テストおよび証憑について学ぶ。 教科書 : 第13章
第21回	テーマ (何を学ぶか) : 決算 内 容 : 決算について学ぶ。 教科書 : 第14章
第22回	テーマ (何を学ぶか) : 決算 内 容 : 売上原価の算出について学ぶ。 教科書 : 第15章
第23回	テーマ (何を学ぶか) : 決算 内 容 : 売上原価の算出の続きおよび貸倒引当金について学ぶ。 教科書 : 第15章
第24回	テーマ (何を学ぶか) : 決算 内 容 : 減価償却について学ぶ 教科書 : 第15章
第25回	テーマ (何を学ぶか) : 決算 内 容 : 経過勘定科目について学ぶ 教科書 : 第15章
第26回	テーマ (何を学ぶか) : 決算 内 容 : その他の決算修正 教科書 : 第15章
第27回	テーマ (何を学ぶか) : 決算 内 容 : 精算表の作成 教科書 : 第15章
第28回	テーマ(何を学ぶか):貸借対照表と損益計算書 内 容 : 貸借対照表と損益計算書の作成。 教科書 : 第16章
第29回	テーマ (何を学ぶか) : 決算 内 容 : 貸借対照表と損益計算書の作成。 教科書 : 第16章
第30回	テーマ (何を学ぶか) : 会計学の世界 内 容 : 財務会計・管理会計・監査・経営分析・原価計算・工業簿記・税務会計・非営利組織会計・自治体会計・政府会計等 教科書 :
試験	電卓のみ持ち込み可

〔科目名〕 経済学基礎論 a (経営学科 1 年次・地域みらい学科2年次対象)	〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目 基礎科目(必修科目)
〔担当者〕 権 克裕、河野秀孝 Kamba, Katsuhiko, Kawano, Hidetaka	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業中にアナウンスします。 場所: 権研究室、河野研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 経済学は、私たちの消費から生産、政府の行動まで、身の回りのさまざまな出来事に密接に関係しています。本科目は、これから学んでいく経済学がどのような学問かということをおぼ科目です。授業は、主に次の3つのパートから構成されています。 (1) 経済学的な考え方: 経済学は現実社会を理解し、その問題点の対処法を考える学問といえますが、その際、どのような視点で、どのような問題意識をもち、どのように論理を展開するのでしょうか。社会科学としての経済学の基本的な考え方を学びます。 (2) ミクロ経済学: 経済社会を構成する私たちが、何を、どれだけ購入するのか。そのためにどれだけ働き、生産を行うのか。そこに問題があるとすれば、どのように対処するのか。個々の消費者の行動と企業の行動、市場の効率性、市場の失敗と政府の役割について考えます。 (3) マクロ経済学: 失業や金融財政政策など、日本経済全体に関わる問題を理解するためには、個々の主体の行動だけでなく、経済全体を俯瞰する巨視的な視点も必要となります。そのために必要な考え方、知識を身につけます。 なお、前半 15 回を河野が、後半 15 回を権が担当します。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 経済学基礎論は、今後 4 年間で学んでいく経済学のすべての科目の基礎となります。経済学にはミクロ経済学、マクロ経済学、公共経済学、財政学、労働経済学、国際経済学、金融経済学など、さまざまな分野があり、それらの諸分野は 1 年生の秋学期以降に勉強します。本科目は、それぞれの分野がどのように関連しているのかを示すガイドラインとしての役割も果たします。本科目を通して、経済学の考え方に触れ、経済学に興味をもってほしいと思います。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標: 経済学の基礎的な知識を身につける テキストでは経済学の基礎的な考え方として、十大原理というものを設定しています。まず、この原理を理解することが最初の目標となります。 最終目標: 経済学的な視点から物事を考える力を身につける 新聞で取り上げられるような様々な社会や経済の問題について、自分なりの問題意識で、経済学に則して考えることができるようになることが最終目標です。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 「黒板の字が小さくて見えにくい」、「声が小さい」等のコメントがありました。文字の大きさに注意し、板書するようにします。説明の際、声量・マイクの音量に注意します。		
〔教科書〕 N.G.マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー入門経済学 第3版』東洋経済新報社、2019年。		
〔指定図書〕 N.G.マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー経済学I ミクロ編 第4版』東洋経済新報社、2019年 N.G.マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー経済学II マクロ編 第4版』東洋経済新報社、2019年 齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久、「マクロ経済学 New Liberal Arts Selection」新版、有斐閣、2016年		
〔参考書〕 J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著、藪下史郎他訳『スティグリッツ入門経済学 第4版』東洋経済新報社、		

2012年。 N. Gregory Mankiw (2021). <i>Principles of Economics, 9th Edition</i> . Boston: Cengage.	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験および小テスト(もしくは課題)の成績を用いて総合的に評価する予定です。	
〔評価の基準及びスケール〕 評価 得点比率 A 80%~100% B 70%~80%未満 C 60%~70%未満 D 50%~60%未満 F 50%未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 経済学に限りませんが、物事を理解するためには、関連する知識を単に収集するだけでなく、その土台となる基本的な考え方を身につけることも大切です。授業で説明することをただ暗記するのではなく、なぜそうなるのか、論理展開の経緯を大切にしてください。自分で考え、理解してはじめて、知識が自分のものとなり、財産となります。 講義は以下のスケジュールに沿って進めますが、授業の理解度によっては、スケジュールを変更することもあります。	
〔実務経歴〕 河野 秀孝： 製造業での実務経験を活かし、私たちの生活への海外からの影響を、身近な事例と考えながら、日本を取り巻く国際経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようになることを目的とした授業です 樺 克裕： 旧通産省での実務経験を活かし、消費から生産・政府の行動まで、身の回りのさまざまな出来事に密接に関係している経済学がどのような学問かを学ぶ授業です。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)：人々はどのように意思決定するのか 内 容：経済学の十大原理(ミクロ的視点) 教科書 1章
第2回	テーマ(何を学ぶか)：人々はどのように影響しあうのか、経済は全体としてどのように動いているのか 内 容：経済学の十大原理(市場の機能と政府の役割、マクロ的視点) 教科書 1章
第3回	テーマ(何を学ぶか)：経済学者はどのように考えるのか 内 容：科学としての経済学、経済モデル 教科書 2章
第4回	テーマ(何を学ぶか)：交易(取引)はすべての人々をより豊かにする 内 容：生産可能性、特化と交易 教科書 3章
第5回	テーマ(何を学ぶか)：交易(取引)はすべての人々をより豊かにする 内 容：機会費用、比較優位 教科書 3章

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):完全競争市場における買い手の行動 内 容: 市場、需要曲線、個人の需要と市場の需要、需要曲線のシフト</p> <p>教科書 4章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):完全競争市場における売り手の行動 内 容:供給曲線、個人の供給と市場の供給、供給曲線のシフト</p> <p>教科書 4章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):需要と供給を組み合わせる 内 容:均衡、需要・供給のシフトと均衡の変化、価格による資源配分</p> <p>教科書 4章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):価格規制が市場に及ぼす影響 内 容:価格の上限・下限は市場の成果にどのような影響を及ぼすか</p> <p>教科書 5章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):価格変化に対して需要量(供給量)はどれだけ反応するだろうか 内 容: 需要(供給)の価格弾力性とその決定要因、需要(供給)の価格弾力性の計算</p> <p>教科書 5章付論</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):課税が市場に及ぼす影響 内 容:売り手と買い手に対する課税は市場の成果にどのような影響を及ぼすか</p> <p>教科書 5章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):買い手が市場に参加することで得られる便益 内 容:支払許容額、需要曲線を用いた消費者余剰の測定</p> <p>教科書 6章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):売り手が市場に参加することで得られる便益 内 容:費用と売る意志、供給曲線を用いた生産者余剰の測定</p> <p>教科書 6章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場の効率性と市場の失敗 内 容:市場の効率性、市場の失敗と政府の役割</p> <p>教科書 6章、7章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場の効率性と市場の失敗 内 容:第14回講義の続き</p> <p>教科書 6章、7章</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済全体の豊かさの測定(1) 内 容:小テストおよびマクロ経済パートのイントロダクション</p> <p>教科書 8章</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済全体の豊かさの測定(2) 内 容:GDP の測定</p> <p>教科書 8章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済全体の豊かさの測定(3) 内 容:名目 GDP と実質 GDP の違い</p> <p>教科書 8章</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):物価水準の変動について(1)</p> <p>内 容:GDP デフレーターと消費者物価指数</p> <p>教科書 9章</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):物価水準の変動について(2)</p> <p>内 容:インフレーションの影響に対する経済変数の補正</p> <p>教科書 9章</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):国家間における生活水準の大きな違いの原因(1)</p> <p>内 容:生産性の役割</p> <p>教科書 10章</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):国家間における生活水準の大きな違いの原因(2)</p> <p>内 容:生産性を決定する諸要因</p> <p>教科書 10章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):失業問題について</p> <p>内 容:失業率の測定、失業の諸要因</p> <p>教科書 10章(付論)</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):貯蓄、投資と金融システムについて(1)</p> <p>内 容:金融システムを構成する各種制度</p> <p>教科書 11章・11章(付論1)</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):貯蓄、投資と金融システムについて(2)</p> <p>内 容:貯蓄と投資の関係</p> <p>教科書 11章</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):貯蓄、投資と金融システムについて(3)</p> <p>内 容:金融市場における資金の需給均衡</p> <p>教科書 11章(付論2)</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):開放マクロ経済学の基礎概念について(1)</p> <p>内 容:財と資本の国際フロー</p> <p>教科書 13章</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):開放マクロ経済学の基礎概念について(2)</p> <p>内 容:実質為替相場と名目為替相場</p> <p>教科書 13章</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):開放マクロ経済学の基礎概念について(3)</p> <p>内 容:購買力平価</p> <p>教科書 13章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめ</p> <p>内 容:第16回～第29回までのまとめと理解の確認</p>
試験	<p>期末試験を行う</p>